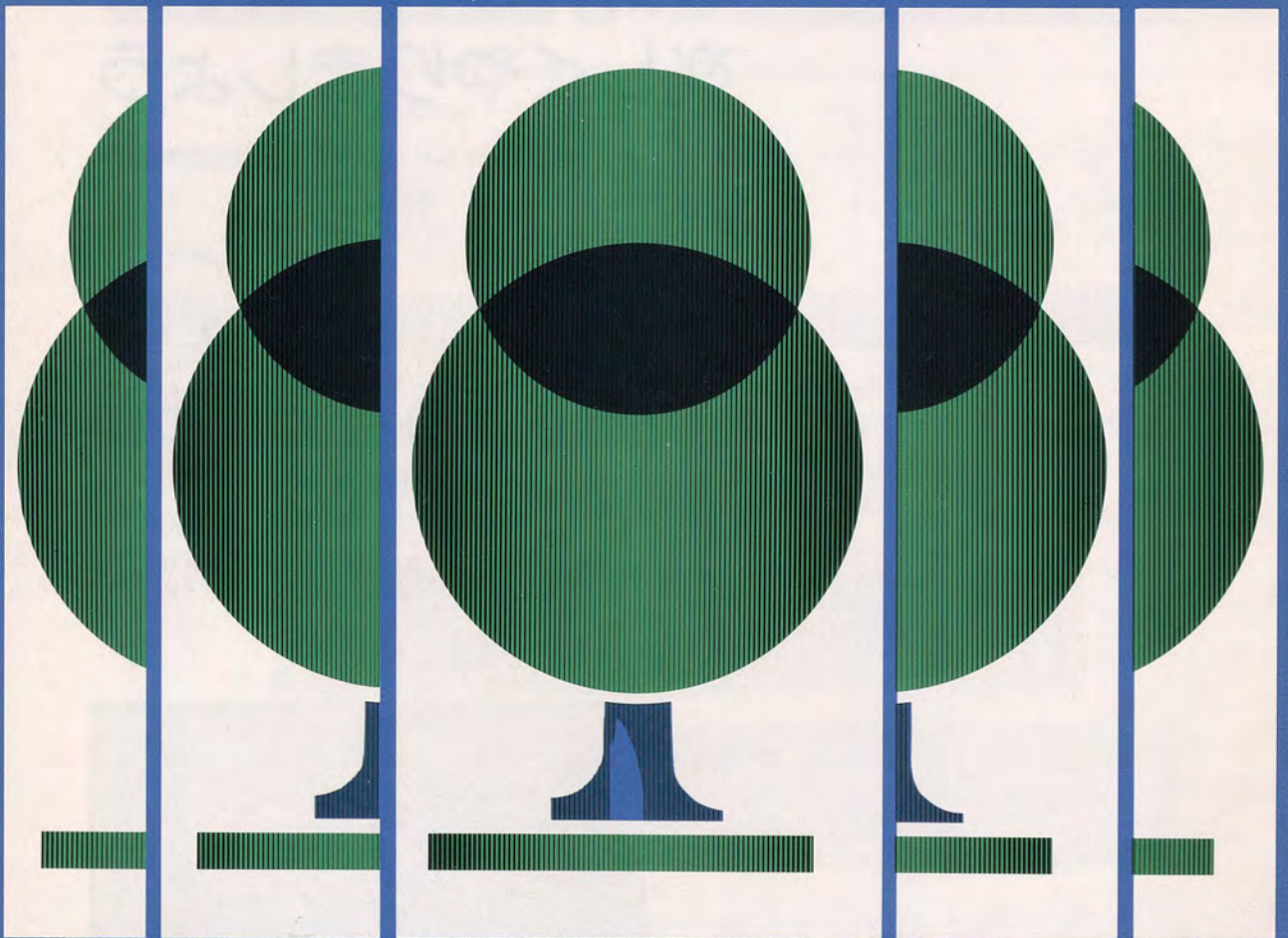


淀江

DENKO



1981

大阪経済大学同窓会

母校創立50周年をひかえて(磯野会長)	11
転機を迎えた大学(鈴木学長)	28
淀江刊行に寄せて(藤田理事長)	7
同窓会本部だより 新同窓会長に磯野齊氏	8~11
支部の活動 各支部総会だより	12~25

集まっています

商業建築同窓会/24 寮友会/76 千鳥会/83
七期会/68 八期生会/72 九期生会/80 一三会/70
学園の近況 鈴木亨新学長誕生/26 推薦入学57年度より実施/30
疎水が遊歩道に/29 体育会活動状況/31

グラビア 母校全景 黒正先生胸像碑文

特集 創学当時の母校を偲ぶ 2~7

思い出話 創立当時の母校を思う/48 朝比奈隆先生と昭和商音楽部/51
「昭和商学報」創刊当時の思い出/52 斜にみたる黒正イズムと私/55
恩師を囲んで ゼミ短信 34~39
偲び草 奥村日出男先生/32

淀江カルチャー

「経世新論」について…大槻弘/46 私と絵画…竹林祐吉/58
 私と書…鷹野千代子/58 夢ぼとけ…太田一澄/59

随想・ひろば 30余年間のお心尽しに感謝/14 経大北陸卒業生懇談会に思う/18
 上新庄駅周辺/40 第二の人生を楽しむ時期に闘病の日々/74
 もっぱら油絵に専念/79 中国漫歩/60

北から南から 66~84

コミュニティ広場

信念に生きる男/64 目をひく墨光/64 異色の同窓会員/65 新刊紹介/61
 トピックス・山本弘氏が奈良市長に/22 八木米次氏が西宮市長/23

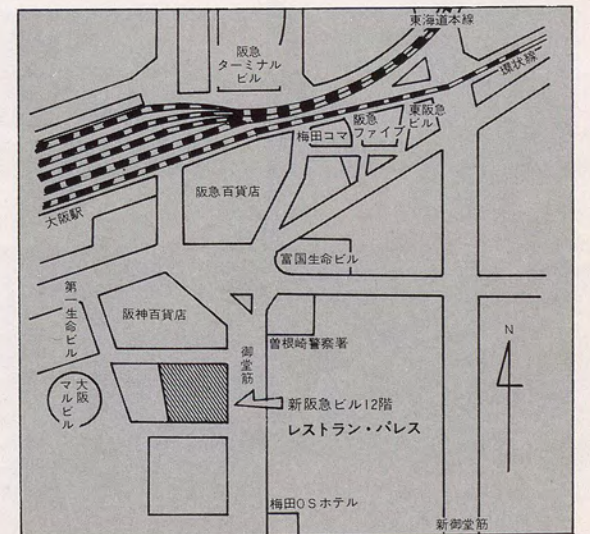
新同窓会名簿が完成しました/62

味めぐり・お店拝見 和楽亭/65 花屋別館/77 わたや/77 欽山/82

総会で逢いましょう!!

お誘いあわせのうえ
 楽しくやりましょう

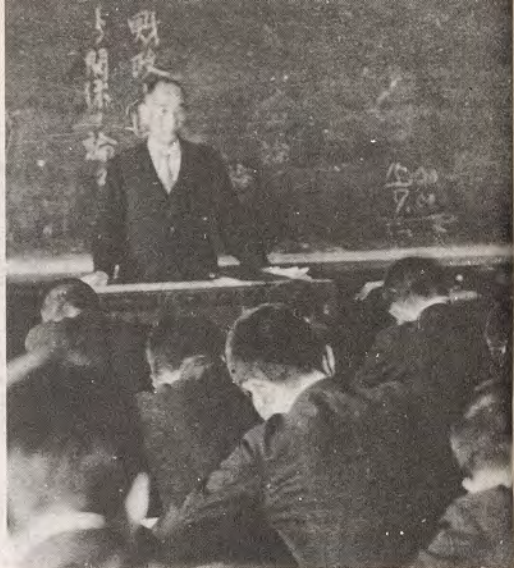
とき 昭和56年11月3日(文化の日)
 ところ レストラン・パレス
 (大阪梅田 新阪急ビル12F)
 11:00~14:00



向学心に燃えた先輩たち

大阪経済大学は輝しい五十周年を目前に控え、母校が歩いてきた歴史の中で、浪華高商創立当時の経緯とそれに関する史実は、最も不明確で資料が散乱しており、口伝にたよる以外に知るよすががなく、また、浪華高商から昭和と高商への転換期も、その一つであるといえるでしょう。

そこで、この記事は、昭和五十五年十一月十五日、奥村、河野、建林、藤原先生をお招きして、お話しただいた記録から作文したのですが、人間の記憶には限度があり、あるいは誤謬、誤記があるとは思いますが、歴史の一齣として、あるいは一つの記録としてお受取りいただければ幸いです。



創学当時の母校を偲ぶ

大阪経済大学は間もなく五十周年という一つのめでたい節目を迎えようとしています。では、正確に、いつから数えて五十年かということになると、いろいろ考えなければならぬことになるでしょう。

学校の何周年という場合には、いろいろの考え方があり、ある場合は、寺小屋あるいは塾の時代から、ある場合は、旧制の実業専門時代から、またある場合は、旧制の専門学校時代からと各種各様、その主観的立場で決定し、その祝典も、必ずしも、その年限に合わせて行っているとは限っていないのではないのでしょうか。

大阪経済大学も遅れば、大阪経済専門学校、大阪女子経済専門学校、

昭和高等商業学校、浪華高等商業学校という変遷を経ているわけです。ここでいつも問題になるのが、大阪経済大学の創立時は、浪華高商(昭和七年)創立時か、昭和と高商(昭和十年)創立時かということですが、前者をとれば、本学創立者は黒正蔵先生とならず、後者をとれば、浪華高商は本学に関係のない学校になってしまつてしまいます。しかし、視点を変えれば浪華高商というものが存在していたからこそ、昭和と高商という学校が創立されたともいえるのではないのでしょうか。

このように考えると、歴史というものには総ての場合、前史というものがあるとともに、また、裏面史と

- 出席者
- 奥村 日出男先生(本学名誉教授・故人)
 - 河野 実 先生(広島大学名誉教授)
 - 建林 正 喜先生(岐阜経済大学学長)
 - 藤原 光治郎先生(本学教授)
 - 同窓会・比企 重(7) 前田悦子(13)



雨天体操場を教室にした時代も...

そして、学校が三度目の正直で、現在の上新庄に移転したので、さぞやと期待して行ってみると、木造の雨天体操場が一望千里の広野の真ん中にぼつんと立っているだけです。教室はそれを板で間仕切りがしてあるだけという有様でしたが、今までのことを思えば、まだ学校らしかったといえるでしょう。

そこで、浪華高商の廃校問題などという大命題は別として、学校の設備に対する不満が学校内部の恥部の暴露とあいまって、学生諸君が向学心に燃えていただけに、学校当局の優柔不断さに業をにやして、河内長野の観心寺へたてこもる、ストライキという結果となって現われたわけです。それは昭和八年の夏でした。なぜ正確に覚えているかといいますが、六、七、八月と三カ月分の給料がもらえず、目覚時計を五十銭で質入れして、しのいだことがあったからです。

いずれにしても、観心寺にたてこもって長期籠城を覚悟していた学生諸君たち、主として一年、二年だったが、翌日の中村、三浦、藤原先生の説得で、一応、納得できないままのうちにも帰校し、授業が再開され

いうものも存在していることは真実だと思います。したがって、現在、われわれが前史あるいは裏面史を正確に認識しておく必要はあるとして

雨天体操場を仕切り教室に

浪華高商から昭和と高商への変名について

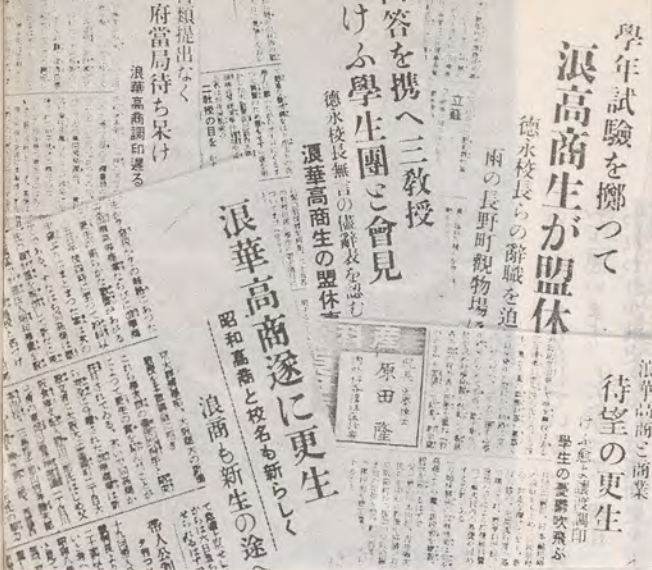
当時、昭和七年には私立の高等商業学校は全国的には数える程しかなかったことは史実が示す通りです。その状況下で、浪華高商という私立の高商が南区瓦屋町の「日の本足袋」の旧社屋を本拠として、学生募集をし発足したわけですから、民間会社のそれも旧社屋を借りて開校したのですから、校舎という概念から

も、何年説ということにこだわらず、学校側で準備が整い次第五十周年祭を盛大にお祝いしたいものであります。

はほど遠いものであったことは事実です。しかし、学生は、向学心に燃えた年輩者が相当いたのを覚えていませう。中には当時、ライオン歯磨の工場長やひげをはやした中学校の先生や生がいて、「先生」といって授業中に手を挙げられると「いやーな」気持ちをしたものでしたし、それを防ぐために大きな声で講義をして権威を保つように努力したりしたものでした。

それほど向学心に燃えていた学生だけに、授業は真面目であったと記憶しますが、何んといつても設備、その他は高商とは名ばかりのオンボロ学校であったことは事実で、学生との間にはいろいろ苦しいエピソードや楽しいことがありました。そして、一年を何とか過ぎ、福島の大阪工科大学へ移転したわけですが、これとても寺小屋に毛の生えた程度のものでした。

この頃に、当時、連日にわたって大阪朝日新聞紙上に浪華高商の恥部が紙面をにぎわしたわけですが、その当時のことをご存知の諸先生がたが、少なくとも残念は誠に残念です。すなわち、浪華高商から昭和と高商へ再就職された諸先生がたが、



たが、一方では、前にもいった浪華高商の恥部が文部省でも表面的に問題化し、いよいよ廃校寸前に追いこまれたことは事実でした。この問題も源を訪ねれば、浪華高商の内紛で、新聞の切抜き活字の貼り合わせによる文部省への内部告発が原因だったようです。

このようにして起こるべくして起こった内紛は、大阪朝日に大々的に報道され、当時の社会面をにぎわしたのも事実です。学生諸君も、再度、ストライキの態度を示していたが、慎重論派が強硬論派を説得して、最悪の事態は避けられたといえます。

万一、あの時点で、再度ストライキを強行していたら、大阪府も、大阪市も中央行政官庁への対策には苦慮し、あるいは、今日の大阪経済大学は存在していなかったかも知れないといえるのではないのでしょうか。

いままで話してきたような情勢の中で、大阪府あるいは大阪市として、教育という立場から在学生の若者の将来のことに思いをはせて、苦慮していたようですが、一方、中央の文部省でも同じような主旨で、その収拾策に苦慮し、当時の大阪市立商科大学学長であった河田博士に廃校でなく再興という線での尽力を要請してきたようです。そして、当時、同校教授であった菅野博士が仲介役を努められて、当時、京都帝国大学の若手教授の黒正、巖博士に資金援助を要請されたと聞いています。一方では、京阪電鉄の有田社長は、上新庄の現在の校地を浪華高商に寄付した関係上、浪華高商の責任者である徳永水と再興を基本路線として折衝されたようです。このよつな人々の善意と教育への情熱が実り、各方面のご協力もあり、その間には誌面に表現できない諸努力の結果、浪華高商の学生をそのまま引きついで、校長に黒

ず、当時の文部省の方針がそうであり、また、社会的風潮がそうであったわけでは、すなわち、中等学校現在の高校普通科は進学のための一課程であり、商業、工業、農業学校（現在の高校商業科、理工科、農業高校）などは進学しないで一日も早く社会に出て、「お国のために尽す」という方針であったためだと思えます。

のようにして新入生を選考入学させると必ず発展するのではないかと、うのが主旨であったわけでは、すなわち、中等学校現在の高校普通科は進学のための一課程であり、商業、工業、農業学校（現在の高校商業科、理工科、農業高校）などは進学しないで一日も早く社会に出て、「お国のために尽す」という方針であったためだと思えます。

昭和商高として新発足し、黒正校長が着任されてからのある日、河野先生は黒正校長、菅野学監に対して、学校の将来について提言をされたそうです。しかし、いかに賢明な河野先生でも、まさか第二次世界大戦があり日本が敗戦して、今日の六・三・三・四制からなる新制大学制が施行されることを、想定されたいえのことではないと考えますが、今後の私学の発展政策について、河野先生が学校当局に提案されたのは、三分法の採用ということだそうです。すなわち、新入生は入学試験の成績順位による上位三分の一、スポーツで全国的に有名な選手の中から三分の一、残りの三分の一は社会的に名誉、地位のある人の、あるいは、地方財閥の子弟を入学させる、という案だったようです。私学の場合、こ

ところが、新制大学になってからは、本学を問わず、私学の本質を忘れてしまったといっても過言ではないと思われま。その中であつて、この三分法を上手に、一時的にでも活用した大学が戦後の新制の私学として頭角をあらわし、全国的に知名度を高めていることは周知の通りでしょう。そういう意味では、本学は国公立に右へならえをしているので、

正 巖博士、学監に菅野和太郎博士の就任が決定して、昭和十年九月に、昭和高等商業学校が発足したわけですね。

この転換期には、われわれ教師はもちろん、職員も、浪華高商からの者は全員、いったん解雇になり、履歴書を再提出して、黒正校長、菅野学監の面接があつて、再採用ではなく新規採用になったわけですね。それも講師としてです。このあたりを聞

「三分法」の採用を示唆

私学のあり方についての一つの考え方

当時、入学試験のあった大学は帝国大学といつても東京、京都、大阪ぐらいのものだったと思います。しかし、京都帝国大学といえども、確か昭和十三年の経済学部は無試験だったと記憶しますし、これら三大学を含めて北海道、東北、九州、台北などの帝国大学でも特定の学部を除けば無試験合格のはずでした。このよつな状況で私立大学といえは、関西では関西大学の法学部、関西学院、同志社大学の英文学部、関東では中央大学の法学部、早稲田の理工

違いなく伝えておいて欲しい。なお、この当時のことは「忘却と忘れ去ることなり」の言葉通り、忘れ去ったこともあり、また、過去を美化する人間の本性もあるので、一回、二回、三回の卒業生のかたがたがご健在のうちに、それもできるだけ多くの人が出席されて、テーマを一つずつ絞って、集約的結論を出してゆけば、それが一番正しい意味での歴史として残るでしょう。

学部、慶応の医学部などなど、もちろん、それ以外にもあったとは思いますが、入学試験の激烈なところを避けて通れば、誰でも大学へは進学できたといえるでしょう。これは専門学校についてもいえることで、商業学校出身者が高等商業を受験するときは、たとえば、昭和商高の場合、定員三百名に対して五十名で、残り二百五十名は中等学校出身者ですから、当然、受験倍率は変わってくるわけで、前者では三十五〜六十倍、後者は十倍位と差別待遇のお手本のよつな状況でした。これは一人、わが校だけでなく、官公立、私立を問わ



いまはなつかしい甲子園球場

今日、地盤沈下といわれている本学は、何か新しい政策を打ち出して欲しい。

この三分法が採用されたか、否かは別として、つい最近、野球部が関西六大学入りをして初優勝をしたと思つたら、二部落ちという結果にな

学徒師弟が融和の精神で

昭和商高当初の先生の思い出

まず、大北先生の語学、英語、ドイツ語には悩まされた学生が多かつたでしょう。外国為替論、英文簿記などがそれで、また、建林先生の国際経済論、これも英文原書、国際経済論を初めて学ぶ学生は、その理論そのものはもちろん、英文に悩ま

りました。ところが、当時は昭和商高もいい選手がいて、早稲田大学と入場料金をとつた有料試合を行ったし、阪神タイガースのあの御園生選手が在学中の関学とも試合をして勝つたこともあり、七回卒生は卒業記念に甲子園球場で練習試合をしたこともあるほどです。サッカーが一部に昇格し、柔道が近畿学連で優勝したのもこの時代だったでしょう。また、昭和商高主催で、全国中等学校軟式庭球大会、あるいは全国中等学校優勝辯論大会が本学で開催されたのもこの頃だったと記憶しています。

そういう意味で、理事者、教職員、学生が一丸となって黒正巖校長を中心に、愛校心に燃えに燃えていたといえるでしょう。

そればかりではなく、英文と米文を明確に理解しておけといわれたコレボンの虎尾先生、難解なリーダーで学生を悩ませた山村先生、同じyouでも、文章全体から読んで、「あなた」「お前」とかいふように尊卑を表現して訳さなければ、それは英

文和訳にならないことを強調されたのは、鬼の原(現在の浅沼)先生、鬼といえはもう一人、英作文の吉岡先生、また、「この野郎」といいたくなくなった程、文法的にとでもうるさく、悩まされた奥村先生などを、授業の三分の一以上が英語、英語の連続で外語学校に入学したのではないかと、と学生が錯覚するほど語学に厳しかったのも、当時の本学の特色であったといえるでしょう。その中にあって、バイオリンを教室に持ちこんで、ドイツ語が何かわからない学生に、ま

澱江刊行に寄せて

理事長 藤田 敬三

御互が会えば自然に触れずには居れない本学創立五十周年祭、これをどのように真に意義あるものたらしめるかについて、思いを巡らさざるを得ない今日此頃、恰も第十七回の澱江発刊の期に際して、例年とは異なった気持ちで同窓諸氏に呼かけ度い心境で一杯です。

勿論本学存立の意義を明確にし、その使命達成の為に同窓の皆さんとの協力を密にするために、不断の努

力を続ける気持ちには例年と何等かわりがあるはずはありませんが、折角の五十周年という結節を迎えて、例年とは異なった緊張した気持ちで、或まとまった異色ある事業を企画し、この転換期の内外のニーズに 대응するような快挙があり得ないものだろうか、と思ったりもするのであります。

勿論私りの具体的な構想のようなもの、既に出来て居ないわけではありませんが、さてそれを仮に同僚



の誰彼に話しかけて見ても、打てば響くような形で賛同して貰えるかどうかは、あやしいものであり、況んや全学関係者のコンセンサスを得ての見識ある記念事業ということとなれば、凡そ困難を極めた問題とならざるを得ないでしょう。

尤も正直いって今日相当数の私立大学では、ある程度設備は整って居り、これらを良心的に活用することにより、一通りの教育は不可能ではありません。併し、真に今後の日本の世界的進出、人類への貢献に役立つような人間教育をするとなれば、いずれの私学の現状について見ても、極めて不十分といわざるを得ません。従って先ず相当な決意を以って思い切った異色ある新時代への、人材教育のための優れた教職員の育成をしなければなりません。然る後、異色ある学生の本格的な教育に邁進することが可能となります。

この様な画期的な事業こそは、正に

ず発音を正確にするためにと、「ローレライ」菩提樹「野ばら」の三曲の歌を学生に大声で歌わせて、ドイツ語に興味を持たせながら教えられた平野先生などの教え方は、今の学生には考えられないことでしょう。

藤原先生の講義は猛烈なスピードでノートをとらされたという。たとえば、経済、という言葉やEとかWとかいう略語で書いても未だ間に合わない程のスピードで、自宅に帰ってから学生が暗号文の解読よろしく、ノートを書き直さなければならぬ

五十周年とかいったような学園の大きな結節を機会に、取上げられるにふさわしいものでありましょう。

併し一方、本学の場合では、五十周年なるものを如何に規定するか、といったような形式的な問題すら未決定の現状で、余り悠然と許りは構えては居れませんので、大学、同窓会、後援会等それぞれの立場からの意見を早急に持ち寄って、真に意義ある五十周年を、如何に規定し、計画し、実現出来るかを検討し、その作業を段階的に準備し、推進して行けるようにもつかその手筈を急いでいるところでもあります。従って本学関係の各位には夫々の御立場から、全幅の御支援を賜わりたく熱望する次第であります。三万八千の同窓諸氏におかれては、この機会にその絶大の力を結集して、御支援を賜わるよう心から御願ひする次第であります。詳細は追って夫々の機関を通じて色々願ひすることと相成るはずですが、その節は何卒宜敷く御願ひ申し上げます。

以上を以って私の当面の御挨拶と致しますと共に、同窓皆々様の御健勝と御活躍を祈り上げる次第であります。

ほどだったようです。また、当時は、商品学、統計学を担当されていたチューネンの立地論(経済地理学)の菊田先生、分けるという字は「人を刀で切る」のだから分けるでなく分けるのが正しいとユーマア的に教えられたのも印象に残る先生です。さらに徹夜で翌日の講義ノートを作成され一枚の紙に集約されて講義をされた高木先生、採点をいくらお願ひしても提出されず、当時、教務担当の高木、建林両先生と一緒に学校に泊り込んで採点を督促された渋谷先生。学生から見れば人間国宝のようにみえたであろう語学には、天才的なものを持っておられた米津先生、また、赤トンボの河野という異名のあった民法の河野先生、などなど、黒正、菅野両先生が日本全国から集めてこられ、また、両先生の要請にこたえて、その当時は、海のものとも山のものとも知れない昭和商に集まってこられた若手の新進気鋭の



先生の顔・顔・顔

先生がたによって学生諸君と一体となつて、「昭和商ここにあり」とがんばったものです。それだけに落第(今でいう留年)も激しく、赤不可(四十点以下・学生はこれを赤トンボと呼んでいたようです)一つで一年はもう一度一年という厳しいものでした。それ以外に、八八禁止令と学生が称していた一年を通して八十八時間欠席すると受験停止になり、無条件留年というおまけまでついていたことなど。

では、こんなに厳しいことばかりかという、厳しい先生ほど当時は先生ご自身も若く、独身の先生が多かったため、給料日になると先生の帰りを待ちぶせて「先生、今日は給料日ですね」と学生によくたかられたが、今から思えば楽しい思い出です。中村先生などは「今日は給料日だし、学生が必ず来るから、ます、うどんを食わせるんだ。でないと財政がもたんよ」……とよくいっておられたことから、当時のことが理解できるでしょう。現在の学歌の中に「学徒弟が幹負ひもちて 諸汗に確つかと植えた融和の象徴」とあるのは、この当時から本学には、このような精神的な融和があったことを強調しておきたい。

黒正精神・思想を永遠に

黒正 巖先生の遺稿集ほか

前史はさておき、本学の基礎を確立された黒正 巖先生の功績を後世に伝え、たたえる意味においても五十周年史を、もし学校当局が計画されているならば「黒正 巖先生とその人」(仮題)というような先生の人格あるいは思想を、大学が存続する限り、伝えるのが、われわれの役目ではないでしょうか。

また、本学のために一ツ橋(東京商科大学)の招きをことわられて、その一生を本校に捧げられた大北先生の功績に、感謝の意を表する意味においても先生の胸像を石膏でよいから図書館にでもかざってあげていただきたいと念願するのは、私たちがだけではないと思います。

五十周年が過ぎ、六十・七十周年と日を重ねるに従い、黒正先生、大北先生など本学の今日の隆盛を築かれた人々が、過去の人として歴史上の人物になることはやむをえないとしても「忘却とは忘れ去ることなり」

で、先生らが現在の、あるいは後世の学生諸君から忘れ去られることは、歴史的にいつても理解できないし、また、われわれからすれば何かやり

きれない淋しさを感じるのを禁じえません。

五十周年を目の前に控え、輝かしい伝統と歴史を後世に伝える意味においても、それが成功裡にかつ盛大に、大阪経済大学の歴史のページを飾れるものであって欲しいと願うのは、私たちがだけではないと思います。年をとればとるだけ正比例して母校への愛校心は算術級数的というより、幾何級数的に増大してゆくといえるでしょう。

現在、母校の運営に日夜をわかつたご苦労いただいている藤田理事長先生をはじめ、理事、評議員、監事の皆様のご苦労を深謝するとともに、愛校心に燃えている旧教職員をはじめ、同窓生の真意もおくみとりいただければ幸甚に存じます。

最後に、わが母校が良い意味で名をあげ、ますます隆盛をきわめることを願うとともに、五十周年記念の祭典を鶴首して待っております。

(誌面の都合上、まだまだ表現できなかったこと、また、記載漏れをして失礼をいたしました諸先生、諸兄弟には心からお詫び申し上げます。)

同窓会本部だより

新同窓会会長に磯野齊氏

六月二十七日(土) 新阪急ビルにおいて理事会が開かれ、新同窓会会長に磯野齊氏が決まりました。また、新しい同窓会役員構成、五十五年度収支決算などが承認されました。

新しい役員構成決まる

役員改選について

◆昭和五十六年六月二十七日(土)

◆新阪急ビル十二階、レストラン・パレス

◆議案

第一号議案

昭和五十五年度決算について

第二号議案

昭和五十六年度予算案について

第三号議案

会則一部改正(案)について

第四号議案

第五号議案

その他

司会 比企事務局長

定刻、司会者より開会宣言

世良会長より挨拶のあと、ただちに議案審議に入る

第一号議案

平尾会計副部長(28)より昭和五十五年度収支決算につき各項目別に説明

山上監事(2)より監査報告

第二号議案

新しい同窓会役員構成

小松総務部長(14)より昭和五十六年度予算(案)につき予算編成の主旨を各項目別に説明

長岡理事(5)より、今回発行される名簿予約金の表現方法について質問があり、会計部長にわかり事務局長審議に入る

第一号、第二号両議案につき一括

◆会長 磯野(3)

◆事務局長 比企(7)

◆企画部 (長)萩原(10)

(副)桑津(11) 玉岡(12)

前田(13) 小松(14) 陰下(16)

松本(18) 山中(19)

◆編集部 (長)川野(20)

(副)奥山(21) 波根(32) 森(33)

◆総務部 (長)谷口(22)

(副)西本(23) 水納(25)

◆会計部 (長)平尾(28)

(副)中村(31) 大西(35)

◆監事 山上(2) 長尾(8)

中村(13)

◆名誉会長 渡辺(3)

◆相談役 広田(1) 世良(3)

より応答の結果、表現方法を検討すること承認
これにより第一号議案、第二号議案、第三号議案、事務局長より会則一部改正(案)の案とも満場一致で可決

第三号議案

満場一致で第三号議案を可決(下記参照)

昭和55年度収支決算書

自昭和55年4月1日～至昭和56年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算額	予算額	科目	決算額	予算額
前期繰越金	3,706,664	3,706,664	総会費	3,668,584	4,000,000
会費収入	31,585,000	30,000,000	役員会費	1,192,840	1,100,000
総会収入	546,000	300,000	支部費	2,245,835	3,000,000
利息収入	639,732	400,000	事務費	436,423	600,000
雑収入	452,500	0	人件費	4,756,180	5,000,000
			旅費	1,368,080	1,700,000
			交通費	7,439,481	6,500,000
			江編集費	455,195	1,000,000
			名簿追跡調査費	2,450,000	2,500,000
			学慶	408,440	500,000
			名簿編集費	740,145	0
			50周年記念積立金	1,000,000	1,000,000
			名簿発行積立金	4,000,000	4,000,000
			子備費	(1,772,466)	3,506,664
			次期繰越金	6,768,693	0
合計	36,929,896	34,406,664	合計	36,929,896	34,406,664

昭和56年度収支予算表

自昭和56年4月1日～至昭和57年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算額	摘要	科目	予算額	摘要
前期繰越金	6,768,693		総会費	4,000,000	
会費収入	29,000,000		役員会費	1,500,000	理事会・常任理事会・各分会
総会収入	500,000		支部費	3,500,000	運営費、支部総会援助
利息収入	400,000	普通預金利息	事務費	600,000	
名簿収入	10,000,000		人件費	5,350,000	事務局人件費
			旅費	1,700,000	
			交通費	10,000,000	
			江編集費	1,000,000	
			名簿追跡調査費	13,000,000	大学祭・クラブ活動援助
			学慶	2,500,000	
			名簿編集費	500,000	
			50周年記念積立基金	1,000,000	
			子備費	2,018,693	
合計	46,668,693		合計	46,668,693	

(改正された会則)
第七条 本会に名誉会長、相談役を置くことができる。
第一七条 名誉会長、相談役は常任理事会に出席して協議にあつかることができる。(新規)
第一九条 一、総務部 二、編集部 三、会計部 四、企画部
(注)これに伴い一七条より一条ずつ繰り下げる
第四号議案
◆役員任期満了に伴い新役員選出のための議長選出方法について審議の結果、司会者一任を満場一致で承認
◆司会者より広田議長(1)を選出任命
◆広田議長より常任理事、監事選考委員選出につき提案。審議の結果、議長一任を満場一致で承認
◆広田議長より左記の常任理事、監事選考委員長および委員を任命
委員長 山上(2)、委員 中村(4)、長岡(5)、萩原(10)、阪上(12)、百瀬(16)、川野(20)、奥山(21)、西本(23)、水納(25)、森(33)
◆別室にて選考委員協議の結果、本会議席上にて山上委員長(2)より左記の新役員、常任理事二十名、監事三名の選出を発表



常任理事 磯野(3) 比企(7) 萩原(10)
 桑津(11) 玉岡(12) 前田(13) 小松
 (14) 陰下(16) 松本(18) 山中(19)
 川野(20) 奥山(21) 谷口(22) 西本
 (23) 水納(25) 平尾(28) 中村(31)
 波根(32) 森(33) 大西(35)
 監 事 山上(2) 長尾(8) 中村(13)
 決議の結果、満場一致でこれを可決

◆別室にて常任理事会を開催、互選の結果、磯野常任理事(3)を会長に、比企常任理事(7)を事務局長に、そして、広田前副会長(1)、世良前会長(3)を相談役に選出したことを比企新事務局より本会議席上にて発表。審議の結果、満場一致で可決。以上により第一、第二、第三および第四号議案の審議を終了

第五号議案
 特別に審議議案がないため
 ◆磯野新会長就任挨拶
 ◆世良前会長退任挨拶
 のあと

◆本理事会にご出席の支部長を、東海、丹有、神戸、姫路、岡山、広島、山口、福井、三重(代)、西宮(代)、岐阜(代)、南九州、東播磨(代)の順で比企事務局より紹介

55年度 優勝旗の入場に感激 総会 一段と盛り上がる

大きな拍手に迎えられて硬式野球部の関西六大学リーグ優勝旗の入場あの感激！ 忘れられない総会となりました。今年の総会が例年より盛り上がった大きな要因でもありました。(その後のことはいいますまい。再びあの感激を早く味わいたいものです)

昭和五十五年同窓会総会の式典は、玉置学長先生、藤田理事長先生をはじめとし、多数のご来賓の諸先生方をお迎えして盛大に行われました。

式典は、会長挨拶、ご来賓のご祝

◆事務局より名簿、レコード、文鎮の販売について理事各位の協力をお願い
 なごやかなうちに議案審議をすべて終了
 司会者の閉会宣言で昭和五十五年度理事会を閉会
 引き続き、別室で懇親会に入り、大いに歓談のあと散会した。

辞、ご来賓諸先生方のご紹介にはじまり、つづいて表彰が行われました。今年度は高松支部を結成され、初代支部長に就任以来、十余年にわたり支部発展、母校発展にご尽力されました松原範幸氏(7)と、柔道部の監督として二十有余年もの間、後輩の育成に輝かしい足跡を残された萩原市郎氏(10)に感謝状の贈呈を行いました。両氏には今後とも、母校・同窓会のために、ますます頑張ってくださいたいと願う次第です。また、今回はこの旗の下に多数の同窓会会員諸氏が集まれる願いをこめて、各支部に

母校創立50周年をひかえて



同窓会会長 磯野 齊

すでに、母校も、五十年の年輪に近く、人材、雲の如く輩出し、財界、官界、教育界をはじめ、各界にわたって、広く社会に貢献、活躍されており、最近では、奈良、西宮両市の首長が、殆んど同時に、同窓生から誕生されたことは誠に喜ばしいこととあります。

さる六月二十七日(土)開催の定例理事会には、全国各地から、支部長はじめ百名にのぼる理事の方々のご参集をいただき、昭和五十五年度決算、昭和五十六年度予算(案)を慎重に審議のうえ、すべて滞りなく決定されましたことを、ここに厚くお礼申し上げます。

役員改選にあたりましては、前世良会長が、大阪日産自動車(株)社長はじめ、公務に忙殺されているため、総会を前にして、強く辞意を表明され、不肖私が後任に選任されましたことは、母校創立五十周年事業を目

前にする時期だけに、なおさらその責任の重大さを痛感する次第であります。このような状況のなかで、大学当局におかれては、創立五十周年事業について、真剣に取り組まれることを発表されました。従って、いずれ遠からず、具体的計画が表明されるものと期待されますが、五十年という節目は、母校にとっては勿論、同窓会にとっても、極めて意義深いものであります。大学側の立案、計画にそって、同窓会の総力を結集して、協力の実をあげたいと存じます。

非才にして、その職に堪えうるかを憂うのでありますが、民主的運営に徹する伝統に支えられ、支部長をはじめ役員諸氏の強いご理解と、先輩各位のご助言により、五十年記念事業を無事、軌道に乗せることができそうです。ご協力のほどお願い申し上げます。

昭和五十六年度同窓会年次総会は、

例年の如く、十一月三日、梅田新阪急ビル十二階、レストラン・パレスに於いて開催いたします。

学長、理事長、その他諸先生のご出席をお願いして、盛大に同窓生水いらずの交歓の時を過ごしたいものです。本年卒業のフレッシュマンの多数参加を期待してご挨拶にかえたいと思います。

昨年、装いを新たにされた瀬江80が好評だっただけに、本号にかけると特別編集委員の苦心は、大変なものがありました。同窓会唯一のコミュニケーションの役目を果たしている瀬江が、本年も、一人でも多くの会員の手に届き、母校の近況や、同窓会の動向を知っていただきたいと念願します。本号の発行にご協力下さった母校関係者の方々、寄稿していただいた皆様、終始ご苦勞願った特別編集委員各位に衷心より感謝申し上げます。

対し同窓会旗を贈呈いたしました。

式典を無事終了し、パーティーに入りましたが、パーティーに先だち今回初めての試みとして、母校の邦楽部諸君の演奏を楽しんでいただきました。今後もこういう形で母校のクラブを紹介していきたいものです。渡辺名誉会長らによる鏡開きを合図に、パーティーは華やかに始まりました。

そこには、恩師と教え子、先輩と後輩の区別もなく、なごやかなグループがあちこちに出来、ビール片手に談笑また談笑で、時間のたつのも忘れ勝ちでした。正面舞台では、童心にかえった人々が楽しく応援歌やエールを合唱され、雰囲気盛り上がったところで、「万歳」を声を合わせて三唱し、グリーククラブの「蛍の光」の歌声に送られ、「経大」マーク入りの文鎮を土産に、パーティーはお開きとなりました。

総会特別委員長・水納氏(25)、式典委員長・酒井氏(23)、パーティー委員長・村井氏(25)を中心とした総会特別委員の方々をはじめ、当日お手伝い下さいました会員諸氏に対し、ともに心から謝意を表したいと思っております。来年も楽しい総会にぜひご参集下さい。

支部の活動

各地区で多彩な催しを展開



東京支部

名簿電算化で活動充実

昭和五十五年支部総会は、昭和五十五年十月十七日(金)に開催されました。場所は川崎さん(三回卒)のお世話により、おなじみの「新橋亭」で約九十名が一年ぶりに集まりました。大学からは久保田教授、本部からは萩原・松本両氏に遠路参加していただき、大変なごやかなムードの内に無事終了しました。

昭和五十五年支部総会(二十六名)では谷川さん(三十五回卒)が中心となり、約六百名の支部名簿の電算化が行われたため、行先案内などの事務が迅速化されました。また、昭和五十六年八月には本部の新名簿も配本されますので、これにより、昨年は連絡出来なかった昭和五十五年、五十六年の卒業生への通信も可能となり、より充実した支部活動を展開したいと考えております。

また、十一月初旬には硬式野球部が関西六大学で優勝し、神宮大会へ出場しました。東京支部としては連絡時間が少なかったため、応援人数も十分とはいえませんでした。神宮球場へかけつけ、後輩の奮闘を声援いたしました。野球部、応援団、吹奏楽総部の諸君、またの上京をお待ちしております。

さて、東京支部の夜のサロンを二カ所ご紹介いたします。一つは西山さん(十六回卒)の経営する中央区八丁堀「いさりび」。今一つは小林さん(二十五回卒)の経営する中央区

東海支部

時間たっぷり賑やかに 上新庄の香り懐かしむ

ことしの東海支部にとって、最も不幸な出来事は経済学者、上田藤十郎先生のご逝去である。東海支部の生みの親、上田先生が名古屋市長役所へひよっこり登場されたのは、敗戦直後の昭和二十一年七月だった。名古屋市長からの依頼で『名古屋市史』

編さんのため来名されたわけだが、当時、上田先生は窓ガラスが割れた薄暗い役所の一室での仮住まい。市経済局へ勤務していた石浜欣次氏(七回卒)の連絡で、野本恒雄氏(九回卒)と埜々山誠氏(十回卒)が駆けつけると、上田先生はパンツ一枚でうちわをバタバタさせながら、執筆に余念がなかったという。

これに前支部長の岡田佐市氏や川田武彦氏(十回卒)の有志が加わって、米や野菜を持ち寄り、東海支部誕生の下準備が出来あがったわけである。

高知県のご生家から「八十歳の天寿を全うして」という通知を頂いた岡田氏は、「いまでも補聴器とタミ声のお姿が忘れられません。卒業生をいつまでも覚えていて下さるやさしい先生でした」と追憶されている。

さて、ことしの東海支部総会は十一月末、市内テレビ塔西の「田庄」に四十余人の同窓生が集まり、にぎやかに開かれた。本部から毎年のお顔なじみ渡辺達好名誉会長と比企重事務局長、母校からはこれもファンが多い松原和男教授がご来名、ベテラン河盛富三氏(十回卒)の名司会で、二時間たっぷり上新庄の香りを懐かしんだ。この間、聖教新聞社業務局

東海支部のみなさん

五十五年度京都支部総会は、例年の通り五十五年十一月八日(土)、岡崎の洛陽荘において開催されました。本年度も大学側から先生のご出席をいただき、出席者二十余名が学校の近況を聞き、お互いになつかしく旧交をあたためました。

京都支部

懐かしく旧交を温める 今後の発展に期待して

東海支部長 加藤正秋

丹有支部

名簿整理のメドがつき 総会の早期開催に努力

毎年のことではありますが、案内状発送のわりに参加者の少ないのが残念でなりません。半面、年一度の会合を楽しみに待っておられる人もあり、その人達のためにも、ますますの発展を願うものであります。会合はそれなりに楽しい会合になっておりますので、次回は、ぜひご出席をくださるようお願い申し上げます。

支部長 木下隆徳

どこまでも澄みきった青空に、いわし雲が浮かび、さわやかな季節が訪れました。同窓会員の皆様いよいよご清祥で、各方面にご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。

さて、われわれの支部は兵庫県の東北部の地にあり、ここは古く丹波・有馬の国といわれていました。そして現在、行政的にも「丹有」と呼ばれていますので、その名称をとりました。当地域の高校を終えて大阪経大を卒業した者と当地在住者によ

卒業生会員、在学生会員とが一体となつて組織している、ユニークな支部であります。全国の各支部の中で、地域では最も小さい支部ですが、会員の密度は数百名とおそらく、一番濃いものと思われれます。

ところで、ここ数年、支部総会を開催していません。この間、いろいろの事情により、組織の掌握とその運営が停滞してしまいました。誠に申しわけのないことであり、謹んでお詫び申し上げます。心ある会員の方は、早くなんとかして、かつての盛大な活動を、と期待し、励ましていただきました。しかし、私は勤務の都合もあり、役員の皆様とご相談しながらも、善処しなければと氣ば

かりあせるのみでした。このたび公職を退き、多少ゆとりができたので、支部の伝統を傷つけてはいかんと、まず、名簿の整理に取りかかりました。

ところが、急には最近の会員の方のお名前さえ判りません。思案に余つて、比企事務局局長さんにご相談しお力添えをお願いいたしましたところ、本部で調査してあげようといつていただき、そのご好意に甘えることにいたしました。これでやっと、新しい支部会員名簿ができあがるメドがつかまりました。そのうえ、プリンタまでお世話していただけたらと、本当にありがたいことだと深く感謝いたしております。

30余年間のお心尽くしに感謝

拝啓
梅雨のいやな毎日が続いておりますが、同窓会本部の皆様には益々ご健勝のことと拝察申し上げます。

平素は勝手なご無沙汰とご無礼ばかりを重ねて参り、心からお詫び申し上げます。

さて、既に承知いただいていることと存じますが、去る六月七日の大阪経大同窓会岡山支部総会で、岡山支部長の任を満場一致で十二回卒の村上一夫君にバトンタッチできて、三十有余年間の肩の荷がようやく降りた感じしております。

数、故菅野先生と共に黒正先生の墓前にぬかづいた時の菅野先生の面影等々、数え切れない思い出にひたっている今日この頃です。今はただ、同窓生諸兄の絶えざる温かいご協力に感謝する心で一杯です。

本当に永い間、わがまま一杯の私のような者に対し同窓会本部の方が親切にしてください、大任を果たし得る原動力となつたことをただただ、有難うございました、と心からお礼申し上げます。

既に三年前から年齢的にも、また、持病の糖尿病と腰痛症でたびたび入院し、同窓生諸兄に対してご迷惑ばかりお掛けして、今さらお詫びしても許されることではないでしょうが、本当に永い間のご協力、有難うございました。

戦後三十有余年間の岡山支部のお世話を大過なく務め得られたことは、同窓会本部の方々、大学の諸先生方、そして全国の同窓生諸兄の温かいお心尽くしの賜物と、心から感謝しております。

想起しますと、永い間の三十有余年間でしたが、過ぎ去った現在は短い三十有余年間でした。

戦後、可愛い清君、明君の坊やを両脇に抱えてご出席して下さった故黒正先生のお姿が一番脳裏に焼きついております。その後、先生の急逝、続いて、追悼会の数

ご縁を申し述べたい気持ちで一杯ですが、現在の私の環境では到底不可能なので、一応、同窓会本部宛にお礼と感謝をこめて支部長退任のご挨拶をさせていただきます。

どうか機会ある時、同窓会本部の諸兄ならびに大学の諸先生方によくご伝言いただければ幸いです。

最後に、母校ならびに同窓会の益々のご繁栄と同窓生諸兄のご健闘を心から祈念してやみません。本当に有難うございました。

岡山前支部長 大森喜太志 (6)

姫路支部

雨にもめげず32年目の総会

宇宙の森羅万象は須臾も休みなく生成流転の現象を呈している。人間の社会には自ら問い答えなければならぬ問題を含む、いわば歴史的现实である。今や資本主義経済の甲鐘がいたるところに鳴り響いている。あるいはこの甲鐘に万斛の涙を注ぎ、その復活を願うものもある。だが、いずれにしても、資本主義経済こそが過去の人類に大いなる貢献をなしたことは何人も否定し得ないであろう。栄枯盛衰は世の習いとか、祇園精舎の鐘の音のたとえの通り、雨にもめげず風にも耐えて、支部結成三十二年目を迎えた。

例によって、左記の通りささやかな総会を開いた。

記
一、日時 九月二十日(土)午後六時より

つきましては、大阪経大同窓会総会の後、できるだけ早い機会に支部総会を開催したいと思っております。その節には、関係の皆様方、なにとぞご支援ご協力をいただき、多数ご出席くださいますようお願いいたします。

支部長 梶村文弥

約二時間
一、場所 北京閣
一、来賓 藤原教授、渡辺名誉会長、磯野副会長、比企事務局局長
一、出席者 二十五名
大学の現状、問題点、同窓会の近況等をそれぞれの出席関係者より聞くことができ、非常に感銘を新たにしました。

姫路支部については、多数の同窓生がおり、長い歴史を有し、それなりに微力ながら努力を積み重ね、実績を残してきた。さらに、明五十七年は支部結成三十三年目の意義深い年を迎えるので、この地方の風土に適した人間関係を軸として、再建発展の基礎づくりをしたいと意気込んでいる。支部の効率的で円滑な運営方法について、同窓生諸君(とくに

若年層)の積極的、具体的、建設的な意見を希望するものである。

岡山支部

若手中心に多数参加カラオケで歌いまくる

とき 六月七日(日)
ところ 岡山市駅前町「三好野本店」
参加者 同窓生二十五名・学生四名
学校来賓二名、計二十九名
総会議事 十二時―十三時
懇親会 十三時―十四時
新役員会 十五時―十六時
定刻の十二時、村上(十二回)司会により開会され、まず、大森支部長(六回)が挨拶に立ち、

「本日の出席者は少人数ではあるが、精鋭であり、特に、今回は若手の方が多くなって大変喜ばしい。今後岡山支部の名に恥じないように若手を中心に多人数参加され、盛大な総会としたいので、皆様の絶大なご支援をお願いする」という趣旨の挨拶があった。支部長の言葉通り、昭和商時代の方は少なく、大阪経大の若手の方が多く、将来を頼もしく思った。

つきに、本部より磯野副会長(三回)が来賓として出席され、野球部の優勝等、三つの美談をユーモラスに、詳細に、報告された。

まず、学校側来賓として、大槻先生より大学の「創立五十周年記念」を中心に現状の詳細な説明があり、さらに、高城先生より、卒業生の就職状況および今後の地域の協力について依頼説明があった。

さらに比企事務局局長は、いつものマドロスパイプがないのは寂しいが(病気のためやめられた由)、「卒業生の名前」をコンピュータにより正確・簡易化による「新名簿」の苦勞話を聞き、今さらながら、「創立五十周年」のマンモス化した名簿処理に感銘を受けた次第である。

途中、同窓会の記念品(文鎮・レコード)の購入依頼もあり、多数の方が申し込んだ。また、来る七月十八日(土)には、恒例の大阪経大と愛知大学共催の吹奏楽フェスティバルが岡山市民会館で盛大に開催されるので、支部会員の参加協力について学生(二名)から発表と支援要請があり、それぞれ「前売券」を多数の人が申し込んだ。

続いて、総員「記念撮影」をし、小休憩の後、十三時より美人入場、

信定(三十二回)司会により、まず、磯野副会長の威勢のよい「乾杯」に始まり、懇親会に移った。酒宴たけなわ、名刺交換や昔話があちこちで進むにつれて、若手会員から、

「カラオケ、始め！」
の声がかり、みんなの平素の美声が次々と披露され、古きも若きも同じように歌いまくった。

特に、本部来賓方に、とっておきの「のど」を聞かせてもらい、一同拍手喝采であった。途中、大森支部長より役員交代の発表があり、次の



通り改選となり、満場一致で了承され、戦後永きにわたった初代支部長のご苦労に感謝しつつ、今後は顧問になっていただいた次第である。

記

- 顧問 大森喜太志(6)
- 支部長 村上 一夫(12)
- 副支部長 小倉 好和(24)
- 地区幹事(岡山地区) 塩尻 康勝(35)
- 地区幹事(岡山地区) 河内 理典(46)
- 地区幹事(岡山地区) 渡辺 肇(35)
- 地区幹事(岡山地区) 守谷 邦裕(39)
- 地区幹事(岡山地区) 信定 峻(32)
- 地区幹事(岡山地区) 木内 康博(32)
- 地区幹事(岡山地区) 草加 昌昭(41)
- 地区幹事(岡山地区) 寺村 保弘(45)

山口支部

久々の出会い

五月二十四日(日)、山口市湯田温泉「防長苑」にて、恒例の支部総会を開催しました。
今回は支部長の串田先輩のお世話で、会場から動員まですべてご苦労をおかけしました。
当日は、同窓会本部から磯野同窓会会長、萩原常任理事、比企事務局長、大学から藤原教授がご出席にな

別れ難し

り、懇親会に先立ち同窓会および大学の近況説明がありました。遠く大阪を離れているわれわれにも、同窓会および母校の動向が良くわかり、とくに伝統ある五十年間という、大きい輝かしい節目を目前にひかえていることを、同窓会会員の一人として、その責任の重大さと、この五十周年祭への協力の重要性を再認識

- 〃 (北地区) 山本 拓司(35)
- 〃 (南地区) 土畑 源作(37)
- (以上十四名、カッコ内は卒業回数)
- 引き続き、新支部長の経歴と今後の協力についてのあいさつがあり、十五時、小倉副支部長の「閉会の辞」で盛会裡に昭和五十六年度総会行事を終了した。
- なお、今後の定例の年度総会日を毎年六月の第一日曜日と予定し、地区担当の幹事に通知し、地区連絡を密にするようお願いすることに致しましたので、何卒よろしくご協力のほどお願い申し上げます。
- 岡山支部長 村上 一夫

いたしました。

そして、串田支部長のあいさつで始まった総会は、無事終了しました。つづいて懇親会に入り出席者全員が自己紹介をし、比企事務局長持参のカセットから流れる学歌、学園歌、逍遙歌をBGMに、中、高校生時代あるいはクラブ活動などに、話に花がさき、下関の先輩作曲による応援歌が飛び出すなど、なごやかな雰囲気

高松支部

「香川県支部」へ拡大発展

三月六日(金)午後六時から、長らく休会していた高松支部総会が、数年ぶりに和田支部長経営になる「わたや」で開催された。本部から当日、法人評議員、母校教員、同窓会代表として一人三役の比企事務局

した。つづいて、遠路ご臨席をいただいた比企事務局長からご祝辞ならびに、大学、同窓会の近況をご報告いただき、いながらにして現在の母校の概況、同窓会の活動状況が手にとるようによく理解できた。
高松支部が香川県支部へと拡大発展したことに伴う新役員の紹介の

総会は、須和建一氏(36)の司会進行に従い開会された。まず、和田憲明新支部長(38)就任のあいさつにはじまり、従来、県人会の性格があった高松支部を、香川県全域に広めた香川県支部とすることについて発表があり、満場一致、拍手でこれを承認

あと、永い間、高松支部に対しご苦労をいただいた歴代支部長、すなわち松原範幸氏(7)、水野高司氏(12)、矢野保郎氏(8)の諸先輩の功績に対し、感謝の意をこめ、今後とも若い新役員のご後援をお願いし、全員拍手の中、ささやかな記念品を新役員よ



山口支部のみなさん

り贈呈した。そして、自己紹介で式典は、一応、終わった。

懇親会に入るや、テーブルのあちらこちらで「おい、久しぶりやのー」「先輩だったのですか」などなど、大学時代のこと、会社のこと、子供のこと……といろいろ話に花が咲き、名刺交換も盛んに行われていた。やはり同じ釜の飯をくった者同士、先輩・後輩、同県人というものは、なにか表現できない心の中がかよい合うものがあることを、痛感させられた。
宴まさにたけなわ。しかし、この

同窓会支部役員

東京支部	支部長 鮫島 圭
東海	加藤 正秋
岐阜	丹羽 好輝
滋賀	野田 邦弘
京都	木下 隆徳
大阪市役所	金子 昭典
西宮	八木 米次
神戸	町田 達治
東播磨	北井 清之
姫路	永川 仁一
岡山	村上 一夫
広島	佐々木 三義
山口	串田 一

富山	重松 尚
石川	柚木 繁
福井	内田 甫
丹有	梶村 文弥
鳥取	亀井 寛
三重	水上 敏夫
和歌山	松本 旬弘
奈良	平尾 義之助
香川	和田 憲明
徳島	
高知	横田 憲介
北九州	嶋原 正孝
南九州	宮田 順一郎

経大北陸卒業生懇談会に思う

福井支部長 内田 甫

商都大阪の瑞光原頭にそびえたつ、我等が母校、大阪経済大学も大学側のたゆまないご努力に加え、在学生、卒業生一人ひとりのたくましい底力と、新しい時代の歩みの中で、今や五十周年を迎えんと

ず第一には、教育の環境と設備。第二は、その方向を授ける優秀な教授陣。第三には、真に大学そのものを動かす、実直な学生であると思われます。

昨年、金沢市において、大学側の非常なご尽力とご配慮に預り、遠路ご多忙の中を玉置学長、山本理事先生をはじめ、同窓会本部からは磯野副会長、比企事務局長出席のもとに富山、石川、福井各県支部総会で、北陸三県経大卒業生のまたとない懇談会が催され、各自思い思いの、貴重な、しかも、

大きな夢と希望の中にも、何事も前進の過程においては、時にはつまずき、思わぬ壁にぶつかるところもあり、それは学生の悩み、教官の悩み、大学の悩み、卒業生そのものにひそむ無気力学生の存在、実践力に乏しい学生、仲間意識の薄い人々等があげられます。

得難い活発な意見を拝聴出来たことは、何よりの有難い好都合でもあり、また、私個人にとっても深く感ずるところがありました。考えてみますれば、学び舎として、必要と考えられることは先

しかしながら、悩みそのものは、また大きく前進するための原動力にもなり、この悩みから脱出するのではなく、正面から取り組んで、大学側も同窓会側も、解決の道をはからねばなりません。だが、在学生、卒業生自身が自ら、それぞれの立場において、その解決策を探究せねばならないことは論ずるまでもないことであります。



申すまでもなく、大学教育はおおらかな人間を育てることにあり、自分のことと共に、他人のことを考えられる人、現在のことと共に、未来のことでも深く思慮出来る人となることが望まれるのではないかと思います。その為に、教育の内容も一般教養と、深い専門教育を合わせて勉学することによって、大学生としての向上と共に、豊かな価値ある人間性を築くものと信じます。

したがって、全学生がこのような真摯な学生生活を歩むことによつて、個人個人の持っている秘められた可能性が無限に伸ばされ、基礎が作られると思えます。その結果、自信をもって行動でき、それが、人類の幸福の為に働くエネルギーに変化していくことも出来るものだと思います。

我が母校、大阪経済大学には、このエネルギーを生み出す為に五

十年の永きにわたり、創立以来の尊い建学精神に基づき、一刻の休みもなく、力強く、正しく脈打っております。この現実を、在学生も卒業生も、この際、更に想起し、片時も忘れてはならないことであります。それだけにまた、自己を愛し、自己を尊び、決して自己を無視することなく、あらゆる職場いかなる環境の中においても、強く正しく堂々と、しかも、雄々しく振る舞ってもらいたい。在学生、卒業生一丸となって、大いに前進すべきだと念願して止まない一人であります。

先程、比企事務局長よりの澱江編集に当たつての寄稿ご親書に接し、毎年のことながら、深くその労を感謝しつつ、誠に雑文ですが、今改めて、思い出の経大北陸卒業生懇談会時のあれこれを想起し、関係者ご一同の一段のご奮闘を切望したい次第であります。

最後に、貴重な誌面に暴言、駄弁を特にご寛容賜り、今後の母校の益々隆盛を遙かに心から祈り、併せて、諸先生方並びに同窓会会員皆様のご多幸あらんことを願ひつつ、擲筆いたします。

(昭和五十六年六月二十一日記)

ような時間は、実に早く過ぎるものである。いつまでも話は尽きないが、時間には残念ながら制約がある。

最後に、次回の再会を約し、肩を組み学歌を斉唱、黒川要氏(37)のリードで、逍遙歌で高松の夜空をふるわせるとばかり、声高らかに歌い、一人、二人と高松の夜の街へ、あるいは二次会へと消えてゆき、大盛況のうちに新生香川県支部総会を閉会した。

なお、この香川県支部総会を開催するにあたり、香川県全域の名簿を作成した結果、約二百六十名の在県が確認された。来年度は本部のコンピュータを利用して、より正確な人員を把握し、支部名簿を作成する予定である。

また、この夏にビアパーティーを開催したいと計画していますので、

高知支部

珍品美味をそろえて懇親会

今年の支部総会は、高知名物の「よさこい鳴子踊り」祭を、あと十日にひかえた八月一日(土)、高知駅前・第一ホテルで盛大に開催されました。

開会に先だち、当日、パンフィック・カントリーにおいて、午前十時スタートで行われた、当支部恒例のゴルフ・コンペの賞品授与が行われ、

勝敗は別としてそれぞれの美技に対し、拍手で健闘をたたえあげました。が、遠路猛暑のなかをご参加いただいた磯野会長のBBには、ひととき大きな拍手がありました。

さて、総会は横田支部長のあいさつに始まり、本部から磯野会長のごあいさつ、大学から大槻先生のごあいさつがあり、われわれが忘れかけていた母校五十周年という輝かしい伝統ある行事の重大性を再認識するとともに、改めて母校の輝かしい歴史を誇らしく思いました。

つづいて、当支部創立者のかげの功労者であり、当支部会員の一人ともいえるほどの人気者でありながら、昨年は病気のためにご参加いただけず、心配しておりました比企事務局長が、今年は無事なお姿をみせていただき、例のユーモアたっぷりの本部の行事説明をお聞きして、公私ともにはっといたしました。そして、

これまた当支部総会には欠かすことのできない渡辺名誉会長の音頭で、乾杯をし、懇親会に入りました。

今回の料理は、横田支部長の特別のご配慮で、珍品美味のものばかり、話すのもいそがしいが、食べるのもいそがしい限り。しかし、あちこちで益が交わされ、美しいコンパニオ

一人でも多くご参加下さい。その時また、大いに語り明かそうではありませぬか。

一人でも多く会員に

香川県在住の皆様へ。

この記事をお読みいただいた香川県人の同窓の皆様、もし、住所あるいは呼称変更、勤務先異動などがありましたら、新しく香川県人になられた同窓の方をご存知の方は、左記へご連絡下さい。一人でも多く会員を増やし、香川県支部ここにありと、同窓会の各支部の皆様が誇れる支部になるためにご協力をお願いします。

(香川県支部 和田恵明支部長の支部だよりより作文 文責 事務局)

ン(?)が花をそえてくれ、大いに談笑、つきるところを知らず……、ひらたくいえば「わいわいがやがや」あちらに一団、こちらに一組と大いに語り、大いに飲み、大いに……。時よ止まれ」といいたいのですが、アツという間に過ぎ、来年の再会を約し、横田支部長の一本じめで楽しい総会の幕を閉じました。

あとは、南国高知の夜は長い……それに土曜日。二人、三人と暮れやらぬ南国の夜の街へ……二次会へ……。そしてご来賓各位には、横田支部長のご好意でホテル地下のバーで余韻を楽しんでいただいで、今年の総会を終わりました。

翌二日は、全国的にも、歴史的にも有名な土佐の日曜市を、休日にもかかわらず、斎藤先輩(7)の私的ご厚情による案内で、ご来賓の人々にそれぞれ楽しんでいただきました。

来年もまた、お互いに元気でおいしまししょう。

高知県在住の会員みなさん。一度支部総会にお出かけ下さい。そして、お互いに同窓の絆をたしかめ合おうではありませんか……。来年こそご参加をお待ちしています。

幹事 利岡 記

広島支部総会に出席して

私は、公私をとわず、広島に出向したときには、どのようなときでも寸暇をさいて、必ず平和公園に行くことにしている。当時、生をえていた人々が一瞬にして燐の炎と化したあのいまわしい事件がなかったら、私という人間が現存していたであろうか。それを考えるとき、思想とか宗教を超越して

一人の人間として、安らかに眠って下さい。過ちは繰返させぬから」という碑の前に、ただ無心で深々と頭をたれるためである。第三者からみれば自己満足だと冷笑をかうかも知れない。それでもよい。しかし、現存されているそのような人間にこそ、あの事件の真実を知って欲しいと訴えたい!!。

比企重 (7)

北九州支部

目覚ましい若い人の出席

同窓会北九州支部総会は、例年二月、大学入試の際に開催する習わしになっております。五十六年も二月十一日、同窓会本部から萩原常任理事、大学から八木田先生ほか二名をお招きして、福岡市内のホテルにて盛大に開催致しました。

北九州支部のエリアは福岡、佐賀、長崎、大分の各県と熊本県の一部で、現在の会員数は約百名です。私が荒牧先輩(6)からバトンを受けて北九州支部のお世話をすることがようになって三年、徐々にではありますが会員数も増え、また、若い人

達の総会への出席が目覚ましいことは、大変喜ばしいことと思っております。支部活動の一つとして組織がありますが、世話役として、私の外に内山明男(22)、河野一郎(28)、細田正弥(29) 篠塚国孝(35)、権藤光博(44)の諸氏が、公私共に忙しい中、支部発展のため一丸となって頑張っております。会員の大多数を占める福岡市は人口百万を超え、今年の七月、市民待望の地下鉄もオープンいたしました。また、福岡市は全国有数の「支店都市」ともいわれております。それだ

けに、同窓生の皆さんの掌握に大変困っております。当支部在住の方々の情報をいただければ幸いに存じます。ご協力方よろしくお願いいたします。

三重県支部

Uターン組が急にふえる

たしか、昭和四十年、東海支部から分かれて独立して三重県支部が結成されてから、早いもので今年で十五年になりました。

当時は、同窓会の名簿により、三重県在住の会員八十五、六名で発足しました。第一回総会は名張市赤目四十八滝の料亭「対泉閣」で開催しました。渡辺達好同窓会理事長(当時)、比企事務局長のご出席を得ましたが、出席者は少なく、ちょっと心細い思いをしたものでした。

その後、ときれとぎれに小会合を持ってきましたが、五十四年、支部長の定年退職を機に総会(詳細は過去の澱江で報告済み)を持ち、引き続き五十五年度の総会を津市大谷町の料亭「光悦」で開催しました。大学側から理事代表として山本教授、本部から比企事務局長のご出席の栄

を迎え、盛会でした。

三重県支部も第四十六期経大卒業生までの三重県内在住会員数(五十五年会員名簿作成数)は百九十二名になりました。最近の現象としてUターン組が急増し、十五年間に倍以上の会員の増加をみて、いよいよ支部運営の意義と必要性を支部長としての責任を痛感しております。どうか次回の総会には万障お繰り合わせのうえ、多数ご出席下さいますようお願い申し上げます。

当日の総会席上での協議事項を要約してご報告申し上げます。

一、支部長、役員(副支部長、幹事)の若返りを早急にはかる。副会長二名を置く。

二、北勢、中勢、南勢、伊賀、紀州と三重県を五地区に分け、それぞれに一名の幹事を置く。そして、各



副支部長 山本利夫 (5)

会計幹事 山本靖夫 (30)

地区幹事 北勢 水谷 直 (32)

中勢 伊藤 和広 (21)

南勢 澤田 喜彦 (16)

伊賀 木戸 董 (6)

副支部長 山辺 富巳生 (4)

支部長 水上敏夫 (3)

地区幹事は所管地区内の会員の実態を掌握するとともに、各会員は地区の幹事と連絡を密にし、相互の親睦をはかる。

三、地区幹事に年間連絡費を若干支払う(本年は三千円)。

〈昭和五十六年度役員〉

紀州 今西春也 (6)

西宮支部

八木西宮支部長が市長に

まず最初に、大阪経済大学同窓会西宮支部から、奈良市長に次いで、二人目の市長が誕生したことをご報告申し上げたいと存じます。

昭和四十三年、神戸支部から分離独立して以来十余年、西宮支部長(発足時、顧問)として支部の発展に全面的に寄与され、今日、会員七百五十名を擁する有力支部に育てあげられた八木支部長(第一回卒)が、前市長急逝の後を受けて市議会議長から市長選挙に立候補され「愛の市政」をスローガンに市民の圧倒的支持を受け、見事、四十万都市西宮の第九代市長に就任されました。誠に喜ばしい限りで支部役員一同張り切っ

の第一、または第二日曜日、午前十一時から開催することに決定しておりますが、詳細はその都度、支部長名で全会員にご連絡致します(総会申し合わせ事項など)ので、何卒ご返事には現況とご出席の可否を明記の上、必ずご返事下さい。お願い申し上げます。

支部長 水上敏夫

支部活動ですが、昨年十一月七日(金)午後六時三十分から西宮市民会館に於いて臨時支部総会を開催致しました。当日、同窓会本部から比企事務局長が出席され、十一月三日の同窓会総会の報告や、春に関西六大学リーグ昇格を果たした硬式野球部が、秋のリーグ戦でいきなり初優勝を飾ったことの報告があり、次いで支部総会の運営方法等について、忌憚のない意見交換を行いました。八木支部長も、市長選立候補準備中の多忙な日程の中、挨拶に見えられ、当日の出席者から力強い激励を受け、

支部の結束の固さを見る。ことができ
ました。

今年の支部総会は、例年、盛夏の
七月に開催していましたが、諸般の
事情から錦秋の十月下旬頃に開催を
予定しています。ご案内を差しあげ

南九州支部

南九州支部は、鹿児島、宮崎、熊
本、沖縄の四県の大阪経済大学同窓
会会員によって結成されている支部
であることはご存知の通りです。

ました節は、お誘いあわせの上ご参
会くださいますようお願い申し上げます
しております。簡単ですが西宮支部の
近況報告を終わります。

副支部長 黒才 洋

念願かない宮崎で総会

宮崎市大淀川畔の「臨江亭」で、
七月十九日(日)に南九州支部総会
を開催いたしました。



ここ数年前から、宮崎で支部総会
をとる気運があり、昨年の総会を
宮崎で開催する予定でありましたが、
諸般の都合から鹿児島で開催いたし
ました。そして、本年こそはと宮崎
の会員の皆様のご尽力によって、や
っと念願がかなったわけです。

この日の出席者は、鹿児島県在住
会員七名、宮崎県十四名、また本部
から磯野会長、渡辺名誉会長、比企
事務局長、学校を代表して玉岡総務
部長のご出席をいただき、暑さをも
吹き飛ばす元気に満ちあふれた総会
になりました。

焼酎で歓談、爆笑

総会は、まず宮田支部長のあいさ
つに始まり、磯野会長の母校創立五
十周年を迎えるにあたってのお話が
あり、出席者全員、心から母校なら
びに同窓会の輝かしい伝統と歴史に
思いをはせ、今さらながら大阪経済
大学の同窓会の会員であることの誇
りを感じました。次に玉岡部長から
学校の近況報告があり、学生時代を
思い出し、なつかしき胸がいっぱ
いになり、久しぶりに感激をおぼ
えました。

七回卒の宮崎相互銀行専務取締役

木山弘氏(7)が奈良市長に

今後も信念を貫いて

昭和十六年三月、昭和高等商業学
校を卒業した木山弘氏は、好むと好
まざるにかかわらず第二次世界大
戦に巻き込まれ、陸軍の戦史上、最
も悲惨をきわめたといわれているイ
ンパール作戦に参加、文字通り九死
に一生を得て昭和二十一年六月に復
員した。

そして、祖国の土を生きて踏んだ
彼は、荒廃した社会の中で、何か、
人のために尽せたら……と故郷、
奈良市役所の一公務員に奉職した。
その後三十五年間、なかでも財政畑
の仕事をしてきた経験を生かして黙
黙と、彼の信念である「人に尽くす」
を貫いてきた。昭和四十六年七月以

降は収入役、助役と、行政の中心的
な仕事を通じて、行政者として人の
役に立つことに専念し、日夜尽力し
てきた。

地震雲で有名になった鍵田市長の
知事選挙への出馬が決まるや、彼の
人徳が各方面からかわれ、対立候補
二名と激戦。結果、ここにわれわれ
同窓会員の中から国際文化観光都市
古都の奈良で市長が誕生したわけ
である。

戦争で一度は失った命を、人のた
めに役立てたい——という彼の信念、

トピックス



生き方、正義感が今日の彼をうみ出
したといえよう。

「社会のために、他の人のために、

八木米次氏(1)が西宮市長

愛の市政をモットーに

同窓生の皆さまがたには、お元氣
で、活躍のこととお慶び申しあげま
す。

私は昨年十一月に西宮市長に就任
し「愛の市政」をモットーに、どこ
よりも住みよいまち、文教のまち、
スポーツのまちづくりを目指して、
市民の皆さまとともに歩む市政の確
立、運営のために日夜努力をいたし
ております。

まちにはそれぞれの歴史と、その
土地のもつ固有の詩があります。西
宮市は六甲山の緑豊かな自然を背景
に、東西に発達した至便な交通機関

自分が少しでもお役にたちたい……
これが私の生涯の生きざまでであると
思っています」と彼はいう。

木山さん、健康に留意され、信念
である「社会のため、人のため」を
実践していただくことを祈念いたし
ます。

また、母校の発展のためにも同窓
会の一会員としてご協力をお願いい
たします。

おめでとろ！ (文責 事務局)

に恵まれ、早くから関西有数のベッ
ドタウンとして、特色あるまちづく
りを進め、今や人口四十一万人を数
え全国に誇れる「文教・住宅都市」
として発展を遂げてきました。

歴史は原理を尺度として批判しま



す。歴史の批判に耐え得る「人間都
市」を目指して、今後とも、西宮の
愛される市長として、勇気と決断を
もって市民の皆さまの未来への幸を
願い、そのみを考えて市政推進に
全力を傾注してまいりたいと存じて
おります。どうか同窓の皆さまがた
のご鞭撻とご協力をお願い申しあげ
ます。

「学問に王道なし」とは、正に千
古を貫く至言でありましょ。また、
大学は同窓生によって評価されるこ
とが多いとも思います。私たち同窓
生は光輝ある歴史をもつ母校を中心
に、一層、友愛の輪を広げていきたく
いと考えるものであります。新しい
世紀に向けて、我が母校、大阪経済
大学の飛躍、伸長をお祈りいたしま
すとともに、会員諸賢の朝暮のおい
といを心からお祈り申しあげます。

注)なお、八木米次市長はわが大
阪経済大学同窓会西宮支部長でもあ
ります。

〔八木米次氏の主な公職〕
○西宮市議会議長(八期)
○神戸地方裁判所調停委員
○同司法委員
○同鑑定委員
○全国市議会議長会評議員
(八木米次氏「一回卒」の寄稿文
より作文。 文責・事務局)

木村栄一郎先輩の音頭で乾杯をし宴
会に入りました。地元宮崎県ご出身
の渡辺名誉会長のユーモアあふれた
お話に、会場の雰囲気もなごやか
さをまし、つづいて全員の自己紹介
が始まるころには、焼酎の酔いもほど
よくまわり、歓談、爆笑が尽きるこ
とがありませんでした。

その間にも、玉岡総務部長さんと
同期の香月先輩との卒業以来約四十
年ぶりのご対面や、支部結成以来は
じめての鹿児島、宮崎両県の会員同
士の交流風景などが、あちこちでみ
られ、二時から六時までの四時間の
宴は夢のようにたつてしまいました。

鹿児島、宮崎両県の会員で開催さ
れた今回の総会で、つくづく「融和」
の学風のよさを改めて痛感するとと
もに、今後ともこのような形をつづ
けていきたいと思われました。終わり
に記念写真をとり、参加者全員が輪
になって肩を組み、校歌、逍遙歌を
うたいながら、来年の再会を誓って
楽しい有意義な総会を終わりました。

南九州支部に所属の会員の皆様、
来年こそぜひ、この楽しい支部総
会にご参加下さい。お待ちいたして
おります。

支部長 宮田順一郎

本会員は大阪経済大学の同窓生であり、現在、商業建築およびこれらに関連する業界に在職する者で、会員の推薦するものに限るとのことになっております。

その目的とするところは、従来、同窓会におきましては、同期生の横のつながりは各年次とも盛んにおこなわれていますが、とすれば、縦のつながりという点については今一つ欠けているように思われます。本会の主旨とするような、業界の在職者のつながりについては、殆んど皆無といってよいと思われれます。そこで、会員の業務の発展に寄与し、会員の社会的地位をたかめ、会員相互の融和と親睦を図り、同窓生が丸となって業界に雄飛すると同時に、大阪経済大学の名声を挙げるべく意図している所でございます。

縦のつながりめざし発足

商業 建築 関連業界在職者の同窓会

その事業としては大体次のようなことを行っております。

- 1 会員が得た商業建築およびその関連情報の交換
- 2 各種商業施設の見学および研修会
- 3 各種講演会、講習会等の開催
- 4 会員相互の親睦を図るのに必要な事業
- 5 その他、教養講座等

なお、現在は毎月行っております。行事終了後、食卓を囲み、夕食を共にし、硬軟雑論に花を咲かし散会しております。

最近の行事としましては、さる五月十五日、十六日、五月度例会を淡路島の阿那賀港、うめ丸で開き、春季懇親会を兼ね、鯛の本場でおどりを賞味し、大浴場につきり、裸のつきあいをし、風光明媚な鳴門観潮など、



誠に充実した二日間でありました。

当会は、昭和五十五年十二月一日、(株)アートスペース、取締役会長足立武敏氏(第八回卒)を発起人総代として発足しました。

現在、会員の会社の業種は大体左記の通りであります。

以上の通りであります。現在の会員数は八社で、左記案内の通りです。

商業建築研究懇話会事務局、吉田まで

柴田金造記(8)

広島支部

50周年の抱負に感銘

同窓諸兄姉ごきげんいかが、お伺い申し上げます。

さて、広島支部同窓会的事ですが、さる八月二十二日(土)午後五時半から約三時間、盛大に開催いたしました。本年度は場所と動員方法について、従来のパターンを変更し、テストケースとして実施いたしましたことを、ご披露申し上げます。その内容は、(一) 場所については広島法華クラブ



内のクラブ・パールシャトウを一括して借り切りしました。そのねらいは、(1) ムードを和げること、(2) 二次会などへの防止対策をはかったこと等であり、それなりの効果があったものと思われました。つぎに、(二) 同窓生集めについては、同窓生の激増による業務と、経費の増大に対応して合理的手段はないものかと考えた結果、これも初めての試みとして、中国新聞夕刊の広告欄「会と催し」に前後二回にわたり掲載しましたが、これまた相当のメリットがあったものと考えられます。

総会は、まず、大学側を代表してご出席いただいた内海教授から大学の近況説明がなされ、とくに、元野球部長としての立場から今秋リーグ戦には、「再び関六入りを成し遂げて見せる」との心強い発言があり、意を強くした次第です。

また、同窓会本部からは磯野同窓会々長、比企事務局長からのお話があり、とくに、大学創立五十周年に関する抱負が述べられ、出席者全員が

大いに感銘を受けたようです。最後に、昭和商時代の恩師である河野実先生が「昭和商野球部の初代部長は私であり、部を強くしたのもこの私です」など、ユーモアたっぷりの若者顔負けのご挨拶があり、錦上花をそえていただいた本場に有意

胎動を始めている支部と今後の支部活動への一示唆

支部結成に向かって胎動している地方が三地区あります。その一つは、鳥根県です。胎動を始めて二年たちました。松江がいや出雲今市が中心に、と謙譲の美德が発揮されて今日にいたっています。が、いまだ産ぶ声を聞くことができません。二子でもよいから早く誕生して欲しいと思います。

その二は、特急でも東西に四時間弱を要する愛媛県です。四国四県といいますが、いまだ支部が結成されていないのがこの県です。これも松山、あるいは西条、といいながら消えてゆきます。本部はいつでも受け入れ体制ができていますので、地区を東伊予、中伊予、西伊予とかいうように分割されて考えられてはいかがでしょうか。

義な会合であったことを、ご報告申し上げます。

来年は、名簿も完備できる予定ですから、ぜひ、この楽しい会合にご参加下さい。大いに語りあおうではありませんか。

支部長 佐々木一義

その三は、本部に一番近い尼崎市が支部結成を計画し、できれば本年中にでも幹事会を開催するという動きがあります。これらを総合して今後の支部活動を考えると、同窓会員が年々増加してゆく中で、同窓の絆をより強くし、融和の精神で結ばれてゆくという同窓会の目的のための一つの方法として、地区細分化を考えてもよいのではないのでしょうか。

最後に、現在活動を休止されている支部に所属されている会員の皆さん。「支部だより」をお読みいただき、一日も早く活動を再開されますように切望いたします。そのためのご協力なら本部としてはできる限りのことをさせていただきますのでお申出下さい。特に、徳島県・会員の皆さん。故谷支部長の御霊を安らげるためにも是非お願いいたします。(事務局長)



鈴木亨新学長が誕生

教学新執行部が発足

昨年の十二月二十一日、任期満了にもなう学長選挙の結果、鈴木亨教授が新学長に選出された。福井孝治学長のあと、学長代行を含め三期にわたり、多難の時期の重責を果たされた玉置保前学長には、心より永

年のご苦勞に対し敬意を表するとともに、新学長にはより一層の本学の充実、発展にむけての期待が一杯である。新学長は石川県の出身で、京都帝国文学部哲学科を卒業後、昭和

二十四年に本学に着任され、まさに大阪経済大学と共に歩んでこられた方である。昭和三十七年には文学博士の学位を受け、ご専門の哲学分野では、鈴木哲学と称されるほど国際的にも著名な学者であることは、広く卒業生諸氏もご周知のことである。また、本年四月には新学部長が、五月には新部館長が選出され、教学面での新執行部体制が確立した。新学部長には山田達夫(経済)、稲原康雄(経営)、香川一男(教養)先生が就任され、大学院長・倉辻平治

学生部長・泉谷勝美、図書館長・元浜清海、広報部長・松尾竹彦、産研所長・岡本正、体育館長・浜田幸策先生が各々着任された。(松原教務部長、高城就職部長ほかは留任)五十周年を間近にし一大飛躍が望まれる本学は、鈴木新学長を中心に全学一丸となって過ぎし五十年を回顧し、将来への展望を見定めた政策づくりと、その実現に取り組みなければなりません。皆様の熱烈なご支援、ご協力をお願いいたします。

藤田理事長が再選

役員・評議員人事

本年七月、学校法人大阪経済大学の役員、評議員の改選があり、藤田敬三理事長が再選され、学内理事では山本晴義教授に代わって成瀬洋教授が就任された。学外理事では森薫氏が退任され、里井達三郎氏、柴谷貞雄氏と同窓会から磯野齊氏が就任された。新しく監事となられた森太郎氏も留任となり、他の理事は全員再選された。(評議員省略)

また、昨年の十月以降、左記の方が新採用された。(採用年月日順) 経営学部助教授 北村実(民法

(1) 志願者・受験者・合格者・入学手続者数および倍率 () は女子内数

1・2部	学部	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続者数	倍率
第1部 (昼)	経済	6,250 (49)	6,122 (47)	1,721(21)	671(8)	3.6
	経営	7,150 (71)	6,962 (68)	1,758(26)	595(8)	4.0
	計	13,400(120)	13,084(115)	3,479(47)	1,266(16)	3.8
第2部 (夜)	経済	745 (2)	726 (2)	300	160	2.4
	経営	772 (5)	739 (5)	300(2)	153(1)	2.5
	計	1,517 (7)	1,465 (7)	600(2)	313(1)	2.4
合計		14,917(127)	14,549(122)	4,079(49)	1,579(17)	

(2) 志願者・倍率の推移 (過去5年間) () は女子内数

1・2部	学部	志願者数	56年	55年	54年	53年	52年
第1部	経済	志願者数	6,250 (49)	7,464 (56)	8,227 (82)	8,284 (88)	7,121 (86)
		倍率	3.6	4.1	5.3	4.9	4.0
	経営	志願者数	7,150 (71)	7,443 (79)	7,556(110)	8,923(167)	7,684(128)
		倍率	4.0	3.8	4.3	5.3	4.2
	計	志願者数	13,400(120)	14,907(135)	15,783(192)	17,207(255)	14,805(214)
		指数	91	101	107	116	100
第2部	経済	志願者数	745 (2)	771 (1)	936 (8)	839 (9)	705 (10)
		倍率	2.4	2.4	2.9	2.3	2.0
	経営	志願者数	772 (5)	737 (6)	787 (3)	942 (8)	677 (10)
		倍率	2.5	2.3	2.4	2.5	1.9
	計	志願者数	1,517 (7)	1,508 (7)	1,723 (11)	1,781 (17)	1,382 (20)
		指数	100	109	125	129	100
合計	志願者数	14,917(127)	16,415(142)	17,506(203)	18,988(272)	16,187(234)	
	指数	92	101	108	117	100	

(3) 合格最低点(過去5年間)

学部	年度	56年 (450点)		55年 (450点)		54年 (450点)		53年 (450点)		52年 (450点)	
		点数	%	点数	%	点数	%	点数	%	点数	%
第1部	経済	269	59.8	262	58.2	240	53.3	220	48.9	251	55.8
	経営	259	57.6	296	65.8	240	53.3	252	56.0	241	53.6
第2部	経済	183	40.7	184	40.9	172	38.2	159	35.3	156	34.7
	経営	178	39.6	209	46.4	167	37.1	181	40.2	147	32.7

(4) 両学部併願者・単願者の合格率(第1部)

学部	年度	56年				55年				合格率
		志願者		受験者		合格者		志願者		
		人数	全体比%	人数	全体比%	人数	合格率	人数	全体比%	
単願者	経済	3,721	59.5	3,671	60.0	1,134	30.9	4,560	61.1	26.6
	経営	4,621	64.6	4,511	64.8	1,129	25.0	4,539	61.0	26.7
併願者	経済のみ	(2,529)	40.5	(2,451)	40.0	200	8.1	(2,904)	38.9	7.8
	経営のみ	(2,529)	35.4	(2,451)	35.2	242	9.9	(2,904)	39.0	11.3
	両学部共	(2,529)		(2,451)		387	15.8	(2,904)		13.6
	合計(合格者)	(2,529)		(2,451)		829	33.8	(2,904)		32.7

総則・債権法

教養部教授

森杉夫(歴史学)

経済学部助教授

金子勲(会社法)

同教授

末永隆甫(近代経済学)

庶務課職員

郡山尚子

経理部職員

岩永順子、竹谷佳代子

用務員

石飛修二

一方、左記の方々が退職された。

永い間ご苦勞さまでした。

経営学部教授

喜田義雄(依頼)

同

北里武三(リ)

教養部教授

島田美穂(リ)

なお、喜田、北里両先生は本学の名譽教授になられ、島田先生は仏教

大学へ転任された。

また、昨年定年退職され、非常勤

講師、評議員として活躍されていた

奥村日出男名譽教授が突然、昨年の

十二月二十五日に逝去されました。

また、元本学教授であった上田藤十

郎先生が本年の六月二十二日に、原

田博治先生が八月十七日に逝去されました。心より三先生のご冥福をお

祈りいたします。

電算室に新鋭機器

本館西棟を冷房化

本学の施設面ではこの一年間、大きな動きはなかったが、一昨年来設置されている電算室が拡張され、従



転機を迎えた大学

学長 鈴木 亨

同窓生の皆さん、お元気で各界で活躍のことと大慶に存じます。わが大経大も教・職員と学生とがそれぞれに自己の目的に向かって努力を続けております。本年度卒業生の数は三八〇〇〇人を数えるようになりました。一年間の卒業生が旧昭和商の全卒業生の数を超えるのですから、その点では経大は今日大きな発展を遂げていると申せましょう。したがって教室数や図書館などの設備がかなり拡充しております。しかしその反面、大学が大阪の市内にあるため、設備や校舎、校地などに恵まれず、大きな制約をもつことも否めないところであります。

今日の大学教育はもはや量的拡大の時期は終わり、質的な充実を計らなければならない転機を迎えております。本学もまた今後その方向に向

かって進んでゆかねばなりません。

しかし、一九八六年度までは政令指定都市での大学の施設、学部増などは固く制限されておりますし、それ以後も必ずしも事態が好転するとは言えませんが、その頃から戦後第二回目のベビー・ブームに差しかかることでもありますし、教育界は大きな転換を求められているものと思えます。本学もこの辺で将来の経大の発展を考えて、新しい教学体制を形成する必要があるかと存じます。

そこでこの数年來、大学の将来を考える会を組織し、長期、中期、短期の展望を考えてもらいましたが、その最初の試みとして、商業高校出身者への推薦入学を本年度より実施することが決まりました。これはかなりの反響を呼び、朝日、読売、毎日などの諸新聞も取り上げましたし、

商業高校会の会長をはじめ数名の幹部の方々が、自分たちが望んでいたことが実現されて嬉しいと、直接本学へ御礼に参られました。むしろ推薦入学は商業高校だけではなく、普通高校にも門戸を開くことを考えておりますので、出来れば更来年度にも実現したいと、目下鋭意検討中でありませぬ。その後、定員増、新学部などの問題も実現の方向で、現任理事会がまずその財政的基盤の可能性を調べて綿密な試算を製作しております。これを前提として、経大が将来発展するための具体策を教授会で取り上げてゆきたいと考えております。

経大はまもなく創立五十周年を迎えようとしております。近來にわかに五十周年を記念したい、という要望が各層から起こって来ております。

経大の創立者たちの御苦心を想い、同じ学舎に学んだ先輩たちの健闘の跡を尋ね、今後の経大の躍進に備えるものとして、誠に時宜をえたものと思えます。

今や卒業生の皆さんが日本全国はもとより、グローバルな各地域で活躍なさっておられることは、本当に喜ばしくかつ心強い限りであります。政治的、経済的に多難な状態を

迎えつつある現在、本学の卒業生の皆さんが、日本の社会の向上発展のために、なお一層の努力を傾けられ、応分の寄与を達成されることを望んでやみませぬ。

ろである。それを市の広報紙により紹介したい。

先生は京都大学の経済学部・大学院で学び、昭和五十一年四月本院に着任された、三十二歳の新進気鋭の研究者である。ご専門は経営史で、今回は「アメリカ独占資本主義の成立過程の研究とイギリス独占資本主義との比較分析」のため、主としてハーバード大学（米）とロンドン大学（英）を中心に研修を行う予定である。

周辺の近況報告

疎水が遊歩道に

かつて、上新庄駅から本学までの通学路には、傍に疎水が流れていた。それがいつか暗渠となり、現在ではレンガ敷の散歩道となった。学内の過密に加えて、周辺地域の都市化が進む昨今、大阪市に感謝したいとこ

来のハード部門は教育研究専用となり、新たに記憶容量のひとまわり大きい機器が増設され、これを業務（事務）専用とした。

そして、従来からの経理（給与計算と予算管理）、就職（求人会社データ）部門に加え、教学（学籍関係と身体検査データ）部門が力中である。これにより、業務改善のみならず、近い将来には地区ごとの父兄懇談会等にも力が発揮できそうである。

また、本館西棟は強い西日と車の騒音に悩まされていたが、今年の夏より冷房化され、経理部、入試事務室、広報部および同窓会ホールは随分しのぎやすくなることであろう。

揺れる国庫助成

55年度四億四、四一五万円

昭和五十五年度で十一年目を迎えた「私学への国庫助成」は、本学において経常費補助金四億三千九百九万円、図書館への研究設備整備費補助金五百六万円、計四億四千四百五十五万円であった。

昨年度との比較では約一割の増、ほぼ横ばいである。また、本学の帰

日本中小企業学会

第一回全国大会本学で開催

本年六月二十七、二十八の両日、本学で日本中小企業学会の第一回全国大会が開催された。学会の規模は昨年開催された社会政策学会ほどではないが、会員数二百数十名、両日の参加者各々百数十名で盛会であった。

この学会は既に、欧州では古くから組織されており、ここ数年は毎年国際会議も持たれるという状況であり、いわばわが国での結成が久しく待たれていたという経緯がある。また、本学の藤田理事長がこの分野での草分け的権威者であり、地味ではあるが堅実な成果をあげてきている中小企業経営研究所が本学に設置されていることもあって、第一回全国大会が本学で開催される運びとなった。

願わくば、今後ますます国際化時代における社会科学系中規模大学として、多方面での研究、教育の実績を積み、本学の特色と充実を果のものにしたいものである。

谷口講師欧米へ留学

教育・研究への意欲高揚

本学の経営学部講師、谷口明丈先生は、本年四月一日より一年間の予定で米国、欧州へ留学中であ



57年度入試要項
1. 学部・学科・入学定員

学部	学科	入学定員
経済学部第1部 (昼間部)	経済学科	400名
経営学部第1部 (昼間部)	経営学科	400名
経済学部第2部 (夜間部)	経済学科	100名
経営学部第2部 (夜間部)	経営学科	100名

2. 試験日・科目・時間・配点

試験日	教科	科目	時間	配点
経済学部 (1・2部) 2月9日 (火)	外国語	英語 B	70分	150点
		現代国語 古典I乙	70分	150点
経営学部 (1・2部) 2月10日 (水)	選択科目 (1科目)	政治・経済、日本史、世界史、地理 (A・B共通) 簿記会計I・II	70分	150点 (計450点)

空手道部
関西選手権 (団体) 第3位
全日本選手権 (団体) 第4位
西日本選手権 (団体) 第3位
日本拳法部
関西選手権 ベスト16
柔道部
関西体重別選手権
86kg以下級 ベスト16
60kg以下級 ベスト16
剣道部
全日本優勝大会 ベスト16
関西選手権 ベスト8
大阪学生選手権 第3位
合気道部
全国学生演武大会出場
少林寺拳法部
関西大会 ベスト16
硬式野球部
関西六大学リーグ戦 (秋季) 優勝
準硬式野球部
近畿六大学リーグ春季・秋季 優勝
四大学リーグ王座決定戦 第2位
近畿六大学リーグ春季 優勝
硬式庭球部
関西リーグ戦4部 第3位
関西リーグ戦4部 優勝



軟式庭球部
全日本選手権 ベスト32
関西リーグ戦2部 優勝
西日本選手権 第3位
サッカー部
総理大臣杯トーナメント ベスト16
天皇杯全日本選手権 ベスト32
関西選手権 第2位
ラクビー部
大阪府大会 第3位
関西Aリーグ 第4位



ハンドボール部
関西リーグ春季 第2位
秋季 第4位
西日本選手権 ベスト4
関西リーグ春季 第3位
卓球部
関西リーグ春季 第5位
関西リーグ春季 (2部) 優勝
バスケットボール部
関西選手権 第6位
関西リーグ戦 (2部) 第1位
バレーボール部
関西リーグ (3部) 春季 優勝
アメリカン
近畿リーグ 第4位
ボクシング部
近畿新人戦フェザー級 ベスト4
近畿地区リーグ戦 (5部) 優勝
陸上競技部
関西選手権 (総合) 第7位
全日本駅伝選手権 第11位

国際化時代の中小企業の理論と情報

中小企業季報

経済の国際化時代にふさわしい
今後の中小企業のあり方を示す
論文
解説および書評
中小企業に関する文献目録
年間購読料 ¥2,000 (〒とも)
バック・ナンバーあり (〒別)
1972年~1974年 1冊200円
1975年~1980年 1冊300円
お申込み先 中小企業経営研究所

体育会・活動状況

55年4月~56年7月

バドミントン部
関西リーグ戦 (1部) 春・秋季 第3位
西日本選手権 (団体) 優勝
自転車部
関西リーグ戦 (1部) 春季 第4位
アイススケート部
関西フリー競技 (団体・個人) 優勝
関西スピード選手権 (団体) 第5位
ゴルフ部
関西春季2部校リーグ戦 第6位
関西秋季3部校リーグ戦 第2位
関西春季3部校リーグ戦 優勝
競技スキー部
全関西選手権 (2部) 総合 第17位
カヌー部
大阪選手権 (総合) 第2位
関西選手権 (総合) 第5位
自動車部
全関西新人大会 (総合) 第7位
ヨット部
全日本個人選手権 (470級) 第13位
二色学生選手権 (470級) 第1位
洋弓部
関西リーグ戦 (3部) 第6位
重量拳同好会
全日本ウェイト選手権 (56kg級) 第3位
関西ウェイト選手権 (2部) 優勝
吹奏楽総部
関西・全日本などの大会に多数参加

推薦入学57年度より実施

募集人員 経済・経営とも10人以内

- 一、募集学部・募集人員
経済学部 第一部 経済学科 10名以内
経営学部 第一部 経営学科 10名以内
- 二、推薦依頼校
商業高等学校および商業科の
- 三、被推薦者数
各依頼校より各学部一名以内
ただし、同一人が両学部に重複して推薦を受けることとはできない。
- 四、被推薦者の資格
ある高等学校
- 五、昭和五十七年三月に商業科卒業見込みの者
- 六、本学当該学部を第一志望とする者
- 七、向学心に燃え、かつ人物優秀で健康な者
- 八、高等学校三年一学期までの学業成績が商業科学年全体の上位5%以内の者
- 九、日本商工会議所主催の簿記検定二級以上または全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定一級 (工業簿記)

3. 試験場

試験地	試験場	所在地
大阪	大阪経済大学 (第1部)	大阪市東淀川区大隅2
	大阪北子備校 (第1部)	大阪市淀川区十三東1-20-10
	夕陽丘予備校 (第2部)	大阪市天王寺区堀越町6-3
姫路	姫路市農業協同組合 姫路予備校	姫路市北条220 姫路市東延末211-5
高松	高松国際ホテル大ホール	高松市木太町2191-1
広島	RCC文化センター	広島市橋本町5-11
福岡	水城学園長浜校舎	福岡市中央区長浜1-3-1
金沢	北陵放送MROホール	金沢市本多町3-2-1
名古屋	河合塾	名古屋市中村区亀島2-6-6

4. 出願手続・合格発表

- ① 入学案内書 (願書) 11月上旬発売 千共800円
- ② 検定料 18,000円
- ③ 出願期間 1月13日 (水) ~ 1月27日 (水) 必着 郵送に限る。
- ④ 合格発表 2月19日 (金)

- 五、出願書類
出願書類 (本学所定の用紙)
推薦入学願書 (本学所定の用紙)
高等学校長の推薦書 (本学所定の用紙)
高等学校の調査書。ただし、高等学校三年一学期までの学業成績が商業科学年全体の上位5%以内であることを記載してあるもの。
資格取得認定書の写しまたは認定書が交付されていない場合は、主催団体の発行する証明書
- 六、出願期間
十一月十日 (火) ~ 十六日 (月) (郵送出願に限る)
- 七、選考方法
(一) 書類選考
(二) 面接
(三) 小論文
- 八、選考期日および合格発表
(一) 選考期日 十二月二十九日 (日)
(二) 合格発表 十二月五日 (土) 予定
- 九、選考料
一万八千円

孤高の風格 淡々と寛大な指導

浅沼 玄恵

「奥村先生「急逝」という痛恨の訃音に接したのは昨年十二月二十五日の早朝でした。

公私に亘る私の数多い先生についての思い出の中に、まことに個人的な、それ故、かえって忘れ難い、印象深い一齣の挿話があります。

日本の旗色が次第に悪くなって来た大戦末期に近い、世の中、配給すくめで、私共の生活万般が不自由を極めた時代のこと、徴用を逃れて学校の図書室の事務手伝いに見えていた、西宮の素封家の娘さんN嬢から、当時、贅沢品とて、ろくすっぽ配給もなくなっていたお酒を斡旋してやろうという、神のお声にも似た耳打ちがありました。そこで、好意ついでに、奥村先生にもその恩恵をと、彼女を強引に口説き落としました。

先生ともども欣喜躍雀、暮夜秘かに西宮に潜行、まだ戦災を受けていなかった西宮の町は、旧いたたずまいを残した低い家並みが遙かに続き、

まるで、浮世絵の中を歩いて行く思いでした。

N嬢のお宅ではとかくの挨拶もそこそこに、目指す一升瓶を各自二本ずつ大事に風呂敷にくるんで小脇にかかえ、息をのみながら逃げるが如く、くぐり戸から忍び出た戸外は晩春の生暖かいおぼろ月夜でした。

靴音をおさえつつ歩きながら、私は柄にもなく、フト、凡兆の「街中は物の匂いや おぼろ月」の一句を思い出し、どうした訳か急に、両手にブラ提げた「闇」の一升瓶が、

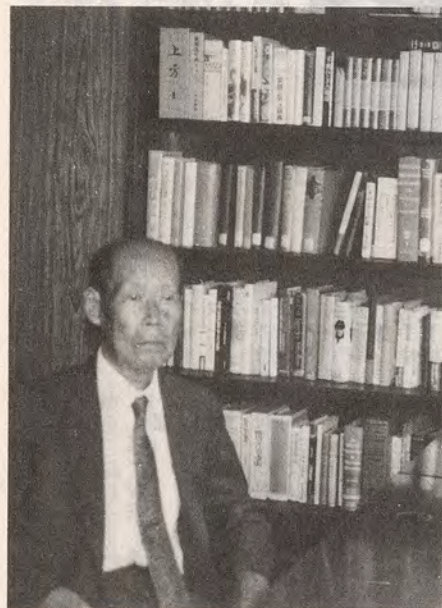
まんまと一杯喰わして打ち取った鬼の首に思われてきて、

「ザマア見ろ！」と子供っぽい叫びを上げ、その気持ちを正直に先生に申し上げると、先生は、

「それには江戸の生活の匂いが立ちこめているが、今は戦争の匂いばかりだ」

と微笑されましたが、その苦笑は恐らく、先生の戦争に対する憤りであるとともに、「闇」の酒瓶を後生大事に抱きかかえたご自分のお姿に、先生独特の、鋭いユーモアを感じ取られての上の微笑笑であったに違いないと、私なりに推察いたしました。その時ほど先生を、私の身近に感じたことは、四十余年に亘る永い

奥村先生を偲んで



おつき合いを通じて、後にも先にもありませんでした。

余談ながら、酒の銘柄は「多聞」それから一週間足らず後、西宮の町も業火に見舞われ、大部分が灰燼に帰しましたが、N嬢の家は幸い難を逃れました。善行は積んでおかなければ、と痛感した次第であります。

先生は常に、先を競わぬ流水そのままに、殊更構えられないところもなく、自己主張もなさらず、淡々と寛大に私共を指導して下さいました。

晩年の先生のお姿に、私は、生意気ですが冬空に枝を張る柿の木、その梢高く映える「木守」の美しい孤高の風格を看ました。その円熟した「木守」の柿も今は、美しく大地に帰して、再び仰ぎ見ることは出来ません。

昭和五十六年七月五日 合掌拝記

英語研究に生涯 をかけた人

梅田 武文

八月四日、前田さん(13)と先生のお宅をお訪ねした。ご家族に、先生が昭和商に來られる以前のことを

たずねていると、先生が『経大論集』に書かれた「英語笑話の理解と鑑賞」と題する論文の抜刷と、学生部から発行している『キャンパスだより』(二十二号、五十四年十月二十九日)を持って來られた。

いつも端然と

磯野 齊

年の瀬も迫る旧臘二十七日、比企事務局長とともに奥村先生のご葬儀に参列した。小雪舞う上牧の風は冷たく、膚をさす日であったが、経大にとって、また一つ、大きな星を失った。

三回卒の私は、不幸にして、先生の教えを頂く機会がなかったが、先生に英語を習った諸君は、六十歳を超えた今もなお、口を揃えるように先生の熱心さをたたえ、やる気になった若い頃を語るのである。

前述の如く、私は直接、先生のご教授にあずかることはなかったが、石川澄先生が急逝され南方駅近くの寺院にかけつけたとき、初めて、奥村先生の英語を拝聴する機会を得た。先生は、石川先生を偲んで静かに英

この「キャンパスだより」に「英語年齢」という題で四千語に及ぶ文を寄稿しておられた。これの最後に「十有五年」というのがあり、「明治の思想家江兆民は死期を宣告されて『一年有半』を著した。来年三

語で話しかけられた。数分間にわたる流暢な英語であったが、印象深い最初の一節は次のようであった。

「I liked him, I loved him, not because he was a man of no fault, but because he was a man of many faults.....」

十数年も前のことで、遺憾ながら、このあとの記憶は消えたが、石川先生に対するやさしさ溢れるお言葉が続いたことを、いまもおぼえている。本年二月二十一日、九回卒業の皆さんが久しぶりに全国から集まらるると聞いて、本部からも、同窓会の現況報告にかけつけたのであるが、

欠席者の返信のなかに奇しくも、「奥村先生に正しい英語を教えて頂いて、そのご恩は一生忘れられない」と書かれていたのを発見した。

その要旨は、「一流企業の入社試験にのみ、多くの受験者がいたが、受験番号が最後だったので、順番が

月、八十四歳八カ月で特任教授を退くことになっている私としては、『十有五年』を目標にしたいと思ってい

るが、少々虫のいい話かもしれない」と結んでおられた。

先生は百歳までの十五年間に何かと答えたところ、外に何の質問もなく合格、入社が決定した。全く奥村先生のお陰だ、と結んであったが、先生に教えを受けた卒業生の皆さんには、恐らく同じ感懐をいだいて

いる方が沢山あるかと推察するのである。

後年、私は大学の役員会で奥村先生の温顔に幾度となく接し、ご警咳に浴することができたのであるが、いつも端然と席に着かれていたお姿が強く印象に残っている。今は、遠く昇天された先生のみたまに私の想い出をお伝えして、ひたすらご冥福をお祈りするのみである。

をしたという意欲を持っておられたようだ。総而言之——先生は高貴な平凡の裡に非凡を秘め、六十余年間、英語の研究と教育一途にうち込まれた人であったと思ふ。

次に、家族の方と話題になったことを断片的にふれてみたい。

一、先生は家庭では至極温和で、不平らしい言行は少しもなく、怒るとか、叱ることは一度もなかった。食事は中華料理が好きで、朝からその日の副食物を問われたり、注文されたりした(健康家だったらしい)。晩酌(時には昼酌も)は一本位、楽しんで飲まれて、夜中に起きて読書されるのが常であった。

一、病氣されたことがなく、従って授業も休まれたこともない。先生は一時間ぐらいの散歩を日課として健康に留意されていた(先生は六高時代に、一時は一六〇センチ、六〇キロの体格で、柔道部の選手をしておられたぐらいだから、もともと強靱な身体をしておられたのであろう)。

私が先生と最後にお会いしたのは昨年十二月九日(火)、第一時限後、教員控え室で、

「おはようございます」

と挨拶を交わしたときであった。

ゼミ短信

- 一、最近開催のゼミOB会について
- 二、先生の御近況について
- 三、その他、雑感随想など

恩師を囲んで謝恩・懇親会

先生自慢のノドを披露

第九回倉春会開く

大阪経済大学ゼミナール同窓会の中で、ひとときわ長き伝統と、その規模の大きさを誇る倉春会が、本年も十月二十五日、新阪急ビル十二階のレストラン・パレスに於いて開催された。毎年、回を重ねてきた倉春会も今年で九回目、二桁の舞台を迎えるのにあと一步とせまった。また、今回は第九回にふさわしく、我々現役学生をも含め九十余名の出席者を

得た。遠くは東京、北陸、四国、山陰の各地からも各界で活躍中の諸先輩の方々が、多大な時間と費用の負担をかえりみられずに多数駆けつけられた。

会はまず、倉春会の会長である陶山先輩の開会のお言葉に始まり、倉辻先生のご挨拶、さらに、我が倉辻ゼミのOBでもある同窓会事務局長の比企先生のご挨拶、そして、五十五年卒業の上甲先輩の音頭による乾杯を契機に、それぞれのグループごとに懐旧の念に浸りながら古き友情を確かめ合った。会も中盤にさしかかり、出席者の顔がほんのり色付い

てきた頃、Gaudemus igitur, iuvenes dum sumus. というブラームの大学祝典序曲のメロディーのつて、ラテン語の歌詞で倉辻先生がご自慢のノドを披露された。

この歌とともに、会も最高潮に達した。しかし、このような時間の経過は実に早いものである。倉春会の一つの名物でもある北浦先輩によるエールに伴い、出席者全員による学歌、さらには逍遙歌の大合唱、そして最後に万歳三唱でこの盛会を締めくくり、午後八時半、第九回倉春会は一応、幕をおろした。が、このまま終わらないところが、倉春会の倉

春会たるゆえんである。出席者はそれぞれのグループに分かれ、二次会へと夜の街へ散っていった。

来年は第十回。先にも述べたように、第十回という二桁の舞台である。そこで、来年は是非、出席者数をこねまた大台である三桁にのせ、倉春会の新たな「三桁時代」への出発点となることを願うとともに、倉春会を受け継いでいく我々現役学生がこの機に新たな自覚を持ち、倉春会の末広がりの発展をもたらすための一層の努力をなすことを各人の心に誓いたいと思った。

(三回生 松村浩一記)

一、ゼミナール近況

ゼミナール学生、三年二十五名、四年二十八名、一度に二十名以上の学生ではゼミの運営に苦労します。

二、ゼミの先輩から近頃の学生はよくいえばおとなしい、悪くいえばさっぱり意欲がない、何を考えているのかわからぬ、との小言が出ています。たしかにすべての学生についてはではないにしても、そうした批判の当たっている面も見られます。この点については、先輩自身の口から直接学生諸君に語りかけてもらうのが、一番かと思えますので、今年もスーパーダイエー勤務の津呂泰典君(4)に来校を願い、ゼミ学生に就職問題を中心に、種々体験談を話してもらいました。

三、小生、ゼミナール卒業生の集い「倉春会」は、十月はじめ開催の予定です。昨年は八十名近く集まり盛会でした。

初の集い「歡喜に寄す」

上島会が設立総会

一九八〇年十一月八日、第一回目の同窓会が催されました。場所は森ノ宮・大阪共済会館。一部の方にし

か連絡できなかったこともあって、出席者は少なく、先生を含めて十二名でした。出席者は次の通りです。

- 上島武教授、来田一行、八森博一、根本恵子、吉田悦子、池内俊介、森好桂一朗、森本式英、金直樹、梶井博司、鮫島まさみ、中山正樹(敬称略)

それでも少ないなりに楽しい会になりました。上島先生の貴重な歌声も聴くことができました。歌は、ベートーベン第九より「歡喜に寄す」。この歌は八森氏の結婚式の席でも先

喜寿を祝う一一八名

喜田ゼミ同窓会

さる六月二十日に、第三回喜田ゼミ同窓会を開催しました。

恩師喜田義雄先生は、本年七十七歳の喜寿を迎えられました。

昭和二十六年以来、三十年の歳月にわたり本学で教鞭をとられ、私達を指導してこられました。本年三月、退任され名誉教授の称号を授与されました。

そこで、私達は、隔年ごとに開催していた総会を本年は「名誉教授喜

生が歌われたそうです。

新しい同窓会名簿ができましたら、ゼミOBの全員に往復ハガキを出し、盛大な同窓会を開くつもりですので、お楽しみに。

- 十二月四日に決めたこと
- 会の名称 上島会
- 会長 来田一行
- 事務局 森本式英、中山正樹
- 次回同窓会の幹事 金直樹、梶井博司

(中山 記)

田義雄先生喜寿祝賀記念同窓会」として企画、恒例通り東大阪市の観光料亭「寿楽」にて開催しました。

三時からの祝賀式典には、喜田先生ご夫妻、泉谷・松本両教授、同窓会本部から磯野会長、比企事務局長をお迎えして百二十八名の会員が出席しました。

席上で泉谷教授が会計学研究室編纂の記念論文集を出席者に贈呈されました。また私達は喜田先生に記念品として式典の次第を録画したビデオテープとビデオ機器一式をプレゼントしました。

いよいよ式典のクライマックス、先生の長寿を願って万歳三唱です。

永き人生体験の中で得られた「無駄と有用」について語られる先生



女性も加わって花やいだムードの祝賀懇親会場

百数十名によるなつかしい経大校歌の大合唱です。会の発展を誓いあい、現役員の留任を決議し、夜の祝賀パーティーの会場に移りました。

式典の感激のどよめきがさめやらぬ間に、始まった祝賀懇親会場は、老いも若きもたちまち学生に返ったように熱気にあふれ、エアコンのきいた会場の気温もうなぎ昇りに上昇したかのようでした。親子ほど年齢差のある先輩、後輩が先生を囲み、和気あいあいのムードの中で、先生の偉大なる人徳を慕って盃を傾け夜

のふけるのも忘れ、語り合い合いました。(会長松村英二記 昭30年卒業) 新しく名簿第二号を発行しました(ご希望の方は事務局まで申込んで下さい。送料共二〇〇〇円)

支部長 松村英夫

北里先生が名誉教授に

盛大に謝恩会の集い

北里先生が本年三月で退任され、名誉教授にられました。

先生の永年にわたるご教授に感謝し、去る三月二十一日、大阪・梅田の多幸梅ビル七階、マンダリンホールにて北里先生ご夫妻を主賓に、泉谷教授、松本剛教授、比企同窓会事務局長、里地前大学事務局長(理事長の藤田敬三教授は当日、体調が不調で欠席)のご来賓と、ゼミ卒業生百余名の参集を得て、盛大に謝恩会を開催致しました。

出席者のご賛意により、これを機に北里会の発足と相成りました。今後は毎年三月二十一日、当所で北里会総会を催すことになりましたので、北里ゼミ卒業生各位は知



北里先生を囲んでの謝恩会

人お誘いの上、多数ご参加下さいますようお願い致します。

北里会に関するご意見、知人の消息等につきましては、左記へご連絡下さい。

越川 昇
電話〇六一九二一〇九六五
役員は次の通り。

- 会長 佐藤浩一郎(19)
- 副会長 中村 知義(19)
- 副会長 高野 守(22)
- 常任幹事 上野 晃司(24)
- 常任幹事 藤井 徹(26)
- 常任幹事 春木 洋次(32)
- 常任幹事 越川 昇(35)
- 常任幹事 春田 敏行(39)
- 監査 内山 喜市(22)
- 監査 和泉 武周(22)
- 幹事 各年代代表(氏名省略)

ロンドンの逸話を聞く

松村幸一先生を囲んで

松村ゼミナールの昭和四十九年三月卒業生の同窓会を、去る四月四日(土)、大阪市北区曾根崎町の「銀鍋」で開催いたしました。

あいにくの雨模様の中、出席者は松村先生を入れても九名と、いささか寂しい同窓会になりましたが、それでも楽しく二時間程を過ごしました。話題は、先生のロンドンでのエピソード、在学当時の行事(ゼミ旅

行、ソフトボールなど)のほか、仕事の話、子供の話と尽きることなく、名残りを惜しみながら散会いたしました。

先生には、入学式後のお疲れのところをご出席いただき、ありがとうございました。

また、今回同窓会を開くにあたり残念だったことは、大多数の方より返信がいただけなかったことです。不参加でも結構ですから、せめて近況だけでもご報告して下さいませ。と残念でなりません。

なお、誌面をお借りして申し訳ありませんが、消息不明の方も数人いらっしゃるようですので、今回不参加の方は左記までご連絡下さり、次回の記事にしたいと思っております。

仲 美知子(旧姓 森)

「自分史」を主題に研究

池野 ゼミ

社会人生活半年の君たちの状況や如何? こちらは新たなゼミ生として八名を迎え「自分史の試み」を主

冬の北海道へ旅行

稲原 ゼミ

今冬のゼミ旅行は、今でも達磨ストロブで暖房する唯一の列車に乗るために、北海道へ渡った。国鉄が運賃上げに加えて列車を削減し、当

ゼミ愛用の「空気運搬列車」が減ったので、今回は敦賀から二万六〇〇〇トンのフェリー「ニュー・ユーカー」に便乗した。船は安くて、広くて、豪勢でもある。私は年賀状のご返事を船内で大いぶ書いた。船はスクリュー

の一回転で翼の長さだけ進む。一万五〇〇〇馬力の主機二基の全速回転に加えて、対馬海流と西北の追い風に乗って、船は二時間半の荷役の遅れを優に取り戻し、定刻に小樽に着いた。二月の北海道には未だ禅寺的な雰囲気がある。

「こんな時期に何しに來られた」とガイド嬢が先づ訝った。時代にも逢わず、吹雪に閉じ込められもせず、些か北国の厳しさに欠ける感みはあったが、バスの窓拭きに使っていたマツチ箱が硝子に凍結してとれなかつたり、ホテルを出て爽やかに街を

キメ細かい指導が主眼

井上 ゼミ

ゼミ出身のみなさんお元氣ですか、お伺い致します。それぞれの職場で元氣に活躍されていることと思えます。小生、一応元氣で勤務していますのでご休心下さい。

さて、近年はゼミ生が多くて、キメ細かい指導ができないのが悩みです。このごろの社会の実情は、目をおおえばかりの腐敗、腐朽振りですが、「寄生的な腐朽しつつある資本主義」のもとでは別に不思議なことでもありません。しかし、今年の最も重大な問題は、戦争か平和かの問題だと思っております。

戦争の方向へ押し進める動きがいよいよ顕著になってきました。なんとしてもこの危険な動きに対し、それぞれ環境でやれることをやって欲しい、と切に願っています。これは自分や家族の幸・不幸にも関するものですから。

「仲間」も30号を発刊

滝内ゼミ

みなさん、お元気ですか。

ゼミ卒業生を対象に発行している通信紙「仲間」も昭和五十六年でめでたし三十号となりました。

住所変更、その他の理由で「仲間」が届いていない方は、ぜひご一報下さい。

また、一度みんなで集まってフットボール大会でもしませんか。私もまだ学生諸君と一緒にプレーするぐらいの若さはおもっています。

教職につかれたみなさん、最近の学校の様子はいかがですか、教育問題について話しあいたいですね。

夜遅くまで歓談・談笑

竹林祐吉ゼミ

OBの方々におかれましてはお元気で活躍のことと存じます。

さきごろ、竹林祐吉ゼミでは、三、四回生対抗ソフトボール大会を行いました。結果は、四回生がみごと

逆転サヨナラ勝ちをしました。

また、恒例のゼミOB会(竹林会)

が去る十一月二十九日(土)、芦屋の大悲閣(OBの梅本氏三二十六回(経営))において盛大に行われました。

各界で活躍されておられる先輩の方々と夜遅くまで話し合い、楽しい日をおくりました。今回は先生のカナダ旅行のスライドの上映が行われ、先生からみやげ話を披露していただきました。

ゼミ旅行(四回生)は北海道へ行きました。伝統の現地集合、現地解散で登別温泉に集まり、札幌で解散しました。解散後は各自行きたいところへとわかれ、のびのびとした旅を楽しみました。

先輩のみなさま、ぜひ今年のOB会においていただき、想い出話をお聞かせいただくようお願いいたします。

南淡・青年の家で研究会

田中健一ゼミ

田中ゼミ旅行も、金沢・能登方面レンタカーでの長野・美が原・松本方面、小諸・浅間方面、与論島などそれぞれ特色はあったが、五十五年

スポーツ中心の研修合宿を実施



度は四回生(十二名中七人)と三回生(七名全員)が合同参加し、淡路島「国立青年の家」で体育・スポーツ中心の研修合宿を行い、これも極めて有意義であった。

全く学生の自主計画(主に四回生の田中三雄監事の立案・運営)に基づき、老生は無用の長物ながら付き添わせてもらった。四回生教員採用試験に四名合格決定後の十一月六、八日(二泊三日)を、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ピンポン等で三回生と四回生の対抗試合、さらに、若人の広場へのサイクリング等の諸行事で、晩秋冷気中

ながら彼等はたっぷり汗を流し、勤労と責任を重んじて交歓したのであった。

四月中旬の三・四回生初めての相互紹介以外、キャンパス内で殆んど面談の機会をもたなかった両学年ゼミ生の、ざつぱらんな語らいや意思疎通のほほ笑ましい交歓ぶりを見て、「よくぞ、よい計画を遂行してくれた」と感謝した次第である。

最初、本計画を示されて、老生の方が辟易した。南淡とはいえ、晩秋の「青年の家」は七十三歳の老体には夜冷えがこたえるのではないかと。これを憂えた田中監事は、自分の下宿から電気アンカを持参してくれたほどであった。幸い、岐阜から来ていた高校生(二百名)が六日午後退館し、そのあとの空室を広く利用でき、老生も二人用個室ベッドを独占借させて載けて、二人分の毛布八枚にくるまって寝ることができた。

また、スポーツをただ観覧、応援するのみで、疲労がなく、却って寝つきが悪かろうと、ポータブルラジオを持ち込んでいたので、音楽などを聞きながらぐっすり安眠することができた。六日夜の放送で、コーチヤンこと越路吹雪が五十六歳で逝っ

たと報道され、「ラストダンスは私に」がもの悲しく流されたり、「フエリー衝突、今治入港」が報ぜられたりであった。

七日夜の放送は、田端義夫の「大利根月夜」、高倉健の「唐獅子ぼたん」、大津美子の「銀座の蝶」、桂小染の落語をはさんで、二葉あき子の「夜のブラットホーム」、石原裕次郎の「赤いハンカチ」等を聞いている間に睡魔がやってきた。

八日早朝、初めて「朝の集い」に参加した。神戸の中学生男女二百人が廊下を速歩で、老生の傍を通り越しながら、「おはようございます」と挨拶して通り過ぎていく。これに対して「おはよう」と答えるのも面倒になり、「やア」と手をふりながら広場に出た。老体には無理なラジオ体操なので、これもほとんどにごまかす外はなかった。

菊さかり

朝の集いや

雲も晴れ

(竹然)

サイクリングコースを、指導員先生が小教室で説明されるのに、監事の連絡不十分から、他教室で老生を含む五、六人が待っていたところ、くだんの先生が来られ「集合状態が

悪い」とお叱りを受けたのであった。

でも、この厳格な指導員、このあと、ゼミ生使用の自転車性能を親切に点検したり、出発の見送りや帰館の迎えなど、極めて強い責任感を示され、感服したものであった。

いよいよ八日午後、われわれの退館に際しては、館長以下数人の指導員先生が「財政的にきりつめられ、管理人も不足で十分研究願えなかったが、またの機会にご利用を」と、ていねいにお見送り下され、一泊三食付き二千円の国営施設を再度利用したい気持ちをゼミ生諸君と共に抱きながら、殆んどわれらの専用となつたバスは洲本に向かった。

乗車中がまた、楽しかった。二、三名のゼミ生の談笑が、全く「B&B」か「ツービート」の漫才そっくりで、こんな学生がもし中学校の先生になったら、きっと人気者の先生になり、登校拒否生もなくなるだろう、と心の中で保証したものであった。

島出身者も二人いたし、三日間のゼミ生の「汗の体労」をねぎらって洲本港前で解散とし、精進明け(落ち)になぞらえてビールで乾杯した。この時の快気分を一同が「たまらん」と絶叫した後、それぞれ帰路に

ついたのであった。

要するに、三回生と四回生の勝敗を越えた交歓と汗のスポーツ体練研修の教育的意義大なるものがあつたのであるが、四回生が勝を譲り、三回生と老生に記念品まで贈ってくれたのである。

田中ゼミOBのご健闘を祈る。

近代詩を題材に研究

永野ゼミ

四月二十六日、初めてのゼミOB会を開きました。

昨春卒業の諸君が中心になって世話してくれました。今年のゼミ進学者は二名。募集要項に厳しいことを書きすぎるからではありませんか、とOBに批評されています。

昨年からの二部の国文学は近代詩を題材にしているので、来年からはゼミ生が増えるかとひそかに期待しています(その前は、芭蕉でした)。

私の方、今年には病気に元気がありません(その前は、芭蕉でした)。私の方、今年には病気に元気がありません(その前は、芭蕉でした)。私の方、今年には病気に元気がありません(その前は、芭蕉でした)。

と(なった)。三月に角川書店から『日本名所風俗図会第十一巻近畿の巻I』を出しました。

社会保障について

土井ゼミ

経大に勤めはじめは十年目になり、学生気分が抜けきらず、初初しかった(私)も、おそまきながらそろそろ教師らしくなろうと思いついています。

数年前から、毎年二泊三日のゼミ合宿を行い、朝・昼・晩と寝食も忘れて、社会保障の基礎理論について学習・討論をつづけてきました。ゼミ生にはきわめて好評(?)と確信していますが、私のほうが年のせいか少し息切れを感じはじめました。しかし、ゼミ生の熱意にこたえるために、今後もこの合宿をつづけていきたいと思っています。

ここ二、三年間に同窓生諸君からゼミ同窓会を開くように、との強い要望をうけておりますので、早期に実現したいと考えています。その節はよろしく。大きく成長されたゼミ卒業生の姿を拜見できることを、大いに期待しています。

上新庄駅の周辺

あのとき・あのころ

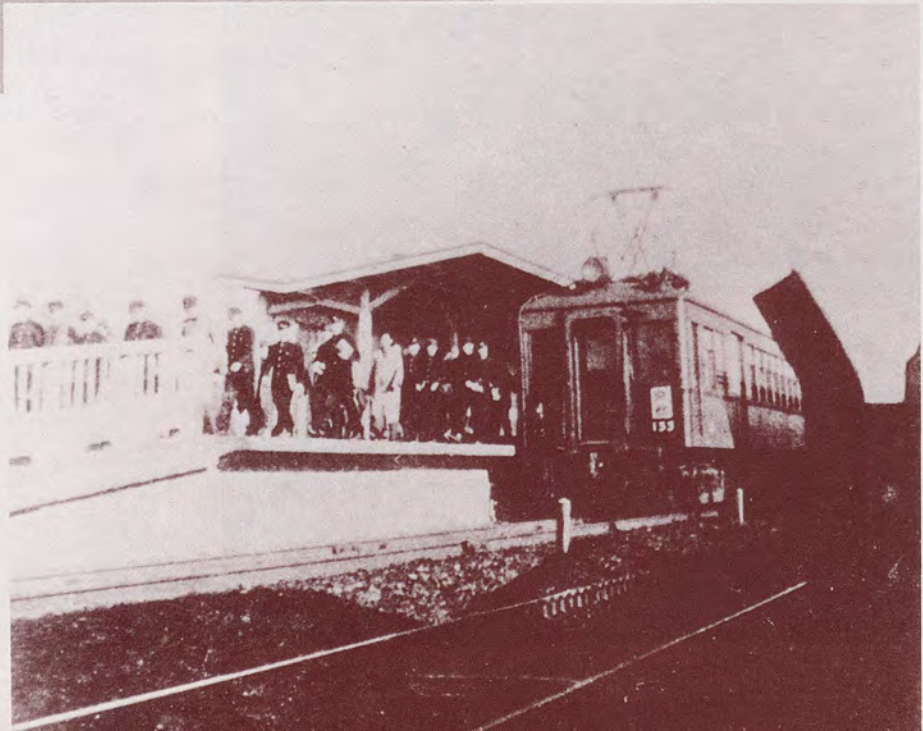
阪急電車の梅田発京都河原町行各駅停車や、あるいは地下鉄堺筋線の高槻行き車両がホームに滑るように入ってくる。車掌は「上新庄」と一声車内マイクでホームには告げるだけである。立派な屋根があり、ターミナルビルの高架三階に相当するところにある。出口は小松商店街方面への北出口と昔からの方向に出る南出口がある。そして、南出口には東出口と西出口があり、東出口側には池田銀行と関西相互銀行があり、ターミナルビルにつきもののいろいろな職種の商店が並んでいる。それを一歩出るとバスターミナルがある。西出口は小学校の塀につきあたる。もちろん、出口はいずれも自動改札機である。駅を一歩出るとはなやかな駅前商店街が目に入る。

さて、時を四十余年前に戻してみよう。

天六にある新京阪デパートの二階から二両編成のオンボロ新京阪電車が田園の中にボツンとあるホーム？に入る。「上新庄・上新庄、瑞光寺、昭和商前」と車掌が大声をあげる。学生以外の乗降客は数える程しかないが、うっかり、この「昭和商前」ということを車掌が忘れると、おそらくその電車は絶対に発車できない。というのは、学生に「こら！忘れとるやないか。もう一度やりなおせ！」といわれて、車掌はあわてて「上新庄、上新庄、瑞光寺、昭和商前」とやりなおしをして、「よし行け」といわれて、やっと電車はガタンと走り出すわけである。出口といえは、一カ所で（現在の南出口東側）、木造の六尺四方の小屋がボツンと一つあるだけであり、駅員も二人いるだけである。改札を出るときも入るときも、真面目な学生は別として、大半が片手をあげればまだ良い方で、何もいわず、何もせず通り抜けるのが普通である。

駅を降ると、学校で始業を知らせるカーン、カーンという鐘の音が聞える。これを聞くと学生は、それとばかり、のどかな田園風景の中の小川沿いを（現在の新幹線のところ）砂煙りをあげ、可愛いハッチャンのいる平安食堂を左にみながら砂煙りをあげて走り走る。約七～八分で教室（B館）に着く。駅前の若干の家屋を除けば一望千里何もない。ただ目に入るの一面の田畑である。季節によればレンゲ畑あり、菜の花畑あり、遠くには江口の川堤がみえる。当時、下新庄から通学している友人と別れるときのあいさつは「狐にばかされずに帰れよ」といったものだった。

今の学生諸君には信じられない言葉であろう。しかし、主観の相違もあるだろうが、ある意味では良き時代でもあったといえる。これは体験した人間でないとわからないことであるといえるであろう。





キャンパスの今昔

黒正巖先生胸像の碑文

黒正博士は本庄門下逸材アリ京大農学部教授トシテ農史ヲ講シ風ニ著者「百世一校」の研究ヲ以テ知ラレタソノ寛容ナ性格ニヨリテハ凡ソ知友ヲ得ソノ學殖ト機智ニ富ム講義ニ以テハ大衆ニ親マルク昭和十年九月九日大阪府助役有田邦敬氏等ノ懇請ト河田首野兩博士ヲ初メ師友一同ノ復讐下ニ私賄ヲ授ジテ昭和高等商工創造シタソノ首年教育ノ情熱ト魅力アル人格トハ日ナクシテ敬職員學堂ヲ一カトスル瀟然融和ノ精神ト進取自白ノ校風ノ樹立ニ成功シ昭和學園ノ名ヲ高カシメタ 十九年他ヲ兼任ノマテ博士ノ母校六高校長ニ迎エラレ戦後引續キ岡山大学創設ノニトニ東奔西走中廿四年九月届出願ヲ以テ急逝サレタ 我學園ハソノ間若干ノ制度的改善ヲ経テ廿四年二月大阪経済大学トナリ博士ノ學長兼理事長在任僅カニ半歳ニシテ悲運ニ遭遇シタ因ヨリ全學六ノ災厄ニ屈スルコトヲ力ヲ結集シテ學園ノ発展ニ努メタガ速クモ十餘年ノ歲月ハ流シ今春ノ経営學部ノ増設ト今又本館圖書部竣工ト以テ漸ク博士ノ遺志ヲ承カシメタルニ近イ内容外觀ヲ具スルニ至ッタ恰モ博士ノ没後十五周年ニ當リソノ偉業ヲ松工遺徳ヲ俎ト共ニノ傳統ト學風ノ標章ヲランニトテ新念シテ大學ト同窓會相計リヨリ胸像ヲ此處ニ建設シタ

昭和十九年十月

大阪経済大学学長 藤田敬三

学園の沿革

7年4月	浪華高等商業学校を大阪市南区瓦屋町に開設	26年2月	間学部・4年制)の増設認可 学校法人昭和国际認可 経済学部経済学科教員養成課程設置認可	36年5月	学生寮1、400平方メートルを新築 C館を増築4階建、2、723平方メートル	43年12月	摂津市別府に土地10、458・6平方メートルを購入、2、414平方メートルを借地し造成中着工
9年10月	校舎を東淀川区大隅通りに新築移転	3月	学制改革によって大阪経済専門学校を廃止	37年3月	経済学部経営学科第一部(昼間部)・第二部(夜間部)を増設	44年2月	芸術会館437・5平方メートルを竣工
10年9月	財団法人昭和国际設立、京阪電鉄社長有田邦敬理事長となる	4月	理事西野入愛一が理事長、理事長藤田敬三が常務理事に就任	38年11月	教授藤田敬三が学長に再選	3月	茨木校地第一期工事完了
16年12月	昭和国际高等商業学校と改称、黒正巖が学長に就任	10月	理事西野入愛一が理事長、理事長藤田敬三が常務理事に就任	39年1月	経営学部経営学科第一部(昼間部)・第二部(夜間部)を新設	9月	専務理事北里武三辞任
19年2月	大阪女子経済専門学校を設立	5月	理事藤田敬三が理事長となり同時に理事長に就任	40年2月	経営学部経営学科教員養成課程認定	11月	専務理事北里武三辞任
20年5月	菅野和太郎が学長に就任	4月	理事西野入愛一死去	41年2月	D館を増築5階建、4、707平方メートル	7月	専務理事北里武三辞任
21年3月	昭和国际高等商業学校を大阪経済専門学校(男女共学)に改称	10月	教授田岡嘉寿彦が理事長となり同時に理事長に就任	42年2月	大阪府茨木市郊外に校地143、828平方メートルを購入	47年4月	教授北里武三が専務理事に就任
22年1月	理事本庄栄治郎が理事長に就任	12月	理事西野入愛一が理事長に就任	43年2月	経済学部経営学科第一部及び経営学部経営学科第一部の入学定員を250人及び200人に変更	48年4月	専務理事北里武三辞任
24年2月	理事黒正巖が理事長に就任	3月	理事西野入愛一が理事長に就任	44年2月	大学院経済学研究科(修士課程)の設置認可	49年4月	専務理事北里武三辞任
25年2月	設置認可(新制・4年制)の科第一部(第六高等学校長黒正巖が学長に就任)	8月	理事西野入愛一が理事長に就任	45年4月	大学院経済学研究科(修士課程)の設置認可	50年1月	専務理事北里武三辞任
26年1月	経済学部経済学科第二部(夜	11月	理事西野入愛一が理事長に就任	46年4月	大学院経済学研究科(修士課程)の設置認可	51年9月	専務理事北里武三辞任

越前の代表的な豪農であり、自由民権運動の指導者であった杉田定一（一八五一—嘉永四年（一九二九）昭和四年）が『経世新論』を公刊したのは、一八八〇（明治一三）年一〇月であった。同年の三月に起稿、八月三日に出版届、一〇月出版という運びで、四六版二二頁のこの小冊子は、大阪府心齋橋通北久太郎町北入、柳原喜兵衛、石川県越前国福井本町、酒井安兵衛、福岡県筑前国福岡資子町、林釜助の三カ所を販売所として、約一五〇〇部刷られたという。後年、杉田定一は『経世新論』は当時余が天下に向って遺言するの覚悟で書いたものであったが、又もこの遺言によって筆禍を買い、三度獄中の人となるに至ったのである」と述懐しているように、それは肚をくくっての公刊であると同時に、自由民権運動の昂揚との交錯をぬきにしては理解できない行動であった。

越前の自由民権運動は地租改正反対運動を導火線として拡大し展開していった。地租改正は幕藩体制から明治以降の資本主義体制へ移行する過程でもっとも基礎的な改革であり、それは土地制度と土地課税の根本的な変革を内容としていたが、越前の場合には、土地課税のうち、地価の算定基準となる収穫反米の査定をめぐる紛議が生じた。「此見据（＝収穫反米の査定）ハ富士山ハ崩ルトモ崩レズ、ゲンノウニテ打トモ摧ケズ……是ヲ受ヌトセバ太政官ト首引ノ論ヲスルカ、論ヲスルトセバ大政府ニハヨモ及ブマジ。亦是ヲ受ヌ

ハ朝敵ナリ、然レバ外国江赤裸ニシテ追放ツ」という当局の暴言に端的に示されている強圧的な査定の実施に対し、一八七九（明治一三）年の春、出獄した杉田定一は反対運動の先頭に立ち、「官ト云ヒ民ト云フモ均ク是レ人類ナリ、均ク是レ人類ニシテ人民ノ申立ニハ相違アルモ官ノ見据ニハドコドコ迄々モ誤謬ナシト云フノ道理ナシ」として、民権思想に裏づけられた運動の発展をはかっている。

地租改正反対運動を有利にすすめるなかで、同年七月、杉田定一は自郷学舎を開校した。醸造業をも経営していた杉田家は酒倉を改造して学舎に開放したが、土佐の立志学舎が旧藩主山内家から開成館と資金を借りて設立され、強い士族の雰囲気をもっていたのに較べらるならば、酒倉の中で誕生が象徴しているように、それは平民的であり豪農的であった。開校日の来賓者三五人、かれらが贈った一〇銭または二〇銭の祝儀は計二四二〇銭となり、それに酒が二升あったというから、まったく

大槻 弘

「経世新論」について



平民らしい様相につつまれての発足であった。毎月の舎費二〇銭を払って参集した舎員は当初二四人であったが、その後徐々に増え、翌年になると坂井郡に限られていたとはいえず、四九カ村七九人に達した点と、だいたい二〇才未満の青少年が多いなかで、地租改正反対運動を指導していた戸長二人、地主惣代一人が参加していた点は、特に注目されてよい。

自郷学舎の開校から約一カ月おくれ、民権政社としての自郷社が創設された。ここに全国各地の民権政社の活動と連動しうる組織が初めて結成されたのである。同社の規則では、「自郷学舎々員ハ必ズ本社ニ加入スベシ」とあり、自郷社社員三六人に学舎の舎員七九人が加わることにより、社長杉田定一のもとに一一五人の大世帯が出現した。社員三六人の地域分布をみると、坂井郡の一六カ村からなっているが、一村あたりの社員数が多い村は、とりもなおさず地租改正反対運動を激しく闘った村であり、このことから自郷社の成立基盤をうかがうことができる。

自郷社の設立による組織の緊密化と拡大は地租改正反対運動をより有利にみちびく道標となった。事実、この年の一二月には、地租改正事業の総裁職にあった大隈重信の譲歩するところとなり、越前七郡地租改正再調査という全国でも稀な、反対運動にとっては最大ともいえる成果を手中に収めることになった。再調査が行なわれるということを契機として、反対の諸村はこれまでにない規模で急速に結

集しはじめ、ついに、一八八〇（明治一三）年二月一七日には、南越七郡聯合会が結成された。足羽・吉田・大野・坂井・丹生・南条・今立など七郡下の全村浦数は一、二九七にのぼるが、このうち四八二カ村、約三五％の村が聯合会に参集した。南越七郡聯合会の開設大意を起草した杉田定一は、そこで「夫レ人ノ権利ハ結合ニ因テ保全シ……若シ人民ニシテ不羈独立ノ精神旺盛ナラシメバ仮令県官専ナリト雖トモ豈ニ之ヲ施ヌヲ得ンヤ」と明言し、民権思想にもとづく指導理念を明確に強調している。この聯合会を背景にして越前の国会開設請願運動は展開したのであり、請願署名者約七千名を数えるまでに運動は昂揚していった。

杉田定一が『経世新論』を執筆しはじめたのは、まさに南越七郡聯合会が成立した時と軌を同じくし、二月であった。越前における自由民権運動がピークに到達した時であり、地元運動にかれが全精力を傾注した頃でもあった。それは意気天を衝く筆勢によって書き上げられたと思われる。新妻都賀を迎えたのは、それから三カ月後であった。

『経世新論』は、宇内は戦国、腕力論、外交論、東洋恢復論、機論、不平党論、自由可進取論、唱難論の八項からなっている。これを要約すれば、(一)国際情勢を戦国の世として把握し、列強の侵略が世界的な規模で存在することを指摘、(二)国家の独立と人民の安寧の保全には、力には力に対応することこそ天地

自然の条理、(三)現下の日本の衰勢は、列強諸

国への幕吏の弱腰から生じたのであって、国権を恢復するには、万国と交際を絶ち、全国を焦土とするぐらいの覚悟の必要性、(四)アジア六億の民を迷夢からさますには、不羈自由の制度を確立し、欧米諸国と雌雄を決する非常の断の必要性、(五)行動をおこすには機を自ら醸し、一旦機が熟せば、風雲に叱咤し、龍虎を鞭打つこと、(六)不平党（民権党）を取り締まるなどは極めて小事であり、当局者は目を海外の大事に向けること、(七)自由は自ら進んで取らなければならないが、徒手空論では至難、(八)天下の大事を行なうには、一身を正理の犠牲に供する唱難の士であれと主張することと結びとした。

たいへん大雑把な要約となったが、国際関係を論じ、世界の中で日本の進路を取り上げると、民権論は影をひそめ、国権論が極めて鮮明かつ大胆にうちだされてくる。すでにふれたように、国内の政治・社会問題の解決

は民権論で、国際問題は国権論という二元論は、民権運動家としての杉田定一の限界を露呈するものであり、『経世新論』は国権論的思考の集大成となった。しかも、この書物によって筆禍を問われ、大審院で金沢裁判所の原審通り六カ月の判決を受けたことは、杉田定一にとって皮肉としか言いようのない結末であった。

自由民権運動を日本における最初の民主主義運動として高く評価して評価しすぎることはない。今から百年前の一八八一（明治一四）年には、民権運動の中から生まれた私擬憲法草案約四〇種類をかぞえるまでになり、また同年の一〇月には、全国的な規模をもつ最初の政党として自由党が誕生する。岩倉具視をして「思つにフランス革命の前時といえども、おそらくこの形勢を距るはなはだ遠からざるべし」と言わしめるほどに、また、一詔勅を発して国会の開設を明治三年と決定し、憲法欽定方針を明示して、民権運動の鎮静化をはからなければならぬほどに、運動は非常に盛り上りをみせた。

最近の憲法改正論議や軍備増強の動きを検討するためには、私たちは、輝かしい民権運動の軌跡を再確認すると同時に、『経世新論』にみられるように、民権運動の有力な闘士でありながらも、なおかつ国権論的思考を克服しえない弱味を改めて究明し直す必要がある。このことは民権運動の敗北の真因を求めることにもなる。

創立当時の母校を思う

山上善彦 (2)

本校に入学志願をしたのは昭和八年四月でした。当時、大阪に私学の単独高等商業学校は何処にもありませんでした。わずかに他大学の高商部もしくは専門部といった類でありました。我が経大の前身である浪華高等商業学校のみがただ一つ存立していました。校舎も仮校舎住まいで、入学試験も市内南区仮校舎で行われました。

私どもは岸和田中学より尾食、川端、梶本(三氏は故人)、松原、村田の六名が受験しました。幸い六名とも全員合格出来まして本當にうれしく思い、その後三年間は朝な夕な楽しく青春の一齣を勉学にいそしんだものでした。入学しましたら、一年先輩の宇野さんがおられ、私ども後輩のお世話を下さったことも昨

日のように思い出しております。校舎もそのような仮住まいで、南区瓦屋町より続いて福島西通りの工科大学を借り、ようやく現在の西大道町に決定したのは昭和九年四月頃と思っております。それも、現在地にポツンとクリーム色の屋内体育館が建設されました。それでも、当時の学生諸君には仮校舎に比べればずつとましなことで、不満足ながら毎日通学したものでした。

その体育館も内部は三教室に区分され、私たち二年生は真ん中で、両端から一年と三年にはさまれて講義を聞くことになりました。ですから、三学年が一齐に授業を始めると、両方から先生の講義の声、また、生徒の声等が聞かれて、自分たちの講義の聞きづらかったこともたびたび

あったように思われました。

当時の教室にお迎えしたのは藤原先生だけでしょう。先生も、今になって当時の頃のことなどを思い出していただけ一人と思えます。大変不便な、物足りない施設の中で勉強している間に、ようやく三階建ての教室、講堂(時計台の建物)、テニスコート、正門が造営され、ようやく学校らしくなりました。そうして、学生諸君もこれから勉強という頃に、浪華学園財団問題が起こったのです。

現在の浪商の火災事故、当時、淡路所在の頃の事です。我が高商も同じ学園のグループでありましたので、被災の浪商全在校生も私たちの高商の教室でもともに勉強をしたのも、当時の忘れ得ぬ思い出の一つであります。このことの詳細はわれら卒業生



の一回、二回、三回の方々はみな覚えておられることと思っております。

今の西大道町も、その頃は現在のよくな立地事情とは異なり、大変静かな場所です。我が母校のみクリーム色の大殿堂校舎が朝夕の太陽に輝き映えて、自分たちを迎え入れてもらったものでした。休講の時は、校外の野原で寝ころんで若き日の思い出にふけたものでした。瑞光寺も時にふれ訪れました。西大道町在住の知人宅(在学中に心やすくなった方で、学友たちとそろって教練服を預かってもらったものです)も学校の延長で出入りさせていただいた。

学校付近は一步外に出ますと、軍事教練も出来ました。前同窓会理事長渡辺さんは、すでに当時中尉でした。私たちの教官を下さったことも思い出されております。登校、下校の道中もけっこう楽しいものでした。当時は、天六から新大阪に乗って来ました。難波から天六まで市電で六銭の切符です。今の人たちに想像もつかぬことと思えます。また、今の環状線(当時は国鉄城東線)を利用し、天王寺から天満まで乗って天六筋の商店街を歩いたものでした。天六筋も本校の学生は非常な顔役であったと思えます。映画もよく見に行きました。関西学生映画連盟の割引券で、今の松竹座によく入場したものでした(入場料五〇銭が四〇銭でした)。心齋橋をぶらついたり、また、お茶を飲みに入って、店のマッチなどをもらったのも本當に昨日のように思い出されます。

このように、学生生活もこれからと思つ間に学園の財団問題が起こり、初代校長徳永四郎先生外関係の方々も更迭の時期が訪れ、私たち学生もそれぞれ学校存続に全力を傾倒せねばならぬ時が来ました。ちょうど昭和九年十月から翌十年七月頃のことです。いよいよ学園の問題解決に第一

回の全学ストライキを決議し、今の南海高野線河内長野遊園地に集結して本学再建、財団問題の解決の決議を、一泊して決定したものでした。

当時、この行動は、全関西の学校関係者の間でも同情をいただき、学生の真面目な行動と高く評価されたものでした。翌日、学校から先生方が学生を迎えにこられて、全員帰校したのも思い出の一つとして、今もなお頭の中を去来しております。そして、学園の財団問題解決交渉中、いよいよ第一回卒業生を社会に送り出す時が訪れて来ました。しかし、問題中のことで、当時は石川彦策先生が校長事務取扱を拝命された。

スト決行か中止か

卒業式の日(三月十日)の前日に、突然、私が教務の吉岡先生(英語担任主任)に呼び出されて、卒業生送辞を起草せよ、とのことになりました。あまりにも突然の命を受けたので、私も、当時、子供なりにあわてさせられました。しかし、歴史的に今後二度とない卒業式典と思ひ、その夜、帰宅後、早速起草、浄書し、翌日の卒業式典に間に合わせて、私が在校生総代として卒業生に拝読さ

せていただきました。ですから、第一回生の先輩の卒業証書は浪華高等商業学校となっているのです。私たち第二回生も仮校舎生活・財団問題、学校再建等と三年間の種々波乱の学生生活であったが、第一回生のご苦勞な学生生活にも惜みのない同情と尊敬の念を、今もなお忘れ得ぬこととしております。

いよいよ第一回生に続いて私たちも最高学年三年生に進学、高商最終学年になりましたが、まだ学校問題は片付きません。昭和十年七月、第一学期も終わる頃を迎えても問題解決のメドも立たないことになって、学生たちも、去る三月の第一回ストに引き続いて、もう一度ストを打ち、学生の意志を社会に表明しようと、第二回ストを打つか打たぬかの学生大会を行うことになりました。ちょうどそれは七月の終わりであ

りました。その時、学生たちも再びストを打つこと、また、ストを打たずに学校の指示を静かに待つべし、との二つの意見が出たものでした。結局、スト賛成、反対の討議の結果、スト中止で静かに学校の指示にしたがうべし、ということに思想を統一させたのも、渡辺、世良、磯野の各氏と、私も岸中会の一員として、また、当時高商三年の一員として、諸氏と共に同一思想の学生としてがんばったように思っております。

財団問題に終止符

そして、静かに夏休みに入ることに、学園の財団問題の解決を首を長くして待つこととなりました。折しも夏休み中のこと、財団問題解決について、今までの浪華高商から昭和 high 商に改称し、校長として、京

昭和十二年、その頃、三年生の奥野さんの提唱で昭和 high 商にグリーククラブが誕生した。グリーククラブが結成されるまでもりードバンド（ハーモニカ合奏団）があったが、音楽部として積極的に活動しはじめたのは、やはりこの頃からである。ドイツ語を教えておられた平野先

生はバイオリン奏者としてもプロの腕前であった。この平野先生が、下手くそながらも熱心なグリーククラブの練習ぶりを見られ、いい指導者を紹介してやろうということになった。そこで、ご紹介いただいたのが、朝比奈隆先生である。当時、朝比奈先生は阪急百貨店をお辞めになって、

大阪音楽学校（現大阪音大）の講師をしてもらったのだが、わが昭和 high 商のグリーククラブに対しても真剣に特訓を続けて下さった。私は当時一年生であったので、厳格な朝比奈先生のご指導を卒業するまで受けることができたのは幸せであった。

朝比奈先生を迎えた音楽部は活気づき、グリーククラブのほかには管楽器、バイオリン、ピアノ、打楽器は無論のこと、アコーディオンやギターも加えてアンサンブルを結成、軽音楽演奏もやりはじめた。やがて二年、三年と練習を続けた

朝比奈隆先生と昭和 high 商音楽部

戸田秀親 (6)



昭和 high 商音楽部も、定期演奏会をやるほか大阪放送合唱団、その他のコーラスメンバーとしても活躍したり、陸軍病院へ慰問演奏に出かけるなど、校外演奏の機会も増え、在阪大学、高専の間でもその存在を認められるようになった。

ここにいたるまでの部員の努力もさることながら、いやな顔ひとつ見せず、終始熱心な指導を続けて下さった朝比奈隆先生のご好意によるものである。

今や、我が国楽壇の重鎮、朝比奈隆先生の益々のご健勝とご活躍を祈り、併せて、過ぎし日のお礼を申し上げ攔筆する。

都帝国大学教授経済学博士黒正巖先生を迎えられる旨の記事を新聞で知らされ、長かった財団問題もここに終止符を打つ日の近いことを知らされ、ほっとしましたことを思い出しております。

そして、いよいよ第二学期始業式の日が訪れ、全学生もそれぞれ楽しかった夏休みを終え、講堂に集合し紋付羽織・袴姿の黒正校長先生が全校生にご就任の挨拶をされたことが今もはっきりと脳裡に浮かんできております。その日から、母校の基礎もしっかりと地についたことをお互いに確認した次第でありました。その後、黒正先生はずっと羽織・袴姿で来校されておられました。黒正先生といえば、ほとんど和服姿の先生が思い出されます。私たち三年生も先生のご就任後、特別講義を受けました。

翌年、十一年三月、昭和 high 商卒業生として社会に羽ばたかんとする時、我らの卒業アルバムの方々の揮毫の中で、黒正先生は「大道無門」の四字を色紙の真ん中に力強くお書き下さいました。これも自分たちの記念のページとして大切に保存しております。母校を訪れるたびに黒正先生の胸像を拝見して、在りし日の

ことを今さら思い出しております。

長々と学園の古いことなどを記しました。現在の学園関係の方々、学生諸君にはもう一つピンと来ない所もあろうかと思いますが、昭和学園大阪経済大学の基礎は、実に昭和十年九月に決定され、年々卒業され、また、当学園に奉職し、日夜学生諸君のご教導に尽力されて来られた諸先生の一方ならぬご努力の結果とっております。

折しも母校野球部が、遂に念願の関西六大学入りの重責を果たされ、日本津々浦々、我が大阪経済大学ここにあり、と表明されたことは、経大伝統の頑張りズムと融和の精神のあらわれであると思ひ、今までよく頑張ってくれた野球部の卒業生の皆さん、また、現役の選手諸君とともにご同慶に堪えない次第であります。我が大阪経済大学の名声の發揮は、実に、現役の経大関係理事者、学生諸君、同窓生の活躍により決定されるものと信じております。また、願わくばあくまで私学であり、公立の大学でないことをよく考えられ、経大は経大の特色を發揮され、全国諸大学のトップにランクして欲しいものと思ひます。終わりに関係者各位のご多幸を祈念しております。

「昭和高等商業学報」創刊当時の思い出

専用の原稿用紙づくり大喜び

中島 熹

(5)



過日、平素全くご無沙汰の小生宅にも『激江一六号』を届けていただきました。激江も回を追って見違えるように立派になり、内容も充実して豪華となりました。そしてまた、この激江誌の発展が、キャンパスの整備充実と躍進を如実に物語っていて、まことにたのもしくご同慶の至りと存じます。

「同窓会の歴史を訪ねて」の特集記事は、学窓を去って既に四十年余りのわが身にとりましては、ただなつかしく、むさばるように拝見いたしました。私は現在、小さい会社を持ち、この方

の仕事に追われ、誠にあわただしい毎日を送り迎えておりますが、学校のことはつね日ごろ心の隅に屯して離れたこともなく、新聞のスポーツ欄や週刊誌の特集に時折発見する「大阪経大」の文字に心躍らせて参りましたが、今号の激江誌上で、なつかしい浅沼(原)先生や大北先生の文字を拝見し、苦勞の中にも楽しかった新聞部の話がでるに及んでは、もう矢も楯もたまず、筆をとらせていただいた次第であります。

わたしたちの学園生活当時を想い起こせば、それから既に、文字通り星霜四十年、その間に、支那事変の拡大から第二次大戦、それから敗戦につづく新生日本の誕生、朝鮮事変から日本経済の復興躍進と、何人分もの人生を一身に体験させられたような激動につぐ激動、変転につぐ変転の繰り返し、ずいぶん幾重にも重ね合わされた分厚いスクリーンを通して、かすかに垣間見る思いで、なつかしきで胸が一杯になる思いがいたします。

『昭和高等商業学報』は、昭和高等商業学校の校内誌兼同窓会誌としてたぶん昭和十二年、校内自治会の(今の言葉でいえば)文化サークルに属する新聞部が担当して



月刊を目指し、発足したものと記憶しております。

当時の自治会は大別して、運動部と文化部があり、運動部は陸上競技、水泳、柔道、剣道、サッカー、ラグビー、野球および庭球など、また、文化部にはESS(英会話)、珠算、音楽と園芸部があり、その外に自治会各部の予算、決算を取り仕切る総務部があったと思います。そして、この文化部の中に前述の会誌発

行のための新聞部が誕生したわけであり

名付け親は黒正先生

わたしたちが入学した昭和十一年は、昭和高等商業学校としての第一回入学試験実施年でもあったわけで、当時は、同校の前身浪華高等商業学校から移って来られた先輩方が二年、三年の各クラスを構成しておられました。

もっとも私が、ここで昭和高等商業学校と書いたのは、私たちの上級生がすべて浪華高商から移って来られた方たちであったため、学校経営上、あるいは法人格上、浪華、昭和の関係が、前身、後身の間柄であったのかどうかは、今もってわかりません。その間の事情を説明ご発表いただければ有難いと存じます。

とにかく、このような状況で、昭和高等商業学校の同窓会にはまだ、存在しなかったのではありませんか。私自身も同窓会規約など見た記憶はありません。ただし、想像をたくましくすれば、同窓会の結成はたぶん、昭和十三年ごろで、その前年春卒業された第三回卒業生の渡辺達好氏や、世良鍊次氏らが肝煎り役と

なつて誕生したものと考えております。『昭和高等商業学報』の名付け親は、初代校長黒正先生で、あらたに発刊する新聞(会報)題字の揮毫をお願いしたところ、先生は心よくご承引くださって、無造作に引き出しから半紙一枚をとり出し、縦長を半分折り、机上の硯箱から多少チビ気味の筆を採りあげて、『昭和高等商業学報』と一気に大書していただきました。

また、十分乾き切っていない、この題字を大事に持って校長室を飛びだし、中村先生(故人)や浅沼(原)先生とも相談して、この題字を「白抜き」とすることに決定しました。

話は前後いたしますが、校内新聞発刊の構想は、めいめい各自が温めていたはずですが、発議は、多分、中村先生ではなかったかと考えております。部員は当初、五回卒の和田稔君、伊吹雷乗君と小生の三名に、総務部の前田義一君(故人)を相談相手として参画してもらい、部長には浅沼(原)先生にご担当していただきました。

創刊号の記事集めも大変で、トップ記事は多分、校舎増築の件ではなかったかと思えます。現在のB館(?)を正面から見て、向かって右の方に折れ曲がっている教室部分を、さらに奥へ約十メートルほど延ばす工事について、その図面をもらい、計画の概要を伺い、そのまま

記事にした記憶があります。

大広告王は京阪電車

それと前後して、支那経済研究所の発足、研究所建物の新築があり、なかでも特筆すべき出来事は、当時、軍事教練の教官（配属将校とは別）としておられた金子中尉が、支那事変の拡大とともに応召、北支八達嶺で壮烈な戦死を遂げられた件で、ご遺骨の奉迎、告別式の模様からお人柄に至るまで、大変な感動をもって、写真入りで詳細に特集報道したことは、今もって昨日のこのように明確に憶えております。

当時としては、新聞発刊費用の調達は大問題であつたはずですが、文字通り赤貧洗うような状況の中で、十行十四字詰めの新聞部名入りの原稿用紙をつくつてもらい、大変嬉しかったことも併せて、ご報告いたします。

新聞部の予算獲得は、主として前田君におまかせしてりましたが、本当に、彼はこういう仕事には天才の手腕を発揮してくれておりましたが、不足分は広告代でカバーしておりました。

毎号のように犠牲となつてくれたのは、学校そばの小川の先にあつた平安食堂や、みゆる食堂とか甲文堂（？）書店、それ

から校内に出張店を持っていた靴屋さん、なかでも大スボンサーとして忘れることができないのは、毎号下二段抜き、写真入りの広告をいただいた京阪電車でした。

なお、激江誌にご紹介された「昭和商学報」の昭和十五年十一月二十五日発行分に定価五銭とありましたが、殊の外なつかしく、（発刊当初は非売品であつたと思いますが）当時の五銭の威力は大変なもので、現在の物価に比較すればどの位になるものやら、なにしろ、当時は十本入り煙草「ゴールデン・バット」が七銭、高級煙草の「エアシップ」が十銭からたしか十四銭に値上げされたため、その間を埋めるために新しく「光」が十銭で売り出された時代で、わたしたちが新聞の編集に疲れ、空腹を癒すべく、よく利用した平安食堂でも、めし二杯五銭に、おかず代わりの素うどんがやはり五銭の計十銭でこと足り、土曜日になると五十銭銀貨一枚を握つて梅田の阪急百貨店にゆき、七階の大食堂で、十五銭の大ジョッキ一杯と三十銭のコーヒー付きランチを前に気焔をあげ、エレベーターで昇り降りして楽しんでた姿を思い起こします。

話がたびたび脱線して甚だ恐縮いたしますが、このような状態で、苦勞しながらも楽しく刊行の回を重ねて参りましたが、昭和十四年卒業とともに、私は満洲

国奉天の飛行機製造会社に職を得て勇躍渡満、その後も、自分たちが苦勞してつくり出した「昭和商学報」は、創刊号からずっと揃えて大事に保存しておりましたが、昭和二十年、終戦を迎えて大混乱に遭遇し、翌二十一年、内地へ強制送還が開始されると、家財道具はすべて放置してゆかねばならない破目となり、この「昭和商学報」も他の書物や卒業アルバムとともに、そのまま現地に残して、身一つ、リュックサックを背負つて引き揚げて来た次第で、今となっては、薄れゆく記憶にたよる外ありません。

名簿を繰つてみても、同級生であつた方たちの中で物故者は既に三十名を超え、学園生活ははるかに遠いものとなつております。それだけに、追憶の情ひとしおつので、クラスメートの方々は、せめて文通なりとも、との念、切なるものがあります。

私は現在は東京に在住し、日東実業株式会社代表取締役をいたしております。在京の方、あるいはご上京の方は是非ご連絡賜りたくお願いして、とりとめもなく書きなぐつた小生の追憶記の筆を擱きます。

斜にみたる黒正イズムと私

永川 仁一 (6)



去る昭和十一年夏、大阪朝日会館で昭和商主権の映画観賞の夕で「ワルツ合戦」が上映され、それを私も見に行った。壇上で挨拶に立たれた校長の黒正巖博士（当時四十二歳）は、「自分は既に三回渡欧したが、出発すると何か事が起きて帰つてくる。私は三十四歳のとき『百姓一揆の研究』で博士になつたもので……」と

なかなか威勢のよいことをいわれたのが印象に残っている。堂々たる体軀、熱弁ユーモアあり、潑刺としたオリジナリティーに富んだ人だと思つた。翌年、私は昭和商に入社した。

経済地理学（チューネンの立地論——これは青山秀夫博士執筆——その他）を担当され、もの存在するもの存在する理由あり、存在する理由すなわち存在せざる理由である、という弁証法的な考え方

をユニークに、ウィットに富んだ方法で展開され、同じ経済地理学でも神戸商大の田中薫博士とは異なるのだと力説された。時事問題の解説、ものの考え方、見方を話され、農業政策の試験問題にも自問自答せよ的なものを導入され、時代の先端をいつたもので、今でいう時代の先取りをいつも勉強しておられたようである。その思い出を、断片的に若干あつてみよう。

昭和十二年十二月号の『改造』春宵（近松秋江著）——現在、私は所蔵している——に黒正先生をめぐる一連の学者グループのことが仮名で掲載されていた。先生の親戚の著者が先生にお金の無心をいつたが、それを断られ、その腹いせに書いたものであるが、祇園「一力」、人力車、長襦袢など、当時の模様がよく描写

されているが、やはり先生はどんな宴席でも実に座談がうまく、話題も豊富で、若い時分はよく勉強しておられたことが手にとる如く詳細に記載されている。

また、興垂奉公日とか、大詔奉載日という何々の記念すべき日には、一般大衆は緊張し、その日を節制自重して真面目に送るものであるが、先生は逆に、こんな日こそ大いに破目をはずし、ビールでも飲んで（先生はビールがとても好物であつた）語らい、振る舞い、そのかわり、他の多くの日を真面目に過ごせばよいのだと、いつも逆のことを話され、かつ、実行されていた。

大隅通りから京都市内までの徒歩の遠足には全校生が参加し、黒正校長をリーダーとして、大北教授、その他の諸教授もこぞってこれに参加された。これによ

って、校長、教授、学生との人間関係もより親密になったと思う。夏服には昔の高校生教育を目指し、霜降りの、詰襟の学生服を着用させられたのも、先生の教育方針のあらわれであったのであろう。

金儲けは「傾財学」

大阪から帰省する時は、必ず、多少にかかわらず、父母に土産物を買って喜ばすようにとか、手紙を書くとか、学校で習う以外のもの、いわば無用の学を勉強すべきだ、無用の学がすなわち有用の学となるので、酒であれ、麻雀であれ、何でもやっておけば、無用の学が必ず何時か自分に役立つ、いわば芸は身を助くということだ。

就職希望にしても、当時は、重工業関係を目指したものが多かったが、先生は人のあまり行きたがらない希少価値の会社、たとえば、金融機関を選ぶのも方法ではなからうか、それが将来開花するのだ、ともいわれた。

時局は、まさに風雲急を告げ、準戦時体制から戦時体制に移行、日本農業にも一つの転期が訪れ、その恩恵が及ばんとした時、先生は日本農民の将来を憂えて、「農民は次の時代に備えよ」と、堂々と朝日新聞に警告しておられた記事を思い

出す。農業政策の講義には、農業は非営利的、スポーツ的で、骨折りの損のくたびれもつけて、しかも減価償却の観念がないとよくいつておられた。

十五年八月、いわゆる近衛内閣の新体制運動として米の統制が実施されたが、これからは米が腹一杯食べられない、と一般日本人はにらんで、帳簿上の米石高より短期間の間によく食べ、約七、八百万石の米が知らぬ間に不足していたのである。約五百五十万戸の農家には、実際のところ、トータルで岡山県くらいの隠し田があり、それがあって計算とはどうしても合わないのである。日本人はそんな不可思議な活力ある浪花節民族である、と。浪花節は指揮者によって合唱は出来ず、個々バラバラである。たとえば、



ダービンの「オーケストラの少女」のようにはゆかないのである。また、日本人は可然民族であり、役所でも上司に対し起案に可然哉、とよく伺いを立てており、適当に、イエスでもなくノーでもなくやっつけている合理性を欠く民族ともいえる。言葉をかえて、日本人に「もつたいない」という精神がある限り、こと農業における資本主義の発展は阻害されるのである、資本主義経済は消費の経済であることを力説されていた。終戦後、時の澁澤藏相が、食糧不足で約一千万人が餓死しそうだと発表しても、一般の日本人はさらさらそんな危機感もなく、逆に、人口が爆発的增加をしているという底力のある偉大な単一民族である。

本というものは、それが必要でなくて

も、自分がよいと思えばその時に思い切って買ってあげば、いつか、それが必ず役に立つものである。どんな価値のないつまらない本のようにみえても、その本を出版すれば、人口十万人のうち一人は買うもので、死亡した人の本は、日本人は原則としてあまり好んで買わないものである。ちなみに、約二十万人の人口を擁する都会では、本式の中華料理店の経営は二軒まで可能ということになるのである。金儲けは散るところに集まるので経済学ではなく、傾財学の必要性を力説された。

歴史は繰り返すとも、繰り返さないともしわれているが、先生は、歴史は一回的であり、それが繰り返すならば社会科学は成立しない。たとえば、淀川の水は瀬戸内海に注ぐが、一部は水蒸気となり空に向かうであろうが、同じ水が絶対に淀川へは流れないことを口癖のようにいつておられたのである。

敗戦後においても、一億の日本人はどの民族によっても力をもって抹殺は出来ないものであり、大いに自信をもつべきである。と同時に、シャウブとかドッジ勸告についてもいっべきところは大いに議論し、先方がやるといえば、援助物資とか援助資金は乞食根性を捨てて、疑わず虚心担懐にもらうものはもたらうらよいので、何もビクビクと遠慮する必要はな

いと語られ、敗戦近く、六高校長に就任の挨拶の時には、戦争熾烈下の時であったにもかかわらず、全校生徒を前にピール機嫌で生徒に訓示されたと聞く。自信をもって自分の信念を忠実に実行されていたようである。

姫路地方に於ける会社、工場にも先生の講演を依頼するところが多く、私が先生の鞆持ちで、二カ月に一度くらいの割合で先生のお供をした。そして、食事をもにしつつ、人生漫談、物事の本質、社会学の根本を教えていただいた。ある時、姫路における先生との約束の時間に木炭車が故障して、だいぶ遅れ、内心ビクビクし、大いなる叱責を受けるのではないかと覚悟していたが、会ってみると、「君が遅れている間に、市街の骨董屋でよい掘り出し物を見つけた」と、ニコニコとしておられた。何がどうなるか、世の中はわからないし、ものごとともりようでどうにでもなるものであると思った。

鰻以外は手つけず

先生は鰻が大の好物で、身と皮の間に百葉の長があるといわれ、「森重」(姫路で最古の鰻専門店)によくお供をし、お陰でそれ以来、私も鰻が好物になり、今日に及んでいる。酒のあとは必ずビール

ルでとどめをされ、酒席では鰻以外のご馳走には殆んど手をつけられなかったことが、今でも非常に印象に残っている。森重のみに、先生の二枚の色紙が今も家宝として大切に保存されている。

同窓会姫路支部結成の昭和二十三年には、明和ホテル(その後焼失)に先生のご出席を得て、錦上花を添えていただいたものである。母校が果たして大学に昇格出来るかどうか、関係者が心配している時、必ず昇格させてみせると言明され、昇格決定の電報を私にいただいた時は全く感激的であった。

先生がもう十年ほど長生きしておられれば、京大、大経大、岡山大も画期的な発展があったのではなからうか、と思うと、かえすがえすも残念でならない。僅か十数年ばかりの先生とのおつき合いであったが、思い出はさらに汲めども尽きず、私の人生にとっても大いなる転機をもたらしたことは事実である。「百姓一揆の研究」「日本農業共産制史論」「百姓一揆史談」「マックススウェーバー」など、先生の著書は現在殆んど所有し、たまにはそのページをひもといて懐かしく思っている。

不確実、不透明性の時代といわれる今後の経済学は、何を基盤として展望すればよいのであろうか。

私と絵画

竹林祐吉

私は小学生の頃から絵が好きであつた。よく何かと賞をもらった記憶がある。中学時代は中断したが、長崎商時代に、親からの仕送りを節約して、初めて油絵の道具一式を買つた。たしか十二円五十銭であつた。当時、長崎は要塞地帯で軍の監視が強く、風景を写生したらいいいちその検閲を受けなければならなかつた。その頃の絵としては、下宿の窓から高商の裏山の雨上がりを描いた四号の風景が一枚あるくらいだが、この絵は当時よく遊びにお邪魔していた山邊六郎教授(原価計算の大家で、現在アジア大学教授)に厚かましくももらつて頂いたが、今から十年ばかり前、東京の先生のお宅を訪ねたとき、晴れがましくも客間の壁にかけて頂いていたのには全く恐縮した。



九大に行つてからも、独りで時々描いていたが、妙な縁で日本画の故田中冬心画伯(津田青楓画伯の弟子)の家に出入りするようになり、いまにして思えば、絵のころといふものを教わつたような気がする。この時代の作品としては、油絵の小品が二、三点残つている。学従出陣で軍隊にかり出されたが、経理部幹部候補生としての教育を受けるために北京にやられたとき、その途中、車中や停車場頭の寸景などを小さな手帖にスケッチしたのがいまも残つている。今みれば全くデッサンもへチマもないお粗末な落書きにすぎないが、想い出として捨てきれないでいる。

昭和三十二年三月、復員帰国し、再出発のための身構えをするうえで、雑多な趣味を思い切つて整理したが、遂に最後まで捨て切れなかつたのが、やはり絵を描くことであつた。しばらくは独りで描いていたが、自分の力量の社会的、客観的評価を試すつもりで、二十四年、郷土熊本地方グループ「銀光会」に小品三点を一般応募してみた。ところが、思いがけなくもいきなり奨励賞をもらつた。

このように、全く駆け出しの身にして余りにもトントン拍子に入選していくことは、確かに嬉しいことではあつたが、他方、我ながらやはり不安でもあつた。そうして東京・上野の美術館で、並べられた自分の作品をみたと、周囲の他の絵に押されていかに弱々しく、影が薄いのに驚き、デッサン力の不足を痛感した。

私と書

鷹野千代子(14)

今から考えてみますと、私と書との出会いは、もの心ついて、小学校での書き方の時間に初めて筆を持つたことでした。しかし、女学校半ばにして戦争のためやむなく習字といふものから遠ざかつてしまいました。結婚後、主人が軍隊から持ち帰つた美しい手紙が出てきました。母は戦地へ行った息子にせつせと便りを送つたのでしよう。主人の話では毛筆ですらすらと消息を綴っている母の姿をおもひ浮かべ、なつかしく読んだ、とのことでした。それを知つた時、私は、古きよき時代に、漢学者

夢ぼけ

太田 一澄(17)

(安昭)

「知る人ぞ知る」ところの、アマチュアカメラマンの第一人者・太田安昭氏の作品をご紹介します。……はじめて公昭先生(東大寺前管長、清水公昭先生)お住まいの宝蔵院に参上させていただきました。昭和四十九年の秋深い一日でした。そして思いがけずも、お庭で数多い仏さまたちに最初の拝観を得ました。池のほとりや、大額皿の中、また木木の根っ子や、落葉の陰に、毅然とあるいは寂然と安居されている仏さまたち……私は私が享けた結縁を深くよこびました。私はとつさに、この仏さまを撮りたいと思ひ、不躰にもそのことを公昭先生に申し上げましたところ、幸ひ公昭先生は即座に私の希いを快くお許しくださいました。……それから、私の奈良通

供も成長し、主人関係の手紙も代筆せねばならぬことがふえ、そのたびに、時代とはいへ、「何と情ない」と人知れず劣等感を抱く様になりました。

そんなある時、ふとしたことから、小野鷲堂先生の書風を学ばれ、結婚前のお嬢様や奥様方に、手紙の書き方から日常の諸式一般、短冊や、色紙の小作品に至るまでを日本の心と



い、宝蔵院通いがはじまつたのです。……秋にご縁をいただき、冬・春・夏・秋と季節が移りかわり、またたく間に二年有余という歳月が過ぎてしまいました。……これを一冊の写真集にといった予想もしなかつた望みが湧きあがってまいりました。公昭先生にお話し申し上げてみますと『ほら、おもろいな』と快諾……

即刻、題字や玉稿まで添えていただく幸いに……(写真集『夢ぼけ』あとがきより)浴されて、写真集『夢ぼけ』が誕生しました。(昭和五十二年四月 日本写真企画発行)その後『続夢ぼけ』も発行されており、ますますのご活躍が期待されます。(前田記)

ともに楽しみながら静かに指導されている備仲素娥先生に出会いました。さっそく入門させていただき、忘れていた筆の運びを思い出すことが出来ました。以来、楽しく、むつつかしく先生の美しい書をまねることに始まり、何時の間にか、自らも手紙をしたため、短冊や、色紙にも筆をほしらせ、ぼちぼち書の楽しみを感じる程になっていきました。また一方では、日展、その他の展覧会にも足を運び、女学校の恩師、炭山南木先生や、息子がかつて師事していた西村桂洲先生の、力強い書にも眼をむける様になっていました。それは備仲先生のもとで、ある程度、初心を克服出来た私にとって全く新しい発見でした。まだ体力に自信のある間に、少しでも努力してみようと思ひ、西村桂洲先生を訪ねたのはそのころです。先生も心よくむかえて下さいました。先生の下では第一線で活躍されている多くの人達や、潑刺とした研究心旺盛な、多くの若い子弟達が、先生を慕って勉強されていました。私にとつてはきびしい修業が始まりました。しかし、先生は「常に自分の体力に合わせて病氣などをしない様に努力しなさい」と温かく励まして下さいました。

中国漫歩

谷川 徳五郎 (8)



手紙や葉書を上手に楽しみながら書きたいと思つて始めた書の道が、何時の間にか、大変きびしい方向にむかっていることに気が付き、それでも立派な師に師事している喜びをかみしめながら、私なりに努力を重ねてまいりました。今では私の様な思いで筆を持ちたいという人や、小学生達が週に一度たずねてくれ、きびしい修業に耐えて努力している私を励ましてくれています。

私は、昭和五十五年四月、北京、天津を訪問した。もつとも、昭和五十四年にも訪れているので、これが二度目の訪中である。その時の感想を漫歩の記事として寄稿する次第である。

◆天津市水上公園にて

第一次訪中の時は中国船「輝月号」に乗り天津新港に上陸、五一大会五月一日の労働祭のこと）に友好親善として参加、見学した。

諸先生方に支えられながらもますます書の道の深さを感じ、日々古い時代の名筆の勉強を重ねております。線の動き、筆の鋒先の使い方は一朝一夕に出来るものではありませんが、奥深さを表現した筆づかいのむづかしさを、しみじみと感じながら努力している毎日でございます。

今回の第二次訪中の時は人数が少なかったの、水上公園で自由行動になり、個人的行動がとれた。西湖に似た静かなたたずまいで、中国の古都の貫録は十分である。ほんとうに土壌の色といい、立ち木の趣といい、総てが日本の感じでなく大陸的であり、水墨画のようである。何分とも第一次訪中で方角などがぼぼわかつていたので、道標などを

迎り、また、往来する中国人、小孩子(子供)に尋ねつつ行動したが、なんととっても広過ぎる。遂には迷つて出口がわからなくなつた。ああ、やっぱり大陸は広大ななという感じがひしひしとした。

◆王府井大街を歩いて(北京市)

われわれ参観団は北京市内の北京飯店前にて一時解散し、一応、自由行動となつた。北京飯店付近は人間で一杯だった。人間というより、人民服がウヨウヨ動いているという感じの方が適切である。大通りは自動車のかわりにむしろ、自転車の氾濫である。その人民服の中をかき分けるようにして、ただ独り、勇気を出して歩いてみた。

王府井大街は北京一番の繁華街で、日本の東京・銀座通りに匹敵するところである。すれ違ふ中国人は皆、ただ一人の日本人にさも珍しそうに

目を見るが、大したことはあるまい、と二三、三丁と歩いた。小孩子をつかまえてきいてみた。「公用電話在那児?」「一直走吧!」

◆前門飯店付近にて

われわれ日本人は前門飯店に宿泊した。朝四時半頃になると、うつつらと東の空(日本の方角だなあ)と思いつつ)が白みかける頃、前の道路で市民がそれぞれ一団となって体操をやっている。いわゆる太極拳である(私も最近、太極拳を習つた)。

もの好きにも、単身外へ出て朝の散歩をしてみた。北京の四月の朝は未だ寒い。吐く息が白い。二丁、三丁と歩いてみた。人民公社の食品店ではこんな早朝から飯を食べている工人がいる。ふと前方を見ると、なんだかさわがしく、けんかをしていた。

一団が段々とこちらへやってくる。公安員が通つたが、別に止めようともしない。よくきけば、個人の夫婦げんかであるから、無関係との話やはり、大陸的なアと思った。

◆書画、骨董、刻印屋の店

古道具、書画、骨董、筆、墨、刻印などを売っている店の多い街、瑠璃廠を歩いてみた。

中国風の軒の低い、少々カビくさい古びた家が建ち並び、胡同へ入ると全く現代的な感じはない。とある



一軒の店にただ独りで、思い切つて入つてみた。正面に、有名な寒山拾得の詩「月落烏啼霜滿天」の拓本がまず目についた。服務員(店員)さんに、「毛筆有嗎?」「とさくと、「有請您看、甚広毛筆」と答えてくれる。そして、古本も見せてくれた。

◆八達嶺にて

觀光団を乗せた公共汽車(バス)はどんどん進み、北京を離れて二時

間、八達嶺が近くなつた。日本内地で見ると土壌の色と異なり、なんとなく黒ずんだ岩石が多い山波が続く。八達嶺は近い。四月中頃だが、なんとなくうすら寒い。桃の花が咲いている。時に解放軍の車が行く。ほどなく到着したが、延々と続く長城は往時がしのばれる。ここでは人民服ばかりでなく、万国の觀光団が集まり国際色豊かな感じがした。万里長城、なんといつても雄大という一語に尽きる。大陸の象徴であり、大陸を呼吸しているようにさえ感じられた。

高橋 努著 『児童福祉論序説』

発行所 社会福祉研究会
発行年 昭和五十六年四月三日
定価八〇〇円
小生、(富山第二高校教諭)このた

び「児童福祉論序説」という小冊子を大阪にて刊行いたしました。大経大卒業後、現場の教育にかかわりながらとらえたものをまとめて出版したものです。学生時代、木村武夫先生にご指導を受けました。愚書は、児童福祉について概説的に著したものであり、今後、さらに論究してゆきたいと思つておりますが、一度ご拝読いただければ幸いです。

(以上、本人の書信より作文。文責：事務局・比企)

一九八一年六月三日(水)、毎日新聞・富山版、文化欄、新刊紹介より転載すると、

「児童福祉の意義」児童福祉確立へ

高橋 努 (34)

私は帰りに、一日本人として、戦没した亡き英霊にそつと手を合わせて冥福を祈り、再び、公共汽車の人となった。解放軍のトラックが砂塵をけたてて通り過ぎて行った。

なお、天安门広場、人民大会堂、故宮、天壇公園、頤和園、明十三陵など、記せば枚挙にいとまはないが、限られた誌面でもあり、次の機会にまた記すことにしたい。

中国・天津市、北京市の好朋友と別れを惜しみつつ「日中両国民世世代代友好」を叫んで、北京空港より中国民航で無事帰国、私の中国漫歩も終わった。

名簿ができました

「限定出版」につき残部僅少です！

ご入用の方は早くお申し込み下さい

- 一冊代金五、四〇〇円（送料込み）
- 支払い方法

- 一、同封郵便振替、二、銀行、三、郵便為替、現金書留
- 宛先〒533 大阪市東淀川区大隅二―二―八
大阪経済大学同窓会事務局

コンピュータによる名簿が確立

同窓会独自のコンピュータによる会員名簿の管理体制が確立いたしましたので、大いにご利用下さい。

- アウトプットできるものは
 - 一、郵便番号による都道府県市町村別会員名簿作成
 - 一、ゼミ別会員名簿作成
 - 一、卒業回数別会員名簿作成
 - 一、封筒用漢字ラベル作成
- したがって、何か会合をされるためのDMを出されるとき、あるいは

右に該当する事項が発生したときは事務局へご相談下さい。

現在、事務局では原則として十月上旬に一回、インプット（会員名簿の修正事項）とアウトプット（各支部用原簿と澁江発送用ラベル打ち出し）を行う予定です。

それ以外のときのご用命は、正式に費用見積をして実費をいただく予定でありますので、お含み下さい。

なお、この「澁江81」に折り込ん

であります業種、クラブ調査のご返信をいただきます次第、これもインプットいたしますので、これが完了しましたら業種別、クラブ別会員名簿の原簿作成にもご利用いただけます。

会員各位におかれましては住所変更、呼称変更、勤務先変更、所属部課・役職移動、電話番号変更などの諸変更がありましたら、コンピュータのテープ自体を変更しないと、相手が機械だけに本部では大変苦勞をしなければなりませんので、何卒事情ご賢察のうえご協力をお願いします。

コンピュータを大いに活用下さいますよう、ご用命をお待ちしております。

「澁江」郵送料にご援助を

昭和五十六年度予算をご覧いただくとおわかりいただけるように、本年度の澁江編集費は一、〇〇〇万円という同窓会全予算の約三分の一を占める巨費が計上されております。これは昨年の郵便料値上げに伴う郵送料増加の結果です。

すなわち、従来一冊百二十円であった郵送料が、本年は二百四十円と倍増した結果、昨年は約二百四十万円であった郵送料が、本年は約五百三十万円と約二百九十万円増になるためです。毎年、発送部数が新会員の増加により約一、〇〇〇冊ずつ増えていくことになり、この状態が続きますと、来年は仮に郵便料金の値上げがなくとも、郵送料だけで約五百八十万円という数字が想定され、同窓会全予算に及ぼす影響が大となります。

つきましては、同窓会の主要事業の一つである「澁江」発行が、この郵送料の値上げを理由に従来のものより質、量ともに低下しないために、会員各位のご協力をお願いする次第です。

同封郵便振替あるいは現金書留、銀行振込など、いずれの方法でもけ

つこうですが、事情ご賢察のうえ、会員各位のご援助をお願いいたします。

なお、ご援助いただく金額には制限はございませんが、会計事務処理上、切手によるご援助はご遠慮下さい。よりよい「澁江」発行継続のためにご協力下さいますようお願い申し上げます。

好評の文鎮が少しあります

同窓会で製作いたしました文鎮がまだ少し残っています。

「とてもよくできている」と好評で、飾りにもよく、机の上においておくだけでもよく、また、子供さんの習字用にも好評です。

ご希望の方は現金書留で五百円ご送金下さい。送料は本部負担です。

レコードが少し残っています

テイチクで製作いたしました、学歌、学園歌、逍遙歌、第一応援歌、第二応援歌、選手送歌をA・B面に吹き込み、原譜、歌詞折り込みのドー



同窓会総会ごあんない

とき 昭和56年11月3日 午前11時から
ところ レストラン・パレス
会費 お一人 ¥3,000—
新卒者に限り ¥1,500—
お誘いあわせのうえ、ご参集下さい。ごちそう、記念品もどっさり用意しております。

ナツ盤のレコード「惜春の賦」がまだ少し在庫があります。

ご希望の方は、五〇〇円を現金書留でご送金下さい。送料は本部負担です。

「大へんよくできている」と好評です。在庫のある間にお買い上げ下さい。なお、切手による送金はご遠慮下さい。

黒正先生に関する資料をお貸し下さい

黒正先生の直筆の書簡、たんざく、色紙、あるいは黒正先生に関する諸資料を集めています。

お持ちの人にとっては貴重なお品だと思いますが、同窓生のためにお貸し下さい。あるものは写真に、またあるものはゼロックスする間、同窓会本部で責任をもって保管し、用済みのうちは責任をもってお返しいたします。

刊されていた「同窓会誌」は、戦争のあらしにいつしか押し流され、年を経ることすでに十年……と記されており、ここでいっている「同窓会誌」は、たぶん「昭和商学報」のことだと思えます。

と記載しましたが、後日、発見された「会報」第二号（昭和高等商業学校同窓会発行・昭和十一年八月三十一日、編集者・発行人中村清次郎、印刷所・共同印刷（株）山本正俊氏（3）の二厚志によって寄贈）によると、M・F生氏が昭和二十四年三月十一日に書かれた編集後記が現実のものと、証明されました。

つきましては「澁江80」の当該記事は、一つの記録としてお読みいただき、この昭和商学同窓会発行の「会報」第二号「会報」第三号を探しております。

第一号が昭和十一年八月三十一日発行ですから、一回、二回、三回卒業の先輩で、この「会報」をお持ちの方は、ぜひ事務局へゼロックスしたものでもけっこうですから、ご寄贈下さい。

そうすれば、これで全部そろい、復刻も可能になりますし、母校の五十周年記念の一助にもなると思われまふ。古い書類を探していただき、ご協力下さいますようお願いいたします。



信念に生きる男

池田 正勝氏(34)

池田氏は、大阪経済大学在学中に、高校の教員免許を取得し、在学中から辺地教育に情熱を持ち、卒業後、通信教育により小学校教員の免

許を取得した。そして、大阪府滝畑の辺地小学校の教育に青春を燃やしていたが、それもあき足らず、昭和四十六年、理想を追求するために北海道にわたり、網走を経て、現在は帯広で心身障害者らの教育に全力を注いでいる。

池田氏は現在、北海道帯広養護学

目をひく墨光

渡辺名誉会長が作品展

昨年の八月二十一日(水)二十六日(火)の六日間、京都四条河原町、高島屋六階美術画廊で第二十二回墨光社作品展が盛大に開催されました。

この作品展に、同窓会の渡辺達好名誉会長の作品が展示され、ひとときわ人目をひいており、いつもながらの名誉会長のご達筆に心服した次第



です。
ご存知の通り、同窓会製作のレコードのジャケット「惜春の賦」「大阪経済大学同窓会」をはじめ同窓会旗、五十五年度版同窓会会員名簿など、すべて渡辺名誉会長の筆であることはいうまでもありませんが、ここに改めて、同期間展示されました書を会員の皆様にご披露いたし、ともに鑑賞しつつおよろこび申しあげたいと思います。(文責 比企)

校の教師で、十勝YMCAの会員でもある。理想であった辺地教育を志して来道。しかし、理想とは違つ、恵まれた環境にがっかり。このため、養護学校の教師になろうと、養護教員免許を取得、網走市の呼人にある肢体不自由施設・網走養護学校に勤務、昭和五十三年、帯広養護学校の開校と同時に転勤した。

と知り合った。平林さんの夢は牧場経営。この平林さんと、池田氏の「障害児の教育は動物との触れ合いから」の意見が一致、同小学校の敷地を借り受けての牧場づくりが始まった。

この年に、清水町上旭小学校が廃校になることを知り、十勝教育局に出向き同校舎の管理を希望、このころYMCAで、市内で喫茶店を経営する平林英明さん(35歳)という人

最近購入したポニーと、その数は三十匹を超えている。
池田さんは養護学校で在宅訪問教育を受け持ち、知恵遅れ、筋ジストロフィー、交通事故などの障害児を訪問、ライトバンにヤギ、ウサギを積んで運び、実際に動物に触れさせて指導に当たっている。

薬の抗体を取るのに、実験用とし

異色の同窓会員

画人・金沢康一郎(10)

同窓会の会員も四万人近くになってくると、会員の中に異色の人物が

出てくるもので、ここに紹介する金沢康一郎氏(十回)もその一人でしょう。

昭和商で経済学を、あるいは商業諸学を学ばれた同氏が、美術研究のため、数回にわたりフランスに滞在し、主としてパリとその周辺で研究と取材に精進された結果、今日では後記の略歴が示すように、画人として名をなされているとは…

同窓会ホールにも自信作を二つご寄贈いただきましたものと、あつかましい、おおそれた願望を持っているのは私だけではないと思います。金沢氏のみならずのご精進を祈念いたしてご紹介いたします。

なお、ここに掲載いたしましたものは、画題「月映の白い古都」(F100号、昭和五十四年度創元会展受賞作品)です。

- また、画についてご興味をお持ちの同窓会会員の方は左記へご連絡され、大いに画のことについて語られてはいかがでしょうか。(文責 比企)
- 金沢康一郎氏の住所は加古川市東神吉町砂部二二二一です。
- 画 歴
- 一、中央美術展入選 一回
 - 一、創元会展入選 八回
 - 一、兵庫県展連続入選 三回
 - 一、兵庫県美術家同盟展 一回
 - 兵庫県知事賞 一回

同窓生のお店拜見 熱海 和楽亭

高野(三木)正敏(27)



電話〇五五七八一―三八一四
飛騨造り離れ十棟(囲炉裏、檜風呂付き)、露天風呂、懐石料理
かじか荘和楽亭 二万三千元(税金、サービス料込み)
電話〇五五七八一―五二二三

- 右、同盟賞(最高賞) 一回
- 一、創元会展受賞 一回
 - 一、大阪カワシミ画廊個展 三回
 - 一、姫路ヤマトヤシキ百貨 一回
 - 店個展
 - 一、姫路山陽百貨店にて第六回個展開催
 - 現在の資格
 - 一、創元会準会員
 - 一、兵庫県美術家同盟会員ならば 一同審査員

ようと思っていますので、お願い申し上げます。

中尾 大輔 (5)

当時の新大阪、上新庄駅（昭和商前）の近辺も約半世紀の風雪を経て、もはや昔日の面影はありません。思えば、瑞光音頭に青春を謳歌した学生時代も遠い昔のこととなりましたが……。

三年の夏休み、すなわち、昭和十三年八月、級友の岸本健蔵君と北京に遊び、昭和商支那経済研究所を訪問しました。当時、山崎先生が主幹として在任され、夜を徹して大東亜経済圏の将来について論じ合ったのですが、先生はいまも健在でしょうか。

日中戦争が始まってちょうど一年目でしたが、岸本君と二人で京漢線に乗り、支那事変発端の地、蘆溝橋一文字山を訪れました。

ちょうど地元の在郷軍人会の人たちが記念碑を建てていました。マルコポーロも通ったという大理石造りの長い蘆溝橋の上を、はるかゴビあたりから来たのか、ラクダの隊列が渡っていたのが、今でも強く印象に残っています。

それにしても、あの時代に、すでに、そのような研究所を北京にもついていた昭和商の先進性を、いまさらながらつくづく感じ入っている昨

今です。

渡辺 民雄 (5)

在阪の河北正明君からたびたび旧友の消息をいただいているが、今回は建林正喜先生の近況を知らせてくれた。謝々。

お陰で、往時の先生方の記憶が生しく甦る。当時四十代、経済学博士、独身、ハンサム、富豪の英国型の紳士であった黒正校長。農業経済学の講義に、酒問の芸者に例をとって我々を煙に巻いておられたもの。しかし「チューネンの孤立国」はなぜか、はつきりとおぼえている。

京都のお寺からかよって来ておられた哲学の故渋谷老師、靴にレゲンスをつけておられたコレポンの虎尾正助教授、最も授業時間の多かった英語の久野取助教授、床屋に行っても顔をあたらせなかった独乙語の故米津教授、一つか二つ年長の兄貴を思わせた中国語の梅田先生等々。お元気でいらっしやる諸先生の活躍を祈りたい。

在学時代から特に親しかった戸谷銀三君が昨年五月、熊本に来た。在熊の同窓、中村勝彦、太田一之両君、それに戸谷君と三人でよく心斎橋、天六あたりを飲み回った本村孝君も加わり、夜を徹して歓談を尽くした。その後、本村君とは傾盆を重ねていたのだが、昨年十二月、突然入院して、十四日、不帰の人となった。

寂しき限りである。

松本 輝 (6)

大阪市役所を定年退職してもう七年が過ぎました。在職中は総会にも学校にもよくよせてもらいましたが、退職後はご無沙汰ばかりで、申しわけありません。

近ごろは新聞のスポーツ欄で運動部の活躍を期待して見えています。昨秋の野球部の初の関六入りでの優勝、素晴しかったですね。

同期の河野之政君が京都にいますと、きはよく会いましたが、彼は転勤で船橋市へ帰ってしまいました。

現在は子供たち（娘は第三十八回卒です）は、それぞれ独立しましたし、また、毎日が日曜日になりましたので、その間、書道、日本画、囲碁、ヘラ鮎釣りなど（ものになりそうなのはありませんが）趣味を広げ平穩無事に老妻と二人で暮らしています。

糸瀬 久光 (8)

たまたま五月の半ば、出張中の余

暇をみて、実に二十六年ぶりに（昭和三十年に学校を訪問）、夕暮れの上新庄駅界隈を散策する機会に恵まれました。昔よく通った天六の京阪百貨店ビルの、確か二階あたりから出ている電車の旧京阪電車は、今は地下鉄となっており戸惑いを感じました。かつてののどかな郊外駅「上新庄」も、今や近代的な立派な総合駅ビルとなり、駅前にはいくつもの信号機が人と車の波を分けていました。

駅前東側の川沿いの角にあった学生寮の隣が、私の学生生活三カ年間の下宿先であり、前回訪問時には妻と共に再会の喜びを味わったものですが、既に表札は変わっていました。

学校の横を流れていた瑞光川（？）は全く地上から消え失せて、その上を新幹線が走っているよとは……。「何を今ごろ夢みたいなことを言っているのか」と諸兄の失笑を買いそうですが、ご容赦下さい。

近くの鮎屋ですしをつまみながら、少しでも……と昔の面影を探し求めましたが、

「ダンナは経大の出身ですか？」

「ほう、経大は戦争前からあったのですか？」

といった言葉の響きに五十年の歴史と伝統を持つ学校の重みを感じたことに救われて辞去した次第です。

昭和十六年十二月八日、真珠湾攻撃の大本営報道に湧き返った日は、ちょうど卒業試験の最中でした。微

玉田 武美 (1)

一、元気でいます。
二、感謝しています。
三、一人、二人と歯が抜けることくあの世界へ逝ってしまつて寂しいかぎりです。

大口 彰 (2)

一筆啓上。
北浜のS社での一日の勤めを終え、鰻谷の寧静寮に帰り、夕食もそこそこに、親友は外語、闊大へ。私は谷町の高商へと急いだ。そんな青春を過ごしたことを想起し、とても懐かしい。大隅の新講堂卒業式での黒正校長の輝いた瞳、張りのある祝辞と処世訓の音声が、今なお脳裡に浮かぶ。

N社にスカウトされ、京阪神、東北、九州、中部地方と各地を転任。それぞれの任地での風物、史、人との出会いを思い出し、楽しい。四十七年五月五日、同社を定年退職するまで、人脈、金脈にも乗らず、一匹狼で本業の生命保険一筋に生きてこられたことは幸せであった。

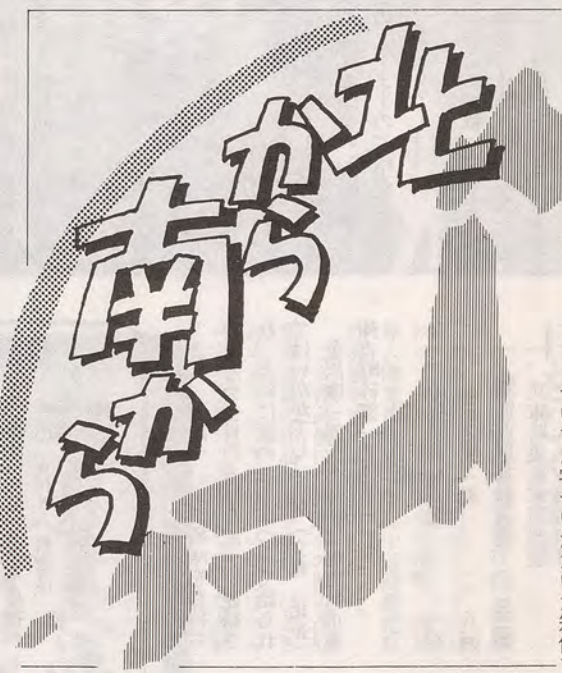
山ふとこに抱かれ祖霊おわする里……。谷汲山華嚴寺（開基本願大口大領信満法師）門前に納まったが、神仏は晴耕雨読、立つて三合寝て半畳のくらしをお許しならず、永年亡父母、妻の護つて来た館を根城にし、レストランホテルの経営に

山本 正俊 (3)

一、昭和十二年三月に昭和商を卒業。翌年、現役兵として鳥取歩兵第四十聯隊に入営。九月に中支派遣軍細部隊、奥津部隊、野田部隊、崎村隊として出征し、満二カ年で満期除隊して、後は満州電信電話株式会社本社に就職しました。

二十年八月はじめに召集にあいまして、二十一年十月に元気で再び故郷の焼土を踏むことが出来ました。その後は遮二無二生活のため働き続け、五十二年広島大学を定年退職してからは、今日までやっと気ままに暮らしています。

思えば、親しかった学友もすでに多く故人となつていらっしやいます。ただただご冥福をお祈りするばかり



① 現況について ② 同窓会に希望すること ③ 同窓会の友人など ④ 自由に……
についてお寄せいただいた短信です。

当たる。来春、屋敷内高台に別館棟屋向陽荘”を竣工し、一人息子の幸三さんが十何年間勤務の某銀行を辞し、家業に専従して下さることは何よりも嬉しい。

新幹線の上り、下り、窓に顔よせて母校を見つめ、心の裡で大阪経大万歳を叫ぶ。古稀も間近、余生を心のふしん、陽気ぐらしに一層励みたい存念であるきょうこの頃です。

読者の皆様様、駄文をお許し下さい。短紙長情。

業。翌年、現役兵として鳥取歩兵第四十聯隊に入営。九月に中支派遣軍細部隊、奥津部隊、野田部隊、崎村隊として出征し、満二カ年で満期除隊して、後は満州電信電話株式会社本社に就職しました。

二十年八月はじめに召集にあいまして、二十一年十月に元気で再び故郷の焼土を踏むことが出来ました。その後は遮二無二生活のため働き続け、五十二年広島大学を定年退職してからは、今日までやっと気ままに暮らしています。

思えば、親しかった学友もすでに多く故人となつていらっしやいます。ただただご冥福をお祈りするばかり

で、誠に感無量です。卒業した昭和十二年も、ついこの間のように思えてなりません。せつかくの青春時代も夢の間に過ぎ去り、もう孫まで出ている年齢に到達いたしました。何か世のため、人のためになる仕事をいたしたいものと思つていますが、なかなか鈍才には思つていません。若いときから四十五年間も手ながら油絵を描き続けていますので、やつと県美展、その他の地方展くらいには入選するようになりました。

また、最近は何句を勉強し、夕風会長の高井正文先生というお方に師事しています。気分は若くても、年をとるとこのくらいの楽しみしかありません。「金もいらなきや名もいらぬ云々」といった、学生時代の流行歌の文言通りの人生になつてまいりました。ただ何時までも元気で、これから変わる世の中の様子を見きわめていきたいと念願しています。

二、同窓会はまったく立派に活動して下さいますので、安心しております。ただただ深く感謝申し上げる次第でございます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

三、卒業以来、遠隔の地に居住している関係もあり、故人となられた方も多いため、今なお音信をいただく方は随分と少なくなつてまいりました。寂しいかぎりです。私からも学生時代親交のあった先輩、同僚、後輩の方たちに極力お便りをさしあげ

人生の達人40年ぶりに再会

大阪で七期会が全国大会開く

われら七回生は今年六月七日、学校卒業四十周年を記念して、大阪三井アーバンホテル六階大ホールで七期会全国大会を開催しました。

当日は全国各地（九州、四国、中国、北信越、東海、京浜）より同期生五十五名、同伴のご夫人五名が参加、ご来賓の鈴木亨学長先生をはじめ藤原、平野、山村、梅田、中島の諸先生方、また、同窓会本部より磯野副会長のご臨席を得て盛大に行われました。

開会に先立ち、物故された恩師黒正巖先生ほか諸先生ならびに物故された同期生百二十名の霊に対し、全員で黙禱を捧げたあと、「商都の東北激江に」と学園歌を斉唱し、大会の幕を開きました。

第一部、第二部はご来賓の方々のご祝辞、諸先生方のご挨拶をいただき、第三部、第四部では現奈良市長の木山弘氏（C組）をはじめ、現在も各界でご活躍中の各クラスの代表諸氏の挨拶、また、各

地区代表の思い出のスピーチがあり、旧交を温める懇談が続きました。

なにしろ昭和三十七年に一度有志が大分で会合しただけで、このような企画はなんと四十年ぶりのことゆえに、お互いに還暦の顔を見合わせ、

「どなた？」
と名前を聞き、懐かしい学生時代の顔をオーバーラップさせて、「やあ、やあ」
「いやあー、お達者で」
と再会とお互いの健在を喜び合っている姿があちこちに見られました。

戦争、それにつづく敗戦という人生の大きな荒波を乗り越え生き抜いて参加した面々の顔は、「自分の人生は自分の力で開け」の黒正イズムをそれぞれ実践してきた嬉しい顔でした。

六十歳を過ぎ、体調悪く参加できなかった者十名、当日、緊急の用件で参加出来なかった者八名、



どうしても都合のつかなかった者二十名の方々からメッセージ、ビールなどがおくりられました。

参加者全員は、「いい会合であった」と感激してくれ、世話人に感謝とねぎらいの言葉があり、世話人たちは四年ぶりの連絡不安と苦労などがあったが、こんなに喜んでくれたことはこの大会が成功であり、苦労のしがいがあったと喜び合いました。

翌日のスケジュールである母校訪問には二十五名が参加。母校の

（九石・真鍋記）

兵検査に引き続いて同月繰り上げ卒業。最初の学徒兵として第一線へ。多数の学友が散華した中に、今日まで生き残れた幸せに感謝せずにはおられません。
今や還暦も過ぎて、第二の人生を歩いている私ですが、相変わらず友人情東京在住のクラスメート十六名に支えられ、意義ある日々を精一杯頑張り抜こうと思うこの頃です。

塩飽 孝 (8)

四年前に三十年余り勤めた町役場を退職しました。現在は二度目の勤めとして、本町教育委員会に勤務しております。肩書もたくさんあり、公民館長、社会教育指導員、同和教育推進協議会、明るい選挙推進協議会、読書友の会、のそれぞれ会長をしており、案外忙しい日を送っています。

加藤 公吾 (9)

東海支部で毎年一回総会を開いています。
小生、会社（勤務先、セントラルシステムズ本社）の關係で（土曜日を除く）毎日、大阪へ行っています。新幹線で京都を過ぎ七分で母校を左の車窓で見えています。

北元 喜雄 (10)

学窓から直ちに太平洋戦争に参加。南方戦線からまさに死中生還。
爾来、三十余年、現在では二人の息子と四人の孫にめぐまれ、愛妻とともに人生の仕上げの段階に入っています。

その間、砂利揚げ人夫をはじめ十以上の仕事をやり、現在は、大学経営、ゴルフ場経営、病院経営、その他社会福祉、社会教育等の分野で頑張っています。
これも黒正イズムのお陰です。

佐野 珠太郎 (10)

この世に不思議というものがあるとすれば、まず一番に数えあげべきものは、生命の生長であろうと思います。生まれ、育つてゆく様々な姿を、私達は日々当たり前のこととして受けとめておりますが、その根本は依然として不思議であります。小生、本年十一月に遂に満六十年を迎えます。

私にとつては、この六十年間は単に流れ去った日々の数ではなく、まさに獲得してきた時間の累積であります。六十年前に生命をうけ継ぎ余曲折、現在にいたるも生長の源が何であったか、今なお不思議としか表現できません。 阿々

谷田 正太郎 (11)

昭和五十六年四月で高等学校教員を三十三年間、大過なく過ごさせていたでいます。
先頃、母校へ立ち寄り、隔世の感をおぼえたものです。ますますのご発展を陰ながら祈っています。

永田 康之 (11)

新幹線で新大阪を通過するたびに、車窓越しに見る母校のネオンに数々の思い出が甦ります。

昔ながらの校舎と、新しい町並みとの交錯。そこには今なお昔の静かな足音が残されているような気が致します。難解だった高田保馬著『経済学概論』、青山秀夫先生の経済学講義、特に、高田保馬著『勢力説』は戦後の動乱の中で、私の理論構成に大きな支えとなりました。

また、卓球部に身をおき、久野取先生と楽しくプレーしたことも思い出されます。先生はレシーブがお上手でした。『平和の論理と戦争の論理』は懐かしく読ませていただきました。私は昭和十九年九月卒業と同時に、三菱重工業広島造船所に入社し、機械営業部長を経て現在、本社原動機第二部におります。

川谷 恂郎 (12)

昨年三月末で京都府を退職、四月初めから徳島文理大学（一般教育）の英語、今年からは短大部英文科で英文法も担当しています。

三十年間、桂高、桃山高へそれぞれ自宅から徒歩通勤していましたのに、五十四歳になりはじめて各種交通機関を利用して、毎週伏見から徳島まで通勤しています。昔と異なり阪・神から徳島への船便は非常に便利になっていますが、何分、天候に左右されますので、その点に気を配らねばなりません。

徳島では学生寮で三泊します。が、近代的な設備も整っており、快適な日々を送っています。

中張 幹三 (12)

七月七日に岡山支部総会が開かれ、本部から磯野副会長、比企事務局長、大学側から大槻理事、高城教授（就職部長）のご参加をいただいた。参加人員三十名以上で盛会だった。

戦後ずっと支部長の重責を果たしてくださった大森喜太志氏が勇退され、新支部長に十二回の村上一夫氏が就任した。

大槻理事から学内の報告、比企事務局長より、同窓会が千五百万円の巨費を投じて同窓会名簿など編集、

五月晴れに集う

同期一三会 東京から珍客も

昭和五十六年度一三会は、五月十日、大阪・梅田の中華料理店「大湖」



で開きました。遠路東京からも珍しいお顔振れがならんで、楽しい一時を過ごしました。

来年は神戸地区の人にお世話になります。五月晴れのよいお天気でありました。

出席者
大場加寿子(木下) 岡田富美子
奥村美智子(山路) 坂中良(和田)
佐々木秀子(遠藤) 竹間優子(福田)
田中美栄子(福井) 富永明子(奥村)
中村良子(越宮) 能勢信子(小林)
能口左和子(寺田) 前田悦子(山田)
前田房子(寒川) 松浦圭子(木田)
村田八千子(山本) 山田尚子(藤堂)
大和澄江 和田濠(釈迦戸)
幹事、高田、中村、富永
(富永明子記)

各種のデータの収集などに活用できるコンピュータを導入した、との報告があった。

また、県内の経大卒の教員で組織している黒樟会も毎年例会を開き、交流を深めている。本年は七月五日(日)に岡山郵便貯金会館で、大学より浅沼先生をお招きして会をもつことにしている。会員数三千数名で、岡村智(十回)・金山学園勤務を会長にいただいている。

念願の関六入り、そして初優勝の快挙をなしたけた野球部が、シーズンだけでの入れ替わりは残念。来

シーズンの奮起を望むや切。

岩崎 寿美子 (13)

前略ごめん下さい。
経大を卒業しても二十余年になります。私たちは戦中から戦後の混乱した時代に学校を去りました。未だにはつきりと当時の校舎や、廊下や運動場が脳裡にやきついていて、女のかたが多かったのですが、とても素晴らしい先生方がいらして、私など病氣したときに、うわごに講義をうけたいと看護婦さんを困ら

を同窓生一同とともに切望する。また、今後われらが同窓生のなかから、このような大阪経済大学の名を高くらしむ会合の幹事役をおおせつかる機会が多からんことを期待して、筆をおきます。なお参加者を紹介しますと、お二人を除き、

平石(17回、エイコー商事)吉田(18回、凹堂建築設計事務所)伊藤(18回、ネオルーフインク防水)牧田(19回、東京都広報部)尾上(19回、レナウン)梅本(22回、自営)小林(25回、自営)西尾(25回、国際証券)城(25回、東津精糖)青井(30回、アイイ機工)

山村 恭造 (20)

同窓の皆様お元気で活躍のことと存じます。

光陰矢の如しといいますが、卒業してはや二十七年が過ぎていきました。その間、関東への転勤とかいろいろなことがありました。一時は先輩の諸君を我が社に多数採用する機会がありました。最近に入社する人もなく、現在四名が残っています。

一昨年まで理事をさせていただいておりましたが、吉村忠一君と交代いたしました。今度、川野、吉村、小林の諸兄が初めての二十回卒同窓会を企画する予定です。ぜひ諸兄姉のご賛同をお願いしたいと思います。住所 宝塚市紅葉丘四一七 勤先 井上製作所大阪支店

吉田 毅 (20)

卒業後、郷里に帰り、教員生活に入って二十数年がたちました。その間、瀬江などの便りをいただき、母校の近況が伝わるたびになつかしさがこみあげてきます。

現在は、私達が学んだ時とかなり隔ってはいませんが、その底に流れる自由な学園の空気が質量共に発展した様子を伺うにつけ、母校の一層の発展を祈らずにはおれません。

ともすれば、マンネリになりがちな教員生活の中で、試行錯誤を続けている毎日ですが、経大に育った一人として、今、私達に出来ることはそれぞれの持ち場で、自分なりに学んだことをせいいばい生かすことだと心にいいかせています。

ご指導いただいた先生方も殆んど現役を去られた様子ですが、それだけに自分にきびしく、同窓がお互いに手をたずさえて敵しい時代をのり切りたいと思います。

大河内 博 (21)

一、卒業後二十数年が経過し、現在の職場は電電公社で、情報社会に役立つよう通信技術各種商品のコンサルタント等を担当している。

三年前に、故郷に近いところにマイホームを持ち、世間なみの生活を送っている。(電話のことで相談した

せたそうです。経大は本当に素晴らしい学校です。

百瀬(荒本)正子 (14)

東京在住も二十一年となり、当時小学一年生だった長男は、就職先の独身寮に入り、現在わが家は大学生の次男と親子三人の暮らしが続いております。昼間は一人の気楽さで、好きなことをあれこれ手付け、趣味を通しての友人は多いのですが、みんな世間話程度のお付き合いです。年齢や育った環境が違いますが、なかなか心の中を話してみようというまでの気持ちにはなれません。もっか、私のいいケンカ相手は次男で、毎日のように二時間くらいの討論会を開いております。

数井(広畑)安子 (15)

古都奈良に引越してはや七年になり、その間、県人会に二、三度出席させていただきました。親友の広瀬さんが近くにいらっしゃるので、心強く思っています。

今年一月に十五回生の同窓会が阪急のグランドビルであり、グループの平石さんも東京から馳せ参じてくれました。卒業以来はじめての人々と多くお会いでき、本当に楽しい一時を過ごしました。当日のお土産は倍増した顔のシワでした。来年を約

い方は へ
無料)

二、三十年卒で電電公社に入った田中博さんは、私のほうは知っているが、相手は私と同期とは存じないかも。話す機会でもあれば、と思っている。その他は年賀状だけ交換している。四人ぐらいいる。
三、最近、わが家の庭でにらみをきかせている信楽焼の狸のように、腹が出て、困っている。なにか運動を、と考えてはいるが思うようにならず。(学生時代はバレーボールの選手でした!)

北村 弘 (22)

古巣大阪に帰って一年を過ごしました。先輩、後輩の皆様には相変わらずご無礼、ご無音信に暮れております。

若かりしころのサッカー狂も、すっかりボンコツになり、サッカーとも疎遠になってしまいました。西下の折は母校サッカー部の飛躍の一翼にと夢みましたが、まだまだ夢のうちです。同期の球友諸君、元氣ですか。懐かしい顔を一堂に会したいものです。後輩諸君、一層の活躍を期待します。

同窓会の幹事の方々、ご多用なご苦勞様です。今後ともよろしくお願いいたします。終わりに大樟の

束して別れましたが、今年お見えにならなかつた人も、きつとお出かけ下さいように。

西山 昭 吾 (16)

小生上京してはや十五年。以前より同窓会東京支部長として活躍いただいた服部前支部長が、武田薬品工業の部長を本年で退職されたので、さっそく慰労会をと考えているうちに、新会社を設立され、社長に就任された。励ます会」に切り替えたところ、深夜の都知事を自認する面々が集い、夜の銀座で大いに「服部社長を励ます会」を肴に氣勢をあげた。その余韻さめやらぬおりもおり、鯨島新支部長が高砂熱学工業の新取締役に就任が内定。これまた、さっそく祝賀会を開くべく計画したところ、若手からもぜひそのときは声をかけて欲しい、との要望が多くあり、数名のごく親しい仲間(若手(中堅というべきか)を加えて、東京は下町の門前仲町の、気前のよい寿司屋「千代寿司」に集合。一名の欠席もない全員集合は、鯨島支部長の人徳のしからしむところと痛感した次第。

当日は、鯨島新取締役に丈夫で永持ちしてもらおうという気持ちをこめて、二次会なしてこの寿司屋で徹底的に飲むこととして痛飲した。談論風発、大いに同窓の絆の強さを相互に感じ、先般の服部新社長ならびに鯨島新取締役に、これからの活躍

南(福田)信男 (22)

〇クロをしアカくするもの生きる道 食わんがための、はいきよへの頭(つ)。
〇公のなさずに己下心
顔はよいよい奉仕と会費
〇降りよ降り 真夏に備え 梅雨寒むや。

大盛豊 一 (23)

私は昭和三十三年三月に経大を卒業しましたが、卒業と同時に郷里の奄美大島に帰り、小学校の助教諭として六年間南海の孤島で勤めました。昭和三十八年四月に鹿児島県から宮崎県へ県外転任し、現在は宮崎県立養護学校で肢体不自由児を対象とする特殊教育に取り組んでいます。

宮崎と大阪間は飛行機で一時間そこそこですが、上阪の機会がないため、愛する母校へもなかなか訪ねることができません。私たちの学生時代は、旧校舎のみの小規模大学でしたので、学生数も少なく、先生方や事務職員の方皆さんとも大変親しい関係にあったものでした。私にとって大学四年間はすばらし

人恋し 還暦の同期生集合

八期生 学園歌で最高潮に

昭和十六年十二月、我々昭和商第八期生二百六十五名は、母校を卒業し、応召、就職、自営、進学などの、それぞれの人生の歴史の中に突入した。

爾来、四十年の星霜が流れている。そして、現在消息の判明している者は百五十名(五六%)に過ぎない。数多くの方々は第二次世界大戦に散華され、十名内外の方は不幸にして病没されておられる。これらの貴い御霊を弔い、かつ、



東京より馳せ参じて下さった方々と肩を相擁し、昔日の面影を探り出し、過ぎ来し方を語り合い、放歌高吟、三時間にわたり会はいやが上にも盛り上がり、昂奮の増嶋と化した。昭和商校歌(学園歌)は会場を庄し、次回開催地・東京での再会へと夢はふくれ上がった。なお、全然お会いできない方が多いことは誠に残念である。私は各地方の同期生と旧交を温めたく、機会をみて各地方への旅に出、同期の方々とお会いしたい。これが、今回、私が第八期生の終身幹事を名乗り出たゆえんである。費用そ

い先生方や友達にめぐまれ、有意義な学生生活を送ることができました。何人かの先輩や友人達とよく学習会を開き、経済学や哲学について論じ合ったものでした。

おかげで、私は経大で学んだ四年間で自分自身を大きく変革することができました。もし、私が他の大学へ進んでいたならば、学問らしい学問も十分身につけずに卒業していたらと思う。

何人かの先生や事務職員の方々、それから友人とは、今なお、年賀状の交換を絶えることなく続けています。一昨年の夏には経大の職員一行が宮崎へ旅行で来られましたが、その際、人類学の井手経三先生、事務職員の鍋島さん、石川さん、吉田さんらに二十二年ぶりにお会いすることができました。

近年、大学は偏差値でランキングされ、大学の格差がますます大きくなっていく傾向にあるやに聞いています。わが経大については、どの位置にランクづけされているのかわかるよしもありませんが、もう少し知名度の高い大学にするよう努力して欲しいものです。

そのためには、大学を郊外に移転するとか、学部を増設するとか、就職戦線で有利になるように対策を練るなど、もっと積極的な大学運営が必要ではないかと思えます。

なお、九州の南の果てに住んでいますと、母校の情報がほとんど入って、国内、国外を障害を持つ人と一緒に、あるときは介護者、またあるときは通訳、運転手と、私の出来る全能力をつかって日夜邁進しています。

身障者自立のために、萩、沖繩、豪州(パース)、米國(ミシガン州)に、民宿(土の宿)を造りました。健常者の人も宿泊出来ますので、観光旅行のときにご利用していただければ幸いです。

ああ、経大も変わっただろうなあ、TVに野球チームが出るくらいだから、大樟の下の靴屋のオッチャン、古久保先生、浅沼先生、玉井先生、散髪屋のオバチャン元気かなあ、無性に会いたい。

久保 富夫 (31)
現況について、一筆失礼申し上げます。初めに、同窓会誌、編集にあたり切っている皆様、ご苦労さまです。締め切り日になり、取り急ぎ書き送ります。

四国四県をかけめぐり、道路沿線から見る山も昔日の感がなくなり、松くい虫にやられた木を見て、胸が痛みます。

神社の森の木陰から月をながめていた幼い頃の夢をもう一度と、息子(四歳と二歳)をつれて散歩に出かけます。老木ありて、神社も、境内

できず、つんば機敷の状態にあります。その年の入試状況や就職状況、大学の将来に対する展望など、遠隔地にいるわれわれがもっと母校のことを知る機会を多くつくっていただきたいものです。

近い将来、宮崎にも同窓会支部をつくる希望はもっていますが、なにしろ経大出身者が何人くらいいるのか、また、現在どこに居住しているのか、適当な資料がなく発足できない状態にあります。同窓会支部をつくる場合の要領を教えてください。すなわさいわいに存じます。

美崎 留吉 (26)

さる三月二十一日、北里教授退官記念パーティーを、大阪・梅田で挙行し、我々北里ゼミで学んだ同窓生が一堂に会し、盛大に終わりました。小生らつい先ごろ卒業したように思っていました。卒業年度順に席についてみて、後輩諸兄の多さに驚き、年をとったのをあらためて感じた次第です。

なお、我々が三回生のときに結成された3B会のメンバー諸兄、ぜひ一度便りを取り合せて、旧交をあたためたいと思えます。

も、月も、奥ゆかしさを親子三人に厳しく立ち向かってくる何かを漂わせてくれます。

ここに、先日亡くなられた翻訳家堀口大学先生の詩を引用させていただきます。

× × ×
水に沈んだ月陰です
つかのま浮ぶ魚影です
ことばのあみでおおいする
百に一つのチャンスです

黒田 訓吉 (31)

卒業して幾星霜が過ぎても、友と語りあかした日々や、江口里を散策した日々が、昨日のように回想されてくる。

小生は、片田舎にいても新聞紙上に母校の運動部などの活躍をみると「我が愛する母校よ、よく頑張った」と喝采するときもあります。在学中に諸先生から受けた数々の教訓は、現在もなお脈々と我が心に生き続けています。我が愛する母校よ、ますます勉学に、スポーツに、精進されんことを祈願してやみません。

中島 克己 (31)

小生、大学卒業後、大学院(関西学院)に進学し、五年間の研究生生活を終え、昭和四十五年以来、神戸の八代学院大学で教鞭を執っている。

荻野 勉 (29)
ご無沙汰しています。現在、社会で一番取り扱にくい中学生の生活指導を担当しています。毎日、校内で大きな小なりいろんなことが発生しています。その原因は、家庭不和、社会に対する反抗などいろいろです。

世良 隆 昭 (29)

私は同窓生諸氏とは恐らく正反對の生活を送っています。卒業後、ユニチカに勤務していましたが、考えるところがあって、二十四年ほどは「対価ヲ求メナイ」行動をしています。今年国際障害者年ということも

他の点もあり、理想に終わるかもしれないが、私は出来る限り頑張りたい。諸兄のご高援をお願いする。

終わりへのぞみ、母校の発展と恩師、同窓会事務局、同期の方々との今後のご健康とご多幸を祈ります。

櫻井 富雄 (28)

一、会社では三グループの長としてフーイーっております。家庭では再び妻が就職し、ゆっくり落ち着く暇もありません。
二、一昨年、ハワイ、ロサンゼルス、サンフランシスコと回ってきました。短い日時の僅かな見聞でも資本主義に対する見方に変化をうけました。長男(高校生)にも、この夏休みに欧州に行かせ、少しでも広い視野を持てるようにしてやりたい。

石川照雄、石森哲雄、糸瀬久光、伊藤勝、大谷 悟、岡田 清、梶村文弥、木村彦二、串田 一、琴野 浩、佐藤順郎、柴田秀一、柴田直典、島田 孝、杉浦敬一、関田庄司、田中史郎、谷川徳五郎、田城 宏、田宮喜治、富永訓三、長尾 晃、長光武二、西崎規明、丹羽好輝、林 正吉、藤原恒一郎、藤本青山、松田義明、吉本政勝、石森哲雄(記)

が、教師集団のチームワークの悪さもあつたり、サラリーマン的教師が増えているからではないでしょうか。先日の新聞に記載されていましたように、経大野球部の優勝は大変価値があつたと思えます。地味な努力、選手同士のチームワークはもちろん、監督と生徒とのチームワークの大切さを世間に知らせたのではないのでしょうか。

この四月からは、母校にも兼任講師として週一回出講させていただいており、母校への出講が楽しみのも一つになっている。

母校の変貌ぶりには驚くべきものがある。とりわけ教学・施設面での充実度は顕著なもので、その社会的評

私は昭和十八年八月の卒業生です。同年十月一日に住友銀行に入行しま

したが、翌年一月三日召集、十日に入隊しました。福井県鯖江第三十八聯隊甲隊合格。在校当時の所属部は「銃剣術部」(助手、渡辺教官)で、

初段の試験を在阪の聯隊に受けに参りましたが、見事、不合格でした。

同年四月十八日、陸軍習志野学校を卒業、見習い士官となりました。

復員後、住友銀行に帰り、五十二年八月十四日、五十五歳で定年退職、もつか病氣療養中です。その間、身長百五十四センチ、体重六十キロの小柄ながら、バリバリ働きました。なにしろ、銀行というところは経済界の、人間の体にとれば血管の役目を果たしているところ。したがって二十年間くらい、掃宅・就寝が夜中の十二時、一時というのは



田和茂三 (10)

価も高くなっている。ただ、このように質的充実を遂げているのが経大においても、周囲の環境悪化(新幹線や自動車などの騒音)に悩まされている。一部の教室では冷暖房化を図り、窓を閉め切った状態で授業を行うことによつて、

「あなた、どこか体の具合でも?」と、家内が心配するような生活でした。

私はもともと病弱で、軍隊で鍛えてきた立派な体とはいえ、毎日がこいう生活ではその体力もすっかり消耗してしまい、定年前から病気が続きました。

しぜん、休日は「寝てよう日」となり、子供も、オヤジというものは休みの日には家でゴロゴロ寝ているものだ、と思込んでたよつで、そんな状態でしたから、貴会とも足が遠くなり、今日にいたった次第です。仕事、仕事、仕事……で、子供も家庭も目に入る余裕のない人生……。ようやく我が身をふり返る時間が持てるようになった時は、入院の連続でした。

五十二年八月十四日付の退職ですが、当日が日曜日だったため、前日の十

周囲の騒音から解放しようという試みがなされている。環境整備(防音対策)が重要課題の一つとなつてい

真鍋一美 (32)

母校卒業と同時に、父親の影響をうけて教師の道を選び今日にいたつています。多忙な毎日ではありますが、若者相手に楽しい日々を送っています。受け持った生徒のなから

第一号を母校に入学させたときの感激は、今も忘れない思い出となっています。本校での評判はよく、二、三十名の受験者があります(五十六年度は激減しましたが)。大阪には年一、二回はまいります。そのとき、大学を訪れ、下宿を訪れるのが何よりの楽しみで。周辺はすっかり変化しました。昔の思い出が方々に残っており、ふと学生時代を思い出すことが出来るのは不思議です。入学時は江口の学生寮、二年目は寮時代の友達と共同でのアパート暮らし、四年は下宿生活と住所もよく変わりましたが、今思い返すとよい経験でした。わずかに四年間の生活で貴重な友人、人々を知ることが出来ただけでも大きな収穫だったので。故渡辺先生、玉井先生、滝野先生、井手口先生、ゼミの同期で田口君、クラスメイトで古賀・小川君、寮友で中林、渡辺、佐藤、三田村君、同

県人で池内、寺川君、後輩で黒川、石井君等々の多くの人々とは今もつておつきあいしていただいております。

さらにも一つ一つの思い出は、学生生活の四年間を無遅刻、無欠席で通学したこと(自慢にはなりません)は、苦学を覚悟の進学であつただけに懐かしい思い出です。しかし、半面、型破りの、思いきった勉強が出来なかつたのは残念でならないことの一つでもあります。

最後に、同窓会および同窓諸兄にのぞみたいことが一つあります。それは、最近の母校発展が頭打ちの状態にあるように思えるのです。もう「量」より「質」へ脱皮して、大幅向上を目指してよい時にきているのではないのでしょうか。後発大学に追い越されることのないよう、しっかりとした看板学部のもとに、特色ある大学づくりを考える時ではないでしょうか。職業柄、進路相談の場面でもつかる問題に「魅力に欠ける」「特色に乏しい」という意見を耳にします。安易な推薦入学などでなく、魅力ある推薦入試特待生制度、懸案の新しい学部増設などを考えていただくとともに、既存学部の充実のもとに質的向上、特色ある大学づくりにより一日も早いスタートをしていただきたいと思います。

三日に退職しました。欠勤のまま退職し、二日後の月曜日に退院、その後、療養に専念したわけです。

さらに、五十三年は顎下にできた梅子二つくらい大きさのリンパ腺を手術、続いて、五十四年は大腸のポリプによる出血のため、大腸を手術。戦後復興と住友銀行発展のために、私の体は「エキス」を全部吸い取られ、「さあ、第二の人生を……」という大切な時は前述のような状態で、同窓会のお世話願っている方々には全く申し訳ない気持ちでいっぱいでございます。

五十五年から現在までは入院こそ致しておりませんが、なにしろ先に申し上げたような病歴のため体力を消耗、かつ、自律神経失調症が爾来つきまとい、いまだに通院の状態です。つれて失業中でもあるわけです。このような次第で、先日の同窓会も欠席。こんどはぜひとも出席を……と思い、楽しみにしていましたが、願いかなわず、二年後に還暦を迎えようとしている現在、闘病の日々をおくつています。

ところで、古い卒業生には懐かしいのではないかと思われる、珍しいものが出てきました。1 その一つは、「同窓会名簿より」と題する「ガリズリ(謄写版刷り)」の紙一枚で、校長・黒正巖先生のお名前と住所、および配属将校(陸軍

第二の人生楽しむ時期に闘病の日々

大佐)、そして各教授の氏名、住所が記されています。それによりますと、現在の茨木市は大坂府三島郡茨木町、また、阪急の園田あたりは兵庫県武庫郡園田村とあります。

もう一枚は「幹部候補生試験問題参考——渡辺教官」と題するタイプ印刷されたもので、これをもらった記憶はないのですが、当時、この用紙が配布され、種々、講義説明があつたのではと思われま

私たちは「毒ガス部隊」だったので、鯖江の聯隊や習志野学校とも現在資料らしいものは何もなく、私の兵籍簿も途中で消されて、事実が載つておりません。学徒動員で一期先輩の見習い士官となり、軍の学校を出ていくのを見送つた方が一人目にはいりましたが、学校では一年後輩の人でした。この二枚が、卒業アルバムには含まれていました。

ともあれ、卒業以来、貴会に対し何のお役にも立たなかつたことは、なにとぞご容赦下さい。また折をみまして、別の観点から一筆ものし、『激江』に仲間入りを願えれば幸いです。

立派な『激江』——一九八〇』は本当に懐かし、また、ありがたく思つております。

吉田 脩一 (33)

私は第三十三回大阪経大卒の一人である。

卒業後、しばらく関西のある金属会社に勤め、のち、家庭の都合で、出身地である九州に帰つて来た。現在、北九州市でささやかに呉服店を構え、自営業を営んでいる。

在学中は合気道部に属し、青春の全精力を傾け、卒業直後は、かつて私が金属会社の社員であつたことを知っている人びとは、「いま、私は婦人相手の呉服商をやっているんです」というと、「それ、本当か?」と疑問もいる。

実をいって、自分でもおかしい。しかし、ただ一つ、一貫しているところがある。それは、大学で教えてもらったこと、合気道部で学んだこと、会社づつとめ、さらに、自営で、これだけは大切だと思つたこと、それらは一つである。「人ときあう」ということである。

井上 孝之 (34)

経大同窓のみならず、健康のこころと存じます。

月日の過ぎるのは早いもので、経大を卒業して十四年を迎えております。またその後、一度も学舎に出かけず、なつかしくてたまりません。

田中 捷吾 (34)

経大を卒業して十三年が過ぎ、月日のたつのは早いものだと感じています。

東京に来てもう十二年目を迎え、大阪に帰る機会も少なく、経大をなつかしく思うものの、なかなかその機会を得られません。仕事の方はコンピュータのプログラム作成からシステム設計と日々苦戦し、ヒューマンなシステム開発を志向致しております。

高橋 努 (34)

自由な学風の中で学び、そして人生を語り、人間形成の機会とよき友に恵まれ過ごした学生時代を懐かしく思います。

現在、北陸地方は富山県の高校に勤務して、進路指導等を担当し多忙な日々を送っております。卒業生も母校にお世話になっており、感謝いたしておりますとともに、今後、更に多くの高校生を送っていきたく

考えています。ここで、若干の希望を述べさせていただきます。

経済社会の高度成長に伴って、大学および学生数が増加し、いわゆる「大学の大量化現象」という形が生まれ、そしてその後の不況を前後として、実学志向の専修学校・専門学校が制度化され大きなウエートを顕示し、教育制度、内容も急速に変貌しつつあります。

こうしたなかで、歴史と伝統を誇る経大に対し、世間の一部の風説として、総体的な「かげり現象」という評価を聞くようになりました。

そこで、同窓会(卒業生)・大学在学生のつながりをより密接にすると同時に、大学のより総合的・質的な発展のために、現状の検討と改善長期的計画を策定することにより、「かげり現象」という評価を払拭させ飛翔していくための作業に入りたい。ただ、これを各当事者へ要望いたします。

次に、小生が体験しました大文字教授・職員)と卒業生(同窓生)が、強い絆で結ばれていたことを示す二つの事例を述べさせていただきます。一、経大北陸地区同窓生懇談会。昭和五十五年七月十三日(日)金沢市のホリデー・イン金沢にて、学長先生・同窓会副会長などの参加のもとに、北陸地区ではじめての企画として、多数の同窓生が一室に会し盛大に行われた。

母校の近況報告を受け、懇談の中で、在学生の就職問題について積極的にバック・アップをする意見や、大学の発展のための提言・要望等が数多くござい、正に大学・同窓生一体という感を与える、熱気あふれる力強い会であったと思います。

二、木村武夫先生古稀記念祝賀会。昭和五十五年十二月十九日(金)大阪市の好文クラブにて、元経大教授・教養部長の木村武夫先生の古稀をお祝いする祝賀会が開催されました。

記念文集「三足のわらじ」の刊行も紹介されましたが、その中に多くも紹介されましたが、その中に多くの同窓生、教養部、経営学部の諸先輩が江口グラウンドにある学生寮が昨年第二十期生を迎えた。それを記念し、寮友会(寮OB会)の主催で昨年の十一月二十三日、「寮開設二十周年を祝う記念式典」が学生会館内の生協食堂を会場に盛大に開催された。

寮開設20周年を祝う

OB会の主催で記念式典

一期に七十二名を収容する学生寮は既に千四百名以上の寮生を育てており、当日は紅白の幕に包まれた会場に、現寮生を含め二百名以上の参加者があり、地方から大に開催された。

生方、事務職員の方々が、経大の発展のためにかかわりある文言をしたためておられました。多くの経大関係出席者の中からも、先生へのお祝いとともに、今後の経大の前進を期待する発言をされておられ、心強く感じた次第でありました。

飯田 智 (36)

入社十数年、相も変わらず。毎日、何かと多忙ですが、私どもの会社(アルミ建材)も不況の波にもまれ、ボーナスも去年以下の額になりそう、少々気落ちしております。

けつけたOB達は旧交を温め、恩師と親しく懇談し、時の過ぎるのも忘れるほどであった。

大学側からも、学長先生以下、学生部長、総務部長、旧寮監の先生方が来賓としてご臨席され、最終下さい。

後の口陣を組んでの「学歌・道遙歌」合唱までお付き合い下さった。なお、当日配布された「寮友名簿」は手づくりながら立派なものである。希望者は学生寮までご連絡下さい。

南 中 平八郎 (37)

昭和四十六年卒業、第三十七回生の南中平八郎です。私は現在、喜田義雄ゼミ同窓会の会計事務所部会の幹事をしています。

井塚 義一 (36)

同窓生の皆さん、大変ご無沙汰いたしています。いかがお過ごしですか。小生卒業後ヤマトヤシキに入社以来、営業から後方部門(事務所)に移り、今は店舗ビル、なかならず有形固定資産の維持管理にあたる営繕部に所属しています。とくに、技術関係の部署だけに、毎日が、勉強といった具合で、仕事の能率には段取りの良し悪しが、大きく左右がちです。それでも将来の自己向上を目指して、持ち前の粘り強さを頑張っています。

卒業生で税理士の方、または税理士をめざしている方、お便り下さい。植村 秀夫 (39) 「澗江八〇」の発刊にあたり、ご尽力いただいた母校関係者の方々はじめ、特別編集委員諸氏に対し心から敬意と感謝の意を表します。小生は、卒業と同時に岐阜県関市で家業の美術刀剣塗師を営んでいるOBです。

卒業してはや八年になります。新聞などで「大経大」の三文字を見ると、何か学生時代が懐かしく思われます。過日、新聞等で報道された「大経大、悲願の関六昇格」のニュースほど嬉しかったことはありません。これはひとえに中島総監督、内田茂監督、野球部関係者、後輩諸君の汗と涙の結晶の賜物と思えます。さて、小生の居住している岐阜県での大経大の評価は決して高いとはいえません。いや、知らないといっ

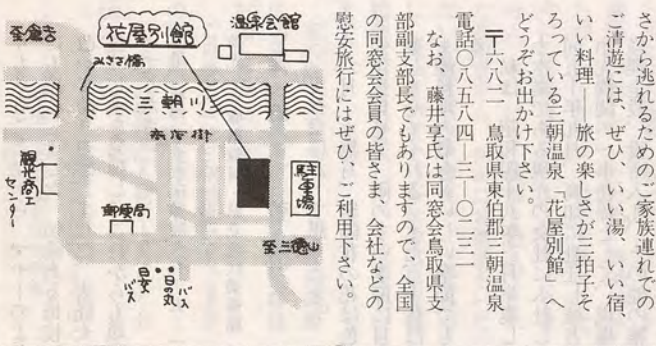
高松といえは、いまだらくどくどくというでもないと思います。四国の玄関口として、どちらかといえは通過都市のイメージがあるのではないのでしょうか。高松は、もともと松平の領地であり、水城でも有名であることはご存知の通りです。古い人には、高松高商のあったことでも懐かしい土地でしょう。また、あのシンコシコとした讃岐うどんが全国的にも有名であることはいうまでもないことではないでしょうか。

南中平八郎 (37) クラブOB(美術)とは年一回くらい集まって飲み、語り、交歓を保っております。

鳥取といえは、三朝の湯に鳥取砂丘があなたの胸に浮かぶでしょう。大阪から三十四時間、三朝橋、あるいはまた、恋谷橋に立てば三朝川を渡ってくる清風は都会では味わえないさわやかさを感じさせてくれることでしょう。三朝は「人間の美しさとはなにかを気付かせてくれるところ」詩人、喜多内三造氏の言ともいえるでしょう。旅の目的地、味どころの三朝温泉は、四季折々のそれぞれの味覚が、風物が、一年中あなたを満足させてくれます。この三朝温泉の恋谷橋のほとりに、その偉容を誇る花屋別館があります。自慢の水車がゆつくりときしみながら回っている。自然石に囲まれた水車岩風呂に木桶を置くと、「カーン」とかん高い音がひびく……。そこには、思わず歌が口をついてでるようなロマンがある。

三朝・花屋別館

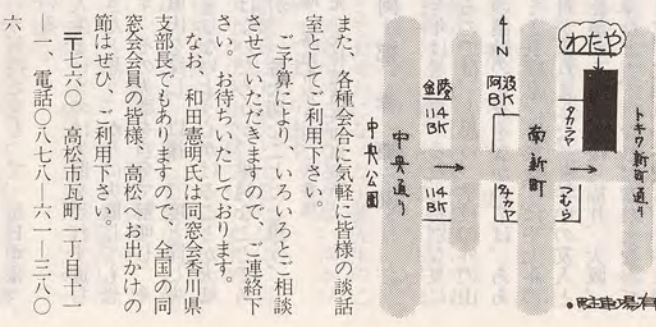
同窓生のお店拜見 藤井 享(32)



高松といえは、いまだらくどくどくというでもないと思います。四国の玄関口として、どちらかといえは通過都市のイメージがあるのではないのでしょうか。高松は、もともと松平の領地であり、水城でも有名であることはご存知の通りです。古い人には、高松高商のあったことでも懐かしい土地でしょう。また、あのシンコシコとした讃岐うどんが全国的にも有名であることはいうまでもないことではないでしょうか。

高松・わたや

同窓生のお店拜見 和田憲明(38)



ラスを一クラス程度編成し、教授、学生、就職部が三位一体となって、全員、一流企業への入社をめざす。

(六) 現行の入学試験制度の一部改定

〇三教科四百五十点満点から、英語の配点を二百点とし、五百点満点とする。

〇選択科目の中に、新たに「数I」を加える。

(七) 野球、サッカー、ラグビー、柔道部をめぐり優秀な受験生には入学試験の得点に五十点を与え、入学しやすくする。とくに野球部は「関六」で優勝を争える人材が必要と思います。

以上、生意気なことを個条書きにしてみました。母校を愛する一人のOBの愚見が、理事会、教授会等で少しでも参考になれば幸いです。

柴田隆文 (39)

一、長い独身生活にピリオドを打つべく、もっかゴルフ目ざして奮闘中です。

二、同窓会館のようなものが出来ればよいと思います。

三、旅行研究会の同期生(近藤、石田、古橋、杉井、伊豆田)と同じクラスの友人(志水、大場)とは、それぞれ年に数回ずつ会っています。「旅研」の先輩原田さん、後輩の中井君、尾石君お元気ですか。四、五十五年の母校の野球の試合を

観戦する機会がありました。活躍ぶりもさることながら、マナーのよさにも感心しました。伝統ある母校に改めて誇りを感じました。大経大の負けじ魂を發揮してこれからも頑張ってください。

津野 哲 (39)

「実社会にあつて思うこと」

六月、水無月、紫陽花の花は色の変化を見せて、雨の多い季節に目を楽ませてくれる。また、土佐はいま鯉料理の最もおいしい季節でもあつた。

私は、昭和四十八年三月卒業し、土木業である現在の会社に入社した。同五十年九月、高知に赴任し地方の最先機関の一事務係として、現場の経理全般、役所入札、その他の雑務であるが楽しい張りのある日々を過ごしている。しかし、私が入社八年目で、今の仕事がいやになるまで、自分に思えるようになるまでは、自分なりに挫折や失敗を繰り返して、上司や先輩に随分めいわくをかけてきたように思う。皆様はいかがなものであつたらうか。

私は現在の自分の職業について、これは不思議なものと思つていて、かつて幼少のころからほんの最近である二回生ごろまで、自分はこのような職業につきたいといふべく然とした考えしか持つていなかった。し

かし四回生になって、自分が職業をいざ決定するときには、今までとまるで違つた考えが支配するようになつた。

憧れでなく、他人に対する見栄でもなく、享楽でもない。それは堅実的、現実的、かつ永久的であるものを希望した。今考えれば自分でも驚くほど、短期間に将来の職業観が変化したものだと思ふ。しかし、男子が将来妻子を養わなければいけないと思えば、当然であつたかも知れない。幸い現在の会社に無事入社が決定した。

しかし、希望に燃えて入社したのもつかの間、社会という大海の波は、自分にとつて想像以上にきついものであつた。たとえば、まず上司、先輩との人間関係で苦労した。学生時代は、友人にしろアルバイト先でも、たとえ先輩の人達に対しても、フランクに無責任に話したり、行動していたように思う。だが、実社会での組織の中にあつては、無責任な言動は許されぬ。希望をもつて入社した会社が、このように窮屈なところでは、将来すつと勤務できるだらうかと不安にかりたてられ、精神的な落ち込みにはいつたものであつた。

いま考えれば、自分が世間を甘く見ていた当時の自分の愚かさを腹立たしく思うが、そのときは大変悩んだものであつた。今は、入社当時の失敗やミス、たとえば仕事上での上司への報告や、単純な計算ミス、書

類の不備などを二度と繰り返すまいという気持ちをもつて、毎日頑張っている。

人生というのは失敗を恐れず進むべきだと思ふ。かりに失敗しても恐れず、その失敗を自分で説明し、その原因を探し、以後、二度と同じ失敗をしないよう心がけることが大切ではないだらうか。単純なことであるが、一番大切なことだと思ふ。

阿部 孝康 (40)

今年暑い夏、それも特別な夏になるのでは、と思ひ、学校の外の山々の濃緑の木立をながめては、ああ……と長嘆息。卒業後、はや七年の歳月が流れました。在学中の友人とも距離があり、愛媛、福井、大阪、岐阜などと、はなればなれとなつています。北和気小学校も、小さな田舎の学校です。柵原町という硫化鋼の鉱山がある所です。盛時は昭和二十年代ということですが。現在は規模が縮小されております。

大学では英語や語学をまじめにやろうと思つていたせいか、妙に最近トルマン・カーポッティの小説を想い出すのです。英語の岩田先生の足にかじりついて……というところかと思いますが、最前列でカーポッティの小説を訳していたこと。そして、それが犯罪小説なので、最近の世相を思い、教育現場には妙な観にう

たれるのです。友人だった藤田直巳君は、本当に良き友人で二人でよく話したものでした。

しかし、田舎ではありませんが変化も徐々におこっています。Uターン組も増えました。農業もずいぶん分かつたようです。愛媛の羽座川君や越智君も、何を考え、何をしているのかと、また長嘆息。そして、大学時代の様々な青春のあり方にも、また未熟だったし、狂気に走りがちだった

旧正を迎えたと申せ、未だ寒さの去りませぬ折柄、ご健祥にてご活躍のこと大慶に存じあげます。

本日はご丁寧なるお知らせをいただき、有難く感謝申し上げます。

早速お申し越しのありました、会報、学友会誌、氏名録を簡易書留でご送付申し上げます。貴台をはじめ、渡辺、世良両君にも大変なご努力をいただき、我等の同窓会も大発展をきたしているご様子、感謝にたえません。私など他地方に住むものは何のおてつだいもできず、おはずかしい次第でございます。年月のたつのは早いもので、私も卒業後、兵役やら、満洲電電勤務やら、終戦後は広島大学の事務長やらを勤め、昭和五十二年四月には定年退職をし、今は六十六歳になつてしまいました。

若い時から好きであつた油絵を四十五年も続け、今は専ら、そのことにのみ専念して日々を過ごしていま

もっぱら油絵に専念

す。卒業写真には私の写真が同窓生一同よりも数多く載つていましたが、満洲に持参していたため、終戦後持ち帰ることができず残念至極でした。今は亡き学友をしのぶこともできません。幸いにも、教練を教えてくださいました渡辺君やら、何かにお世話をいただいた世良君など健在で、大変喜ばしく思つています。今年の広島支部総会は是非出席致したいと思つてい

ます。家の内をよくさがして、昭和商高に関係のある品を見付けました時はお知らせいたします。

ご自愛專一に、何時までもご多幸の程お祈り申し上げます。同窓生の皆様にも何卒よろしくお伝え下さい。

(昭和五十六年二月六日)

山本正俊 (3)

れないかと涙する気持ちの昨今。しかし、苦難をのりこえるつもりです。大学で過ごした思い出を大切に。

佐々木 清貴 (40)

経大を卒業して七年。そろそろ中堅と呼ばれる身。会社では唯一一人の経大OBとして頑張っています。野球部の関六最下位。入れ替え戦での敗戦。非常に残念です。早い復帰を願っています。私は、昨秋の対立命戦、今春の対関大戦、対商大戦の応援に行きましたが、在校生諸君の応援が非常に少ないように思われました。

倉辻ゼミのOB会である倉春会にも、欠かさず出席させていただいています。

最後に、母校と同窓会の発展をお祈りします。

野尻 廣見 (40)

一、卒業して七年。自動車部品製造のメーカーで中堅として毎日やっています。経大卒の人、近くに来られましたらお立ち寄りをお願いします。

二、経大卒の同窓会が島根県では発足していません。経大島根支部誕生の動きわかりませんか。

井上 温雄 (41)

はやいもので経大を卒業して六年になります。

現在、倉敷市に住んでいます。入社以来、經理の仕事とコンピュータの端末処理にと、日々頑張っています。しかし、この情報化時代より高度な専門知識の吸収にと努めている今日このごろです。

昨年は園田ゼミOBによる園輝会の発足に参加させていただきました。先輩後輩の人々と親しく語り合うことができうれしく思っています。今後さらにこの会の発展することを願っています。

大津 博文 (41)

毎日うつつという日々が続いておりますが、校庭の水たまりに落ちる雨の輪をほんやり見ていると、ふとゼミでお世話になった玉置先生のこと、同窓生のことなどが思い浮かびあがつてまいります。

新聞等に大経大と出るたびに、目をクリクリさせて見ておりますが、野球部が関六リーグに入られた時はわがことのように喜んでおりました。が、先日新聞で、関学に敗れ、おしくも二シーズンでリーグ落ちしたことを知った時は「残念だ……」の一語でした。

今後とも頑張っていたら、再度、部長、監督を胴上げしてもらいたい

とき、二月二十一、二十二日。次は、全員それぞれの近況を含めた自己紹介やら今日欠席者の消息等を語り合う頃には、お互いに三十八年はすっかり若返り、益も

盃交わし思い出に浸る

九期生会 有馬で感激の同期会

大に、かつ、和やかに開催。会は、地元三木市の北井君の大阪弁の名司会で進行。まず、故奥村教授に黙禱、寺尾教授をはじめ一同が次々と追悼のエピソードを開陳した。つづいて、母校、ならびに同窓会の報告を賜る。

上新庄、瑞光寺、淀川の渡し辺りの光景が彷彿として脳裏をかきむしる思いがして、会は最高潮に盛り上がった。有馬のにごり湯に浸り、また、飲み交わしつつ、心ゆくまで語りあかした出湯、有馬の感激同期生会の一夜であった。

明けて帰路、神戸は花隈界わい、料亭「鈴江」でまたまた特別昼食会。この会に生き甲斐を、と語った武川君はじめ幹事諸兄に深謝しつつ、再会を約して、大経大の万歳を三唱。最後までお付き合い下さった寺尾教授に握手をいただき、それぞれ新幹線も、上り、下りへと散会した。

(佐藤常十郎記)

ものです。

喜多條 忠信 (41)

経大に入り、そしてクラブに入り、最初の合宿の夜に酒を飲んで二日酔いを知りました。以後、会社に入っても二日酔いの味が忘れられない日があります。今日仕事を終え、自分なりに満足して帰りにいっばいやる、なんともいえないうまさです。

今はそれぞれの生活があり、あまり集まる日が少ないのですが、でも

一報すればすぐに集合。そんな仲間とやる、これが一番。

「仲間」。その裏には厳しい厳しいルールがあります。これを忘れると酒がますますなります。これからもうまい酒を飲みたいと思っているこのごろです。

香西 一徳 (41)

初夏の候となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。昭和五十年三月に卒業し、はや七

ます。

大本 勇隆 (42)

四年間の学生生活はあつという間に過ぎ、出身地に帰り、それなりに期待して地元の建設会社に入社してもう六年目。

夢と現実の壁は厚く、幾度となく挫折しそうになりながら、やっこの頃、仕事に対する意欲がわいてきて、今、頭の中にあることといえは仕事のことばかり。それでも結構、楽しい生活を送っています。

時々、大阪、東京方面にも出張しますが、車窓から母校を眺めるたびに、何んともいえない懐かしさが込みあけて来ます。

私にとって、初めて親元から離れて過ごした地であり、思い出多い第二の故郷として、いつまでも脳裏に焼きついていきます。

小林 秀夫 (43)

卒業して四年になります。中野荘ではお世話になりましたボクシング部の識田先輩、河野さん、曾我部さん、藤井さんお元気でしようか。私は信州の片田舎で日々頑張っています。こちらにお出かけのときは、ぜひ二報下さい。

青木 孝文 (43)

現在、私は、生まれ育った大阪を後にして、昨年から母親の古里、香川県に参っております。この地において骨を埋める所存です。

私の夢は、学生時代から持ちつづけております。ボディビル人口を増やすことです。会社までの通勤はクルマで約一時間余り。夜は高松のトレーニングジムで汗を流しています。

新庄 治 (41)

早いもので大学を卒業して六年目になります。私は地元(尼崎市)の信用金庫に就職し、現在は本店(外国部準備室)に勤務しています。

仕事にも慣れてきたところで、今回、新しい仕事をする事になりました。とにかく新しい仕事というところで全力を注いで頑張っています。学生時代とは違い、やっただけの仕事には責任があり、甘い気持ちには許されません。これから重要な時期になってきましたが、時間を大切に、積極的に自己啓発を行っています。生活を充実したものにしたいです。趣味を持ち、また、休日ではできるだけ屋外で汗を流すようにしています。また、年一回の長期休暇は、旅行に出かけることにしています。

仕事もレクリエーションも積極的に参加し、生活をエンジョイしております。

大いに個性を発揮し、希望のある人生を自らの手で切り開いていけるよう努力していきたいと思っています。

奥村 博和 (42)

皆様がいかにお過ごしですか。私は五十一年に卒業してはや五年が過ぎ、学窓に学んだ日々をなつかしく思い出しております。私の場合

みなさまもお体に気をつけて、たまにはスポーツで汗を流すことをお勧めします。

門口 公彦 (43)

卒業して五年になります。学生時代のことをよく思い浮かべます。北海道へ行って旅行を楽しんだことや、(僕たちの次の代で園田ゼミは廃講になり、寂しくなりましたが)サブゼミをして、一緒に勉強した仲間のことを思い出します。また、同窓会へ行つて、先輩の人と溶け込んで楽しく過ごしています。

福井 康順 (43)

就職して、はや四年。振り返ってみれば、ついこの間のように思われるが、在学中の友人は結婚など、立派に成長されているようで、うかうかできません。

現在「そうしんマン」として預金集めに奔走していますが、成績ばかりに固執することなく、いろんなお客さんと接触できるこの機会を、人間形成に役立てていきたいと思っています。

しんどいけど、みんな頑張ろう！同窓会のみなさん、日々、ご苦労さんです。

は、昼は公務員として、夜は経大の学生として、そのうえ在学中に結婚をしたので、満足な勉強はもちろん、満身に講義も受けることができます。また、友人も少なかったことを未だに心残りに思います。

しかし、今は一男一女の子供たちも成長し、忙しい毎日を送っています。こんな私ですが、大学を去られた小山賢一先生をはじめ、数少ない友人たちとも年を経ることに疎遠となり、現在では所在すらつかめない状態にあります。今後は本年発行される同窓会名簿により、改めて友人たちとの親交を深めていきたいと考えています。

伊達 正二 (42)

現在勤務しているマルオ被服(ビッグジョン)には、大経大の後輩が今年一人入って二人になりました。新入社員の見学時には、やはり何かなりのような親近感を覚え、頑張れよと心の中で励まします。

また、昭和十七、十八年ごろ卒業された大先輩の栗原さんがおられることが最近わかり、私も頑張らなくてはと、地味で堅実にいこうと思っ

梶本 勉 (43)

卒業後二年間の銀行勤め、そして現在、小学校の教師をしております。コンピュータ相手から子供相手と仕事の内容も一八〇度の転換。小さな子供に囲まれて送る生活は、はりがあり充実しております。子供たちと毎日生活しているせいか、学生気分がぬけず困っています。

さて、経大のことですが、私は他大学の発展に比して、ワントンボ遅れているような気がします。早期に総合大学化を図るとともに、経大という名に愛着はあるのですが、逍遙歌にある「城北」などの名を使った大学名に変更し、イメージアップを図る必要があるのではないかと思います。

内池 治幸 (43)

七組の同級生、矢尾里志君、堀君、安枝君、和田君、元気でやっていますか。

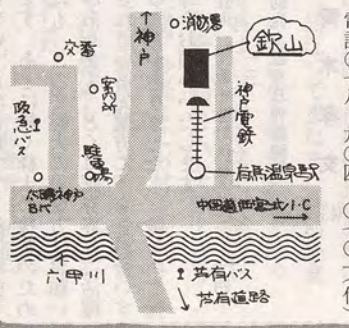
岡本正先生、三田君ほかゼミの諸君ご無沙汰しております。はいいもので、経大を卒業して四年余りになりました。私も今年のはじめにやと結婚し、第二の人生を歩みはじめました。経大や大阪の風景が懐かしく思えるきょうこのごろです。

高田 秀俊 (43)

大学時代は今思ってみると、一番何でもやれる時期であったと思ふ。勉学のほうは怠惰であったが、社会に出るまでの「何か」をつかんだと思える。もっとやっておきたいことがあったが、楽しい学生生活でした。小生は卒業後四年目にはいり、仕事も落ち着いてきました。生涯のパートナーはいつの日か？ 先行きは真つ暗です。地元にうずまっています。同窓会本部ならびに支部、ゼミの隆盛会、友人の皆様のご繁栄を祈っております。

有馬・欽山

同窓生のお店拝見



ぎやかにと、皆様のお越しをお待ちいたしております。幾千、幾万の人に愛され、親しまれ、はぐくまれ、たっぷり楽しめる温泉、有馬ゆつくりくるげる「欽山」。同窓会会員の皆様「百聞は一見にしかず、ぜひ、一度「欽山」にお越し下さい。神戸市北区有馬町二二〇二四 電話〇七八一九〇四一〇七〇二一代

最後になりましたが、母校の発展ならびに「澱江」の発展をお祈りいたします。

来代 貢 (44)

卒業してはや三年以上になってしまいました。卒業後二年間は職が定まらず、不安でありながらも、一つの目標に向かって充実した毎日であったように思えます。その目標が達成された今、忙しさの中に埋もれている日々が続いています。

津木 満史 (44)

大阪経大を卒業してはや三年がたちました。この四月には転勤となり、二校目の県立高校で事務職員として勤務しています。まだまだ若いと思っておりますが、高校一、二年生にいたっては、昭和四十年代生まれが入学してきており、いままらにして月日の早さを感じています。

ところで、昨年の暮れ、稲原ゼミの仲間だった森(保)、玉野井、山西、森(淳)、伊藤とでささやかな同窓会をし、それぞれ人生は異なりますが、学生気分にもとって、うまい酒を飲み交わしました。

最後に母校と同窓会のますますのご発展をお祈りします。

金子 実 (44)

卒業してはや四年目を迎えようとしています。

学生時代と違い、実社会での仕事は、いったん慣れると単調になりがちで、一年あるいは一カ月のサイクルで繰り返されることが大半です。講義のとき、眠いときもあつたが、毎日新しい知識を吸収していたとき、また、それができていたころがとて

千鳥会 小雪舞う山陰へ親睦旅行

昭和五十六年一月十七日(土)、例年になく豪雪により山陰線不通

かと伝えられるなか、幸いにも当日雪もおさまり、我々千鳥会の親睦旅行は予定通り行われることになった。めざすは雪の城崎温泉。国鉄三宮駅集合、車中より大いに話がはずむ。

ホテルでは飲むほどに、酔っほどこに会はずます盛大となり、おさまりのカラオケ大会で最高潮となった。とくに野間君の歌は抜群で、すばらしく、拍手かっさいを受ける。翌日は一同揃って日和山

へ向かう。

海女とイルカなどの実演を見物、小雪降るなか山陰の情緒を楽しみ、和気あいあいのうち次回の再会を約して帰路についた。当日の参加者は城、奥村、坂本、野間、寺田、岡本、木村、長谷川の諸兄と小池の九名であったが、大いに親睦を深めることが出来たと思ふ。

最後に、大経大の同窓会のみならずのご発展を祈念して簡単ながら便りいたします。

小池幹夫(24)記

西 隆司 (44)

在学中はゼミで貿易経営論を学んでいましたが、実際に自分が貿易関係の仕事に進むとは思っていませんでした。こんなことならもっと勉強しておればよかったと、後悔しています。

今でも、同じクラスだった中筋健史君や中江孝二君と、釣りに行くこともあります。友人達の活躍ぶりや慶事などを聞くとうれしく思い、自分も頑張らなければと思っています。

福本 行和 (45)

卒業してはや二年余日。現在小学校の教師として充実した毎日を過ごしています。

朝のあいさつに始まり、キラキラ光る瞳に接するとき、この子供たちの将来のために誠意ある学習を、心掛けています。再び訪れることのない青春の甘美と、大学の講義のはざまを彷徨した学生時代が、今なつかしくよみがえります。せめてこれからは、子供たちとともに悔いのない日々を過ごすよう努力し、勉強していきたい。

近 篤 (45)

同窓各位の皆様にはますますご健勝のことと存じます。さて、私も卒業してはや三年目

宮越 健夫 (45)

現在、県税徴収の仕事をしてますが、仕事の性格上、いろいろな人と接するので難しい面も多いですが、大変よい勉強になっています。

また、同じ課に経大出の先輩がおります。初めての職場で経大出の先輩に出会うとは、自分でも驚きました(県庁には経大出身者は少ないのです)。

今思えば、クラブ活動(簿記会計研究部)を通じ、多くの友人を得たこと、何でもやればできるんだ、という自信を得たことは、非常に大きかったと思えます。最後にになりましたが、一層の発展を期待いたします。

学 歌

作詞 秋本吉郎
作曲 柴田南雄

1. 大淀の

水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑が沁みる
この若さ
希望は明るい 蒼穹かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学

2. 大樟の

蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負いもちて
諸汗に
確かと植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

学 園 歌

作詞 黒正 巖
作曲 水野康孝

1. 商都の東北灘江に

我等が昭和学園は
担うて進む若人の

臨みて高く聳り立つ

産業日本を双肩に
力の糧の広野原

3. 黒煙天をひた蔽ひ

静かに臨む学園は
生命を注ぐ若人の

船車どよもす八衢を

科学日本の究明に
心の花の咲く園生

逍 遥 歌

作詞 中村行男
作曲 松川圭一

1. 此处 城北に迎えたる

紺碧淀の春の夢
惜春の賦のただよえば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

2. 水や濁れる人の世に

真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わるまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が青春を

澱 江 1981

- 発行日 昭和56年10月5日
編集 澱江特別編集委員会
発行所 大阪経済大学同窓会
〒533 大阪市東淀川区大隅2-2-8
電話 (06)328-2431~3
印刷 共成社印刷株式会社
〒530 大阪市北区中崎西2-6-17
電話 (06)371-0254

石岡 一彦 (46)

一、卒業後一年、学生時代とは異なる責任ある一社会人として、四苦八苦の毎日、楽しかった学生時代を思い出しながら頑張っています。
二、若輩のOBが出席しやすい同窓会を希望します。
三、現役教授が大学におられる曜日を「澱江」にのせてほしいと思います。
面会に行きやすいので……

武藤 樹 (46)

この間、大阪支店の商品管理部を振り出しに業務を経験し、十月末神戸支店業務として現在にいたっています。一年を経た今でもまだ、見ることも、聞くことの中で勉強しなければならぬことが多く、多忙な毎日です。
同窓の仲間からの連絡もなく、一度、話をしたいと思いつつ、その願いもかなわないままになっています。また機会があれば一報下さい。

古山(保崎)明美 (46)

卒業一カ月後に結婚。そして今年四月に男の子が生まれ、育児におわれる毎日が続いています。なんだかんだとあわただしく月日がたち、近ごろやっとな経大四十五回卒業生の夫

と、大学での思い出など語ら

ら、学生時代を懐かしんでおります。在学当時は剣道部に籍をおき、勉強もそこそこに、毎日男子部員にまじって竹刀を振り回していたおてんば娘も、一児の母となり、二度とない青春を悔いなくおくれたことに満足しています。
これから子供を教育していくうえにおいて、私のなかに剣道部での厳しい練習を乗り越えてきた自信があるということとは、何よりも意義のあることだと考えております。

中垣内 敏博 (46)

同窓会の運営「苦勞さんです。毎年、新阪急ビルでの総会に出席したいと思っておりますが、仕事の関係などで出席できません。また、地区別でこのような催しがありましたら、ご通知下さい。奈良県の総会などがあれば、またお知らせ下さい。
私たちといっても、ゼミ仲間と同窓会のようなことを、二回目ですがよくやっています。ゼミ仲間の近況住所などがわかりにくいので、できればゼミ別で名簿を作成してもらえればと思います。中退した友人もおります。その点よろしく願います。

中山 正樹 (46)

一、今年になって会社を変えました。新しい職場は、新コスモス電機というガス漏れ警報器のメーカーです。職種は資料購買で、最初は自分には向かないと悩んでいましたが、五カ月たった今、自分に合った職種のように思えてきたから不思議です。入社してからわかったことですが、今の会社には「上所さん」という経大OBがいました。

二、幼友たちの森本式英君とは偶然、大学も同じ、ゼミナールも同じという巡り合わせで、大学を通して深い友人となりました。週に一度は酒を飲みながら、政治や経済について議論をします。

三、卒業と同時に、上新庄のアパートを引き払い実家に戻りましたが、なぜか、散髪屋さんだけは変えることができず、ふた月に一度は散髪をしに上新庄まで足を運んでいます。いまだに、もしかしたら、上新庄と離れたいという潜在的な気持ちがある散髪をしに行くという口実をついてわざわざ上新庄まで来させるのかもしれない。

編集室

愛校精神の旺盛な先輩諸兄姉のこの熱気、期せずして、創立当時の母校への思い、満載の特別号が昨年なみの頁数で出来上りました。ご寄稿下さいました多くの同窓生に、厚くお礼申し上げます。
鈴木新学長のご就任、かくしゃくたる藤田理事長のご活躍で、大学も大いに刷新気運を盛り上げ、鋭意ご努力を重ねておられますが、母校の隆盛を願うこの同窓生の声を、ぜひこたえさせて、一層のご健闘を祈り上げます。

磯野新会長をお迎えして、同窓会本部も若い役員構成で邁進。コンピュータによる新機軸の名簿も遂に発行。今後とも有効にご活用のご期待しております。

同封のアンケート。業種分類と所属クラブ名の調査を行っております。将来、多角的名簿利用の基礎となるものですから、ご協力の程よろしく願います。
本誌の制作費より高くつく郵送費暖かいカンパによるご支援をよろしく願っています。

澱江特別編集委員会

經市